

滋賀医科大学外科
同門会誌

2022年度

一般社団法人 滋賀医科大学外科同門会

目 次

巻 頭 言

1. 巻 頭 言	谷 徹	1
2. 巻 頭 言	平野 正満	3
3. 巻 頭 言	谷 眞至	5
4. 巻 頭 言	鈴木 友彰	6
5. 巻 頭 言	遠藤 善裕	8
6. 巻 頭 言	藤野 光廣	10
7. 巻 頭 言 (医の仁術と算術のバランス感覚)	山本 寛	12
8. 巻 頭 言	清水 智治	14

山本 明 先生追悼

山本明先生略歴	17
1. 山本明先生を偲んで	平野 正満 18
2. 山本明先生との10年間	田中 久富 21
3. 山本明先生を偲ぶ	山本 寛 23

2021 年度 同門会各賞受賞のことば

1. 同門会賞	飯田 洋也	25
2. 理事長賞	新田 信人	26
3. 奨励賞	梅田 朋子	27
4. 若手外科医賞	仁科 勇佑	28
5. 若手外科医賞	宮下 史寛	29

同門会便り

1. 湖東記念病院	宮下 史寛	31
2. 高知医療センター	脇坂 穂高	32
3. 滋賀もりプレストクリニック	森 毅	33
4. 日野記念病院	仲 成幸	34
5. 京都医療センター	橋本 雅之	35
6. 長浜赤十字病院	塩見 尚礼	36
7. ベルランド総合病院	福尾 飛翔	38
8. 洛和会音羽病院	堀本かな	39

新入会員紹介

淡海医療センター 顧問	萩原 明郎	40
淡海医療センター 院長補佐	戸川 剛	40
淡海医療センター 一般消化器外科、肥満治療センター	大江 康光	41
東近江医療センター 外科	永井 望	41
神戸徳洲会病院 心臓血管外科	川平 敏博	42
滋賀医科大学 心臓血管外科	神谷 賢一	42
滋賀医科大学 心臓血管外科	松林 優児	43

淡海医療センター 心臓血管外科	三輪 駿太	43
滋賀医科大学 呼吸器外科	益本 貴人	44
滋賀医科大学 呼吸器外科	渡邊 敦子	44

教室業績

滋賀医科大学外学講座 (消化器・乳腺・小児・一般外科)	45
滋賀医科大学外学講座 (心臓血管外科)	59
滋賀医科大学外学講座 (呼吸器外科)	62
滋賀医科大学総合外科学講座	65
滋賀医科大学革新的医療機器・システム研究開発講座	67
滋賀医科大学看護学科臨床看護学講座 (クリティカル)	69
滋賀医科大学医学部附属病院 医療安全管理部	70

関連病院業績

1. 赤穂市民病院 外科	71
2. ヴォーリズ記念病院 呼吸器外科	71
3. 宇治徳洲会病院 外科	72
4. 淡海医療センター 呼吸器外科	74
5. 淡海医療センター 一般・消化器外科	74
6. 岸和田徳洲会病院 心臓血管外科	75
7. 京都医療センター 呼吸器外科	75
8. 甲南病院 外科	76
9. 公立甲賀病院 呼吸器外科	77
10. 湖東記念病院 心臓血管外科	78
11. 滋賀病院 外科	78
12. 滋賀病院 乳腺外科	79
13. 新古賀病院 消化器外科	80
14. 高井病院 乳腺外科	80
15. 第一東和会病院 内視鏡外科センター	81
16. 武田総合病院 呼吸器外科	81
17. 日本医科大学付属病院 消化器外科	82
18. のじまバスキュラーアクセスクリニック	84
19. ベリタス病院 消化器・一般外科	85
20. ベルランド総合病院 外科	86
21. ベルランド総合病院 乳腺センター	87
22. 三菱京都病院 呼吸器外科	87
23. 南京都病院 呼吸器外科	88
24. 横浜総合病院 心臓血管外科	89
25. 洛和会音羽病院 呼吸器外科	90

一般社団法人滋賀医科大学外科同門会

1. 役員一覧	91
2. 定款	92
3. 賛助会員一覧	95
4. 広告掲載ご協賛	96

卷 頭 言

- | | |
|-----------------------------|-------|
| 1. 一般社団法人滋賀医科大学外科同門会 理事長 | 谷 徹 |
| 2. 一般社団法人滋賀医科大学外科同門会 副理事長 | 平野 正満 |
| 3. 一般社団法人滋賀医科大学外科同門会 理事 | 谷 眞至 |
| 4. 一般社団法人滋賀医科大学外科同門会 理事 | 鈴木 友彰 |
| 5. 一般社団法人滋賀医科大学外科同門会 理事 | 遠藤 善裕 |
| 6. 医療法人 総心会 長岡京病院 院長 | 藤野 光廣 |
| 7. 医療法人社団仁生会 甲南病院 院長 | 山本 寛 |
| 8. 滋賀医科大学医学部附属病院 医療安全管理部 教授 | 清水 智治 |

◆ 巻 頭 言



一般社団法人 滋賀医科大学外科同門会 理事長
滋賀医科大学 革新的医療機器・システム開発講座 特任教授
谷 徹

COVID-19 の話題に触れざるを得なくなって4回目の巻頭言になりました。会員の皆さんは如何お過ごしでしょうか、変わらずにご活躍でしょうか？整備が整ってきました本会連絡に驚かされるような情報はありませんので、一先ず安堵して居ります。

連綿と続く感染に繰り返すウイルスの変異、それに伴う感染増大が先の見通しを悪くし、社会の不安を払拭できずに居ます。我々の同門会の新年会開催一つ取って見ても、開催法が決められません。New Normal と名付けられた生活とは、こんな筈ではないと誰もが考えながら、先に進められずにいます。このような状況下に、対面集会を開けずにいる外科同門会がどのように活動しているのか、果たせる役割として何があるか、同門会活動を支えていてくれる若手の方々と課題をまとめ話し合いました。理由が明確でなければ、対策も立てられないので、特に最重要課題である、外科興隆の基礎をなす外科医を増やすための支援と本課題の原因について確認をしたので、他の課題と合わせて報告します。

先ず、長年懸案となって居ました同門会の仕事をする事務官が置けなかった件は、皆様の協力と遠藤教授の協力の下、仲 成幸事務局長の働きで解決し、この4月から専門の事務官として藤生貴子氏が担当して下さる事になり、事務の対応やホームページ管理のスムーズ化が期待されます。

次は外科希望者減少と言う根幹にかかわる課題です。一般外科の素養は、通常業務でも大きなウエイトを占める重要な専門科である。この外科に進もうとする医師が少なく将来も減少するとの予測があります。しかし外科医はコロナのワクチン接種担当でさえも、内科医の次に期待され、災害医療では災害チーム（DMAT）に次いで、出動が期待される、有能で、活動力があり、期待され誇りの持てる専門医であります。将来も外科医の仕事はロボットやITで代行できない数少ない専門として残ります。

近年、自然災害やパンデミックを経験し、戦争が起こっているのを目の前にして緊急時医療の重要性が国民的にも実感されている現在、更に緊急事態に役立つ外科医の重要性も期待度も強くなっています。

何ゆえ外科医を目指す医師が少ないのか？新設大学である等の特殊理由なのか、根本的に外科医への魅力がなくなっているのか。意見を集約すると、過去との比較からすれば、希望者は減っている。地域で見ると限られた大学以外、入局者は最低限レベル。このように集約されました。

従って外科医を増やす活動は ①外科医の喜びや誇りをアピールする。②良い外科医を大切に育てていることをアピールする。この2点に尽きるとなりました。

上記活動を遂行するには潤沢な資金があればできる事は多いが、現実はそうはいかない。そこで、学生や、研修医が外科手技のトレーニングに使う器具で、臨床で使えなくなったものを寄付して頂く案が浮上した。実際に実行できるか不明だが、的を絞って塾考すれば解が開けるかもしれない事が実感されました。

8月には懸案であった、同門会の事務員を持つことと未納者の扱いを仕上げ、課題を前以て検討して理事会を開催できると思います。

◆ 巻 頭 言



一般社団法人 滋賀医科大学外科同門会 副理事長
社会医療法人誠光会 淡海ふれあい病院 病院長

平野 正満

早いもので Covid19 の世界的パンデミックから 2 年半が過ぎようとしている。この間、私たちの生活だけではなく、医療体制や社会構造、国民の病気に対する考え方も大きく変わってしまった。病気を治療薬で克服してきた人類にとって、薬がなければ身を守るため感染から逃れるしかない。欧米や中国はロックダウン、日本は緊急事態宣言で乗り切ろうとした。自由に移動し、人との交わりの中で活動、生活してきた私たちにとって初めての経験となった。果たしてそれが成功したのか疑問も残るが、少なくとも日本の医療体制は後手に回った感は否めない。実際、私たちの周辺でも医療崩壊が起こっていた。Covid19 などの新興感染症は今後も続くことと推測されるが、人類にとって忘れることのできない史実になったことは間違いない。

私たちの同門会活動にも少なからず影響があった。2020 年、2021 年、2022 年と会員が一同に会する新年会（懇談会）は開催されなかった。顔を突き合わせて話す場がなくなり、会員の動向を知る貴重な機会がなくなってしまった。理事会や社員総会はハイブリッド形式で開催されたが、マスク着用の短時間の会議となり、オンライン参加の先生方には盛り上がりには欠けた形式的な会議に感じられたと思う。

この間も同門会には大きな動きがあった。2021 年 4 月から谷 徹先生が新理事長に就任された。加藤弘文先生には 2018 年 4 月から 3 年間、理事長としての重職を全うしていただき、同門会の発展に寄与された。Covid19 の蔓延により運営にはご苦勞も多かったと推察されるが、改めて感謝申し上げたい。会員数は 2022 年 1 月の時点で 312 名であったが、9 名の新入会者があり、発足以来最多の会員数となっている。いきなり会員数を増やすことは難しくても、学内外での学生や研修医の継続的な勧誘と外部への同門会の特徴や強みの発信が重要となる。会員の個々の活動を支援し同門会として結束力を高めていきたい。2019 年 11 月に岡田慶夫先生、2020 年 12 月に柴田純祐先生、2022 年 2 月に山本明先生がご逝去された。同門会の発足から長年にわたりご活躍いただいた重鎮の方々であり、謹んで哀悼の意を表したい。時代は着実に変わってきている。次世代の私たちには先輩の教えを礎に、滋賀医科大学外科学講座と同門会の充実、発展に尽力することが求められる。

外科同門会の事業目標には、学術振興や外科学講座の拡充、さらには人材確保や地域医療機関との連携強化があげられている。学術振興の中では能力開発推進事業として会員の優れた論文に副賞付きの表彰を行っている。同門会賞や理事長賞がそれに当たるが、最近レベルの高

い論文ばかりで、IFが5を超えないと受賞も困難である。2021年の表彰の2論文は臨床データの詳細な分析から新たな知見を導き、外科的治療戦略の構築に貢献した。また、特筆すべきは滋賀県女性医師ネットワーク会議を主導し活躍されている梅田朋子先生が奨励賞を受賞されたことである。論文発表に限定せず社会的業績にも評価の対象を広げたことは、既に多くの会員が多様な領域で活躍していることを反映している。是非、それぞれの地域で地道に活動されている多くの先生方も対象とし、会員の意識向上と同門会の活性に努めていきたい。そして、次はあなたの番かもしれません。

外科学講座は旧第一外科が1975年、旧第二外科が1976年に開講している。また、それぞれの外科学講座が統一され、外科同門会として発足したのが2003年である。間もなく、旧外科学講座が50年、外科同門会が20年を迎える。節目となるメモリアルイヤーには同門会の歴史を振り返りながら自分の足跡を懐かしむ機会にするとともに、将来を見据えて思考、議論することも重要である。半世紀を経ようとしている外科学講座や同門会の歴史を見える化し形として残すことは重要で、まさに私たちの責任であると自覚している。

◆ 巻 頭 言

一般社団法人 滋賀医科大学外科同門会 理事
滋賀医科大学 外科学講座（消化器・乳腺・小児・一般外科）教授

谷 眞 至



同門会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は外科学講座の活動にご理解をいただき誠に有難うございます。今後とも、ご指導ならびに倍旧のご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

1年を通じて多くの出来事が起こり報道されています。ただ、今年はいつもとは違い、報道されるニュース（正確に言えば私の耳に入ってくるニュースかも知れません）の多くが悪いニュースのような気がします。新型コロナ、戦争、物価、円高、滋賀医大学生……。本当に気分が沈むようなものばかりで嫌になってしまいます。同門会員の皆様方はどうでしょうか。

今年は寅年です。トラというと「虎」を使用するのが一般的ですが、十二支では「寅」を使用します。この「寅」という文字には「まっすぐに伸ばす、引っ張る」という意味があり、家の中で矢を両手でまっすぐに伸ばす様子を表しているそうです。家を表す「宀」に、「矢」、ひきとめるという意味の「𠂔」を足して「寅」という文寅年は春が来て根や茎が生じて成長する時期、草木が伸び始める状態だとされています。中国の漢書では、「寅」は草木が伸び始める状態を表すと解釈されています。谷 徹理事長の同門会が伸びていくことを表しているのだと思います。同門会員の皆様が、虎視眈々とチャンスをうかがい、やると決めれば騎虎の勢いで攻める年になればいいなと感じます。そして、虎の子の若手医師を大事にしていただければと思います。

昨年の巻頭言にも述べさせていただきましたが、最も大事なこと「患者のために何かできることはないのか」を考えつつ時代の大きな波のうねりに乗っていけるよう、同門会会員の皆様のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

◆ 巻 頭 言

一般社団法人 滋賀医科大学外科同門会 理事
滋賀医科大学 外科学講座（心臓血管・呼吸器外科） 教授

鈴木 友彰



毎年、すぐに巻頭言の執筆時期が来ます。似たような内容になってしまいがちなので、そうならないように気を付けて書きたいと思います。

心臓血管外科には3人の入局がありました。角宏明、島田ゆうじ、松岡健太郎です。心臓外科には珍しく、3人そろってノーマルなキャラクターです。明確な意思をもって目標を定め、覚悟を決めて入局してくれました。

そんな3人を見て、今回は初心を振り返りたいと思います。私は、2005年、卒後9年目、32歳のときに三重大学から浅井徹先生の主宰する滋賀医科大学心臓血管外科に移籍してきました。浅井先生が教授に就任して3年目のころでした。教授を含め6人のメンバーがおり私が一番下っ端でした。というのも、ちょうどスーパーローテーション制度が始まったときで、研修医というものがいない空白の期間でした。まだ、悪しき時代の大学病院の制度が残っており、土日の採血やレントゲン移送、臨時の検査検体運び、各種書類などなど、現在ならば看護師さんや助手さんがしてくれている業務が研修医の仕事でした。感覚でいうと、現在はそれらの8割以上を、医師以外の方々がしてくれています。そして、私が移籍してきた頃はちょうど研修医がおりません。そして、私が新入りの一番下っ端です。そして、そうなるとうどうなるかという…。研修医一年目に戻った気分でした。でも、滋賀医大に移籍してきた時の感想は、“仕事が楽だな”でした。なぜそう感じたのか考察します。当直は5人で回していたので5日に一回です。ちなみに三重大学時代は一週間に多くて一回でした、家に帰るのが。また、浅井教授はアメリカでトレーニングしたこともあり、大変効率の良いチーム制を導入しており、お互い助けあい、当直時間帯は当番医が責任をもって対応してくれました。当直日以外はほぼ家で寝ることが出来ました。一方、三重大学時代は完全主治医制です。自分の患者がICUにいる場合、当然ですが、全て自分が見ます。夜中でも。そして自分の患者がICUにいない瞬間などほぼありません。ということは自動的に…、そうなるわけです。一年目のある日、同期の4人でそれぞれの時給を調べてみたことがあります。私の時給は230円でした。

時代は変わりました。完全に変わりました。いい意味で、です、もちろん。20年で信じられないくらい状況は改善しました。先週、新入局員の3年目医師に50万円の新車が納車されました。最近、当直の翌日には、よく、有給休暇なるものをとっているみたいです。この前、うちの若手が、平日に、高級寿司屋のカウンターに座っているのを見かけました。時代が変わ

りました。私も変わっていかなければいけません。今、一生懸命意識を修正していております。
「俺らの若いころはな…」なんてセリフは絶対言わないように努力します。

以上、今年の巻頭言では、自らを戒めるべく初心を振り返りました。

◆ 巻 頭 言

一般社団法人 滋賀医科大学外科同門会 理事
 医療法人 社団美松会 生田病院 院長代理
遠藤 善裕



私は、1982年に本学医学科2期生として卒業後、当時、小玉正智教授が主宰されていた旧第1外科に入局し、消化器外科医として本学で研鑽を積みました。入局後1年目で、米国ペンシルバニア大における海外研修の機会をいただきました。2年目には、臨床か研究かを選択する場に遭遇し、諸先輩の勧めもあり、研修医2年目から大学院に進みました。臨床で、術後肝不全患者を診る機会が多く、治療として血漿交換を経験する機会が多くありました。そのご縁で、後に外科教授に就任された谷徹先生の研究グループに所属し、人工臓器、アフエレシスの研究を行いました。当時、敗血症の治療として、エンドトキシン吸着材料であるポリミキシンB固定化繊維（PMX）の動物実験が、花澤一芳先生を中心に行われていました。花澤先生は、入局時のObenでもあり、研究でも、ご指導賜りました。その後PMXは、1993年に東レよりトレミキシンの名称で上市され、現在でも、日本を初め、世界の敗血症治療現場で使用されており、今なお、それを上回る吸着材はないと評価されています。このように、研究から臨床で成果を示すまでの経過を間近に経験できたことは、私にとり大きな財産となりました。

大学院卒業後、国立療養所松戸病院（国立がん研究センター東病院の前身）で肝臓外科の研修の機会を与えられました。そこで学んだ肝臓や血管の扱い方は、後の、大腸癌手術にも大いに役立ちました。

2000年には、文部省在外研究員として、米国ハーバード大学及び独ミュンヘン大学に留学する機会を得、MRIの治療応用などの研究に従事しました。

アフエレシスの分野は、日本が世界をリードする形で進んできており、1996年には、国際アフエレシス学会が、小玉先生、谷徹先生を中心に設立され、その事務局運営に携わりました。2019年には、大会長として、第12回国際アフエレシス学会と第40回日本アフエレシス学会の合同大会を国立京都国際会館で主宰しました。同門会からも、ご援助をいただいたことに感謝しております。この大会を最後に、コロナ禍に突入し、未だに現地参加の学会は、数少ない状況で、世界から多くの参加者と懇親会で楽しい時間を過ごせたことは、懐かしい思い出となっています。

現在は、研修医時代より長らく非常勤医としてお世話になっておりました医療法人社団美松会生田病院で、院長代理として働いています。発熱外来も分担担当しており、地域医療の切迫

度を、ひしひしと感じています。

本年6月に滋賀医科大学名誉教授の称号を頂戴しました。在職15年が1つの要件らしく、他大学よりも厳しいと伺いました。本学卒業生で、本学の教授は、以前に比べ増えましたが、名誉教授は、未だ多くないと思います。いただいた称号に恥じぬよう今後も、本学ならびに外科同門会の発展に微力ながら尽力したいと存じますので、よろしく申し上げます。

◆ 巻 頭 言



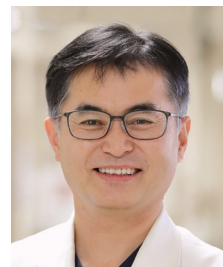
医療法人総心会 長岡京病院 院長
藤野 光廣

同門会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。日々変わらぬご活躍のことと思います。ここ数年は同門会誌でも新型コロナウイルス感染症につき、ふれないではおれない残念な状況となっています。この原稿を書いております7月31日現在、日本の新規感染者数は世界一を続け、長岡京病院の発熱外来やワクチン予約の窓口でも電話が鳴りやまず、障害者病棟の入院治療を中心とした当院ですら（救急指定も受けていないのに）医療崩壊といえなくもない状況になってきました。救急や小児科をご担当の方々ではさらに切実な状況になっているだろうと思われまます。当院のことではありますが、何とかこれまでは院内クラスターを出さずに頑張ってきましたが、2022年5月に入院患者さんのクラスター感染を経験してしまい、正直スタッフ一同消耗してしまいました。院長として、ICDとして各部署の感染対策の指導にあたりましたが、皆の恐怖心を取り去ることに一番苦心しました。昨今のSNSなどの一部フェイクと判断できる情報を理論的説明ではなかなか打破できず、コロナ患者の看護や介護はしたくない・怖いという職員に何度も説明をしまわりました。幸い、比較的早期に感染を取束させることができましたが、いつ何時またクラスターにならないか心配しています。

話変わって、当院は昭和55年に開設され、障害者施設等入院基本料（10対1）の一般病床97床で内科慢性期を中心に運営されています。そのうちの4床を使って、分娩時陰裂傷を主原因とした直腸膿瘍や肛門括約筋機能障害に対する手術治療を行っています。2021年2月1日の長岡京病院新築移転の後は、車で長岡京ICから約3分、大学からも約30分と更にアクセスが良くなりました。2022年7月14日より待望の電子カルテも稼働しています。大学や基幹病院の大手電カルのようにはいきませんが、非常に多岐にわたる機能が装備されていて、技術の進歩の速さを実感しています。新築移転と電カル導入は2020年4月1日私の院長就任にあたっての二大目標でしたので、何とか無事に達成されたことに安堵しております。直腸膿瘍手術・肛門括約筋機能不全手術もこれまで同様精力的に取り組んでおります。日本全国から患者さんが来院されますが、光栄なことに同門の先生方からのご紹介もあり喜んでおります。私自身、2018年8月に赴任して以来、2021年12月時点で現在実施している直腸膿瘍や肛門括約筋機能不全に対する会陰体縫合再建術式の経験数が100例を超え、ぼんやりとしか見えなかった会陰体の輪郭が少し明瞭になってきた感があります。今後は会陰体縫合再建術式の標準化に向け、努力していきたいと考えております。

来年こそはコロナに打ち勝ち、皆で集えることを願いつつ、日々精進していきたいと思います。
同門会会員の皆様のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

◆ 巻 頭 言



医療法人社団 仁生会 甲南病院 院長
山本 寛

医の仁術と算術のバランス感覚

仁生会甲南病院の「仁」には、「他人に対する親愛の情、優しさ」の意味があります。「仁」は儒家によって広められましたが、中国の戦国時代に活躍した孟子は「財産を作れば、仁の徳から背いてしまう。仁の徳を行えば、財産はできない」と説いています。長く日本の統治者であった武士は、積極的に経済活動に参加せず、人を治める者は人々から養われる存在として、養ってくれる民を守る義務があると考えていたようです。

近年、医療機関を取り巻く環境は厳しくなっています。特に、コロナ禍、病院の経営環境は非常に厳しいものがあります。私は、2019年1月、甲南病院・院長補佐として赴任し、翌年1月より病院長として病院の管理を任されております。折しもその1か月後、わが国で、ダイヤモンド・プリンセス号に新型コロナウイルス感染症者が確認され、その後、コロナの蔓延という長いトンネルに入ってしまった。本稿の脱稿時には、第7波の最中に、当院も病棟クラスターに見舞われながら、急増する発熱外来患者さんへの対応にも四苦八苦しているところです。病院経営は、国や県からの補助金なしには立ち行かない状況です。貝原益軒の「養生訓」に著わされている『医は仁術なり』は、長くわが国の医療倫理の中心に置かれてきた言葉ですが、東大病院・病院長の瀬戸泰之先生は、2022年7月の第77回日本消化器外科学会で、「若手医師が将来の夢を描ける理想的な病院経営について」というテーマで講演され、「仁術を施すためには、算術も必要である」と述べられました。当院のような一般病院はもちろん、東大病院を代表とする国立大学附属病院の医師（外科医）にも、今や算術も必要のようです。

私は、滋賀医科大学在職時より、高度肥満症に対する肥満外科治療に携わって参りました。現在、「高度肥満症に対する肥満外科治療の費用対効果に関する研究」を全国の38の肥満症治療専門施設との共同研究として進めさせていただいております。本外科治療の高い治療効果のエビデンスを背景に、医療経済効果を明らかにすることで、効率的な医療資源の配分を図り、患者のQOL・生存率の向上に寄与したいと考えております。医療技術に費用対効果という新機軸を導入することで、医の算術を病院経営のためだけではなく、国民（地域住民）の健康増進に貢献できないかとの思いで、病院にとっては、わがままな研究をさせていただいております。

こんなわがままを容認いただき、これまで、甲南病院・古倉みのり理事長には様々なことを教えていただきました。その一つが、バランス感覚です。甲南病院の病院理念は、「地域の皆様の安心・信頼・満足を得られるよう努力します」ですが、理念を全うするための6つの基本方

針の1つに、「職員の安心・信頼・満足を得られるよう努力します」があります。職員とその家族の生活も守らないといけません。つまり、当院のような一般病院がその使命を果たすためには、専ら仁術では難しいのです。病院経営を考えた仁術と算術のバランスが大切です。これからも、バランス感覚を大切に、医業を努めていきたいと思えます。皆様のご指導・ご鞭撻のほど、どうかよろしくお願ひ申し上げます。

◆ 巻 頭 言



滋賀医科大学医学部附属病院 医療安全管理部 教授
清水 智治

同門会の会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

私は、2020年3月1日に滋賀医科大学医学部附属病院医療安全管理部教授に着任をいたしました。着任のご挨拶と近況報告として巻頭言への寄稿をさせていただきます。

私は1993年に滋賀医科大学卒業後は、小玉正智名誉教授が主宰される旧外科学第一講座に入局し、附属病院や関連施設にて消化器外科学の研鑽を積んでまいりました。1997年より大学院に進学し、谷 徹名誉教授の指導のもとで外科侵襲学に関する研究に取り組みました。2003年より米国 University of Alabama at Birmingham に Postdoctoral Fellow として2年間留学し、出血性ショック後に発生する臓器障害に対する性ホルモンの影響について研究しました。帰国後は、臨床に直結する外科侵襲学として外科感染症、敗血症性ショック、エンドトキシンに関連する臨床研究を継続しています。臨床では、大腸肛門疾患を専門分野とし腹腔鏡下手術の適応を順次拡大していき、2013年からは直腸悪性腫瘍に対するダヴィンチ手術を導入しました。2019年7月より医療安全管理部に異動となり、現在は専従の医師、看護師、薬剤師、事務員の多職種のスタッフと共に附属病院の医療安全と医療の質向上に取り組んでおります。

私が医療安全管理部の教授に着任の時期は、新型コロナウイルス感染症のパンデミックとほぼ同時でありました。滋賀医科大学の医療安全管理部は感染制御部と同じフロアで運営をしております。本学の感染制御部は呼吸器内科の中野恭幸教授のもとスタッフが充実しておりますので、私が感染制御の業務を直接関わることはございませんが、日々、新型コロナウイルス感染症の動向を間近で感じながら医療安全管理に専従しております。当院でのコロナ禍でインシデント報告数の推移に着目しますと、感染の波により感染患者の入院数が増加するとインシデント報告数は逆に減少していました。これは病床稼働率がある一定の域値を超えると元に戻るようです。しかし、感染患者入院によりイレギュラーな病床運営となり、普段はケアしない患者の管理を強いることとなりますので、この点に関するインシデントの増加を認めています。コロナ禍であるといって特別な医療安全管理があるわけではありませんが、患者の偏りによる医療従事者へのサポートが重要であると思っています。また、近年では、コロナ禍以外にも、医療従事者が患者や家族などから暴言や暴力などの危害を加えられる「禍（わざわい）」も多数発生しています。放火や銃撃による生命に関わるような事例のことも鑑みますと、医療安全管理では、患者安全のみならず、医療従事者の安全にも十分に配慮する必要があると痛切に感じ

ております。同門会員の皆様の施設でも、様々な「禍（わざわい）」に対応しながらの外科診療に大変ご苦労されていることと存じます。今年度も皆様の施設で安全な医療が継続されることを祈念しております。

山本 明 先生追悼

山本明先生略歴

- | | |
|----------------|-------|
| 1. 山本明先生を偲んで | 平野 正満 |
| 2. 山本明先生との10年間 | 田中 久富 |
| 3. 山本明先生を偲ぶ | 山本 寛 |

故 山本 明 先生



略歴

昭和46年	12月	金沢大学医学部 卒業
昭和47年	6月	石川県小松市仲井外科病院
昭和54年	4月	滋賀医科大学医学部附属病院 第二外科医員
昭和56年	1月	滋賀医科大学医学部 外科学第二講座助手
平成6年	4月	国民健康保険 水口病院 病院長
平成10年	4月	医療法人友仁会 友仁山崎病院 病院長
平成26年	4月	医療法人友仁会 友仁地域総合ケアセンター長 介護老人保健施設アロフェンテ彦根 施設長 友仁山崎病院 名誉院長
平成30年	4月	医療法人友仁会 友仁山崎病院 名誉院長 友仁地域総合ケアセンター長 友仁山崎病院・総合診療・在宅診療担当
令和3年	3月	退職



山本明先生を偲んで

社会医療法人誠光会 淡海ふれあい病院
病院長 平野 正 満

山本明先生が令和4年2月1日、享年76歳でお亡くなりになりました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

山本明先生（以下、先生と略させていただきます）は金沢大学医学部を卒業され石川県の病院で外科研修を受けられた後、地元の滋賀医科大学第二外科に入局され、消化器外科を専攻されておりました。私は昭和55年に第二外科に入局しましたが、消化器外科を希望したことから先生が直属の指導医となりました。最初にお会いした時、「ヨ～来たか、外科は大変だぞ」と釘を刺された後、熱く語られたのが、自分の学生時代のお話でした。当時の大学生は学生運動真っ盛りで、先生もその運動の中心で活動されておられたようです。大学構内にバリケードを立て、機動隊とも衝突、さら東京の大学まで遠征されたとか。「私からは想像もできません」と素っ気ない返答をしたことを覚えています。あまりに異なる大学生生活を過ごされた上司とこれからのように付き合えばいいのか困惑していたのかもしれない。先生から見れば私があまりにひ弱で頼りなく見えたのでしょう。自分の学生時代を紹介しながら、これからは手厳しく指導することを暗に示唆されていたと思います。医局会での新入院の患者紹介や手術報告は主に新人（研修医）が担当しますが、私の発表ににらみを利かせたのが先生でした。うなずいてくれると大成功ですが、時には大失態をさらし発表途中で交代を命ぜられたこともありました。強い口調で指導受けることが常でしたが、どの場面でも表裏のない発言と後を引きずらない態度が魅力でもありました。また、医局内では立場が違って信念を貫く姿勢には、職種を越えて周りの人たちの信頼を集めておられました。私の後にも多くの研修医が消化器外科に入局してくれましたが、実直な先生の考え方や行動に共鳴し、自分の将来像を重ねた人も多かったと思います。

当時は藤村昌樹先生（講師）と山本明先生（助手）のお二人が両輪となって消化器外科グループを運営され、同グループが大きく発展した時期でした。紹介患者が多く、そのたびに緊急手術となり、新人の私にとって土日もない多忙な毎日でした。消化器外科グループは4人体制だったので、しんがりの私はほぼ毎回、手術に呼ばれていました。ある時、あまりに早く手術が終わったので、その理由を術者の藤村先生に尋ねると、「助手の山本が良かったからだ、僕たちは阿吽の呼吸で手術をしているから」と笑いながら話されました。阿吽の呼吸といっても、助手が術者にストレスを与えないように手術の流れと術者の手の動きを先読みして動いているからできることで、先生の人柄と外科医としての高い能力からできることと理解しました。経験

のない私には、多くの手術で藤村先生が指示役、山本先生が受け役となり粛々と手順良くに進む手術を見るにつけ、これぞ外科手術のお手本に映ったものです。また、医局内では日頃から製薬会社の方が著明な外科医の手術記録ビデオ（当時は映画もありました）を放映してくれていました。率先して見ておられたのも先生で、ある時期から家庭用ビデオを持ち込み録画されていました。家で繰り返し見て勉強されていたそうです。「手術は見て覚えろ」とおっしゃっていましたが、術中に度々居眠りをした私への諫める言葉であったのかもしれませんが。その後、私が助手となり、先生と2人で手術をこなすことが多くなり、先生から外科医としての多くの学びを伝授していただきました。手術中に「平野は頑固だな」と漏らされることがありましたが、阿吽の呼吸の手術までには到底届かなかったのでしょう。

その後、先生は水口市民病院や友仁山崎病院の院長を歴任され、外科医のみならず病院管理者としても地域医療に大きく貢献されました。私もそれぞれの病院に手術のお手伝いでお伺いすることがありましたが、先生は今日行った手術の話より、病院人事や経営の大変さを語られるのが常でした。大学時代には外科医として活躍されていた先生が地域の第一線病院では病院の責任者として孤軍奮闘されている姿に違和感を覚えながらも、病院経営にも情熱を傾け、逆境にも諦めない姿勢はまさに先生の生き方でもありました。しばらく疎遠の時期が続き、ようやく顔を合わせるようになったのが滋賀県病院協会の理事会でした。平成26年に私が草津総合病院の院長となったことから、理事会の場で毎月先生とお会いすることになったのです。先生は滋賀県病院協会で15年以上の長きにわたり理事として活躍しておられ、会の中でも一目置かれた存在でありました。病院協会は県下58病院を統括する組織で、滋賀県の医療や社会福祉の推進を担っています。先生は理事として広報や地域医療の責任者を務めておられましたが、大学時代と同様に裏表のない一貫した意見と他者への配慮した発言には、他の先生方の大きな信頼を得ておられたようです。滋賀県病院協会会報誌第100号には「超高齢者社会の中の病院医療」と題した発行記念座談会が紹介され、その内容は先生が中心となって病院協会の重鎮の先生方のお話をまとめられたものでした。3ページにわたる長文には先生の主張が色濃く出ており、病院協会での地道な活動の集大成であったのかもしれませんが。

昨年12月の下旬に突然、先生から私に電話がありました。午後の8時を過ぎていたと思います。滋賀医科大学病院の病室から携帯でかけていると切り出され、「白血病で入院している、先は長くない、最後の挨拶となる、色々と世話になった、ありがとう、治療はしんどい、家に帰るつもりだ」などと淡々と話されました。急な電話で私も戸惑いを感じながらも、いつもの落ち着いた口調であったことから少し安堵しながら、「先生まだまだですよ、また会いに行きます」と差し障りのない軽い言葉しか発することができませんでした。電話を切った後、山本先生との40年を越えるお付き合いも終わりが近づいていることに深い悲しみを覚えるとともに、お礼の言葉を自分の生の声で届けていただいたことに心打たれた瞬間でありました。先生の計

報を受け取った際も、まだお元気であった先生のお姿やお言葉が脳裏に焼き付いていました。「おい、平野、行くぞ」と病棟に向かって第二外科の医局前の廊下を急ぐ姿はなぜか忘れられない光景です。最後まで自分の生き方を貫かれた先生に憧れと尊敬の念をいだきながら、改めて自ら身を以て外科医として人生の範をお教えたいただいたことに厚く感謝申し上げます。

最近、私も山本先生と同じ道を歩いていることに気づきます。若い時は高度で先進医療を追求し花形の外科医を目指す毎日でしたが、やがて地域医療に軸足が移り、先生が提起された「超高齢者社会の中の病院医療」が今の私の仕事となっています。とても先生の足元には及びませんが、先生のご意志を引き継ぎ、多くの会員とともに滋賀医科大学外科学講座と同門会の発展に尽力したいと思います。ご生前のご功績を偲びながら、改めて哀悼に意を表するとともに、重ねて心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



山本明先生との 10 年間

噺生会脳神経外科病院 外科

顧問 田中 久富

山本明先生の追悼文を依頼されたとき、どのようなタイトルがふさわしいか考えましたところ、外科医として約 40 年やってきた中で、特に密接に指導して頂いた期間が 10 年間であったため、上記のようなタイトルとしました。

私は学生時代にテニス部に所属しており、その際に指導して頂いた藤村先生に誘われ、当時の滋賀医科大学第二外科に入局しました。当時の第二外科は岡田慶夫先生が主催され、呼吸器、循環器および消化器のすべてを扱う総合外科として運営されていました。まず最初に研修した部門が呼吸器外科でした。そこで開胸術後の患者管理で居残りをしていた時、ドレーン廃液がほとんどなく術後経過は順調にと判断していたら、当直されていた山本明先生にミルクング不足でドレーンが詰まっていることを指摘され、出血による再開胸になった症例がありました。これが、直接先生に指導を受けた最初の例ではなかったかと思えます。

研修医時代の思い出といえば、当時、アルバイトとして当直に行っていた京都の蘇生会病院は重傷の患者さんも来るとのことで、上級医に付いて当直をする決まりになっていました。山本明先生付いて当直したとき、朝に先生が夜にはほとんど患者さんが来なくてよく眠れたと言われました。実は軽傷の患者さんはたくさん来られたが私で対応できたため、先生の耳には入らなかっただけでしたが、私を信用して任せて頂いていたのかなと、懐かしく思い出されます。

大学での研修後の 4 年強は当時の健康保健滋賀病院へ出向したため、先生とは大学医局の忘年会など年に数回、顔を合わせるだけの状態でしたが、当時の第二外科消化器部門を牽引され、元気に活躍されていました。当時は常にアグレッシブで、私の結婚式に来て頂こうと思っていたところ、医局のスポーツ行事にてアキレス腱断裂を来たし、共和病院へ入院されていました。お見舞いの伺いましたところ、ギプスを巻いているにも関わらず、当直をされていたのには少々驚きましたが、山本先生らしいなとも思いました。

卒後 7 年目に水口市民病院へ赴任しましたが、それから先生に密接に指導して頂く 10 年間となりました。当初は、大学から週一回の水曜日に外来とそれに続く手術のために来て頂き、その後は院長として赴任され、いろいろとご指導して頂きました。私が手術を早めに開始していると、先生は外来が終わって手術室に入って来られるなり、「もう終わったか」と言ってせかされたのも、懐かしい思い出です。しかし、私が勉強してきた手術方法などに関しては、よほどおかしくない限りにおいて、何も言わずに私の思い通りにさせて頂きました。

先生に鼠径ヘルニアが見られたため手術することとなったときには私が執刀することとなりましたが、随分不安に思われたことではないかと思います。しかし、ご自分で手術後のビデオを見た時には手術手技のことは何も言われず、腹腔内脂肪が多いことだけを気にされ、その後はダイエットを心掛けておられました。

この期間中は、外科の手術手技はもちろんのこと外科の心構えなどについて、非常に多くの事を教えて頂きました。

当時は、私は病院の官舎に住んでおり、病院から歩いて約1分くらいのところにありました。先生によく、「大学なら医局と附属病院の距離で、当直しているも同然だな」と言われましたが、病院の宴会の後などには家に泊まって頂くことがあったなど、個人的にも親しくして頂きました。

ただし、院長就任後は病院運営にご苦労されたように思います。特に、就任直後は病院の新築移転計画が何度も立ち上がり精力的に動かれましたが、管理者の意向にて最終的には実現せず、非常に残念な思いをされたことと思います。それもあったのか、1998年3月には水口市民病院を退職されました。

彦根の友仁山崎病院へ移られてからは、会合で年に1回くらいお会いするだけとなりました。その後病院長を退職され、老健の施設長になられたものの、元気でお過ごしのことと聞いていました。しかし、ここ数年はコロナ感染の影響でお目にかかることができない状況でしたが突然に、病气療養の後に亡くなられたと伺った時は非常に驚きました。伝え聞いたところによりますと、治療方法が尽きたと悟って大学病院を退院され、家に帰って身辺整理をされてからお亡くなりになられたとのことで、いかにも山本先生らしいと思いました。

以前の、会えば元気に「よう、頑張ってるか」などの声をかけて頂いた先生の元気な声が聞けなくなり、寂しい限りです。私の外科人生において、数多くの事を教えて頂きました山本明先生のご冥福をお祈りして、追悼の文とさせていただきます。

山本明先生を偲ぶ

医療法人社団 仁生会 甲南病院 外科
院長 山本 寛

2020年2月1日、山本明先生(私にとって、叔父にあたり、いつもそう呼んでおりましたので、明さんと呼ばせてください)が、ご自宅でご家族に看取られ、静かに息を引き取られました。享年76歳でした。病状の急変のため、同門会の先生方にお伝え出来なかった事情もあろうかと思えます。遅ればせながら、本人になり代わり、多くの先生方に、生前たいへんお世話になりましたこと、心より御礼申し上げます。

亡くなるちょうど1週間前に、病氣療養中の滋賀医大病院から、明さん本人がどうしても自宅で最期の大切な時間を家族と過ごしたいという思いが強く、コロナ禍ではありましたが、家族と多くの方に助けてもらいながら、帰宅されたのでした。帰宅後すぐに風呂に入れてくれと奥様にせがまれました。奥様は、「全介助で大変だったけど、前職の友仁山崎病院の事務長さんにもお手伝いいただき、バスタオルでくるむようにして湯船に入れました。体を洗ってあげるとすごく気持ちよさそうにしてたのよ。その後大好きなビールも少しだけ飲みましたよ。」と何度もお葬式の時、その後の法要の後に、笑顔で嬉しそうに話されているのをお聞きし、本人もご家族も本当に充実して幸せな最期のひと時だったのだなあ、としみじみ感じました。私も、帰宅されて2日後、最も体調が良かった時に、ご自宅にお邪魔し、ベットサイドで、明さんとたくさん思い出話をしました。あつという間の面会の時間でしたが、帰り際に「こんなにいるろい寛(私)と話したのは、初めてだったなあ。」と言われたことも、よく覚えています。

当院(甲南病院)で、古倉理事長が取り組んでおります訪問診療・訪問看護、そして在宅看取りの大切さは理解していたつもりでしたが、大事な人が逝ってしまった、そして自宅での最期を切望されていて、その通りに在宅看取りで人生の幕を下ろされたこの時ほど、これからの在宅看取りの重要性を強く意識したことはありませんでした。また、同時に、家族の大切さと絆の強さを感じました。

私にとって、明さんは、医師そして外科医の道に導いていただいた先輩であり、そして、家族の大切さを自身の生き様をもって教えていただいた人でした。本当に多くを明さんから学び、またこれまで私の心の支えとなっておりました。ありがとうございました。

どうぞ、安らかにお眠りください。

2021年度 同門会各賞受賞のことば

1. 同門会賞受賞

滋賀医科大学 外科学講座（消化器・乳腺・小児・一般外科） **飯田 洋也**

Iida H, Tani M, Aihara T, Hasegawa K, Eguchi H, Tanabe M, Yamamoto M, Yamaue H.
New metastasectomy criteria for peritoneal metastasis of hepatocellular carcinoma: A
study of the Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery.
Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences. (10):673-681. 2020

2. 理事長賞受賞

滋賀医科大学 外科学講座（消化器・乳腺・小児・一般外科） **新田 信人**

Nitta N, Ohgi K, Sugiura T, Okamura Y, Ito T, Yamamoto Y, Ashida R, Sasaki K, Uesaka K.
Prognostic impact of pancreatic invasion in duodenal carcinoma: A single-center
experience.
Annals of Surgical Oncology. 27(11):4553-4560. 2020

3. 奨励賞受賞

滋賀医科大学地域医療教育研究拠点 准教授
独立行政法人 地域医療機能推進機構 滋賀病院 乳腺外科 **梅田 朋子**

4. 若手外科医賞受賞

独立行政法人 国立病院機構 東近江総合医療センター 外科 **仁科 勇佑**

仁科勇佑, 森治樹, 三宅亨, 谷総一郎, 植木智之, 飯田洋也, 貝田佐知子, 清水智治, 和田康宏,
谷真至.
小腸 calcifying fibrous tumor に対し腹腔鏡下小腸切除術を行った1例.
日本消化器外科学会雑誌, 53 巻 11 号 Page901-907. 2020

5. 若手外科医賞受賞

医療法人社団 昂会 湖東記念病院 心臓血管外科 **宮下 史寛**

Miyashita F, Kinoshita T, Suzuki T, Asai T.
Respiratory failure after open descending aortic aneurysm repair: Risk factors and outcomes.
Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery. 27: 41-48. Online, 2020

◎ 2021年度同門会 同門会賞受賞

滋賀医科大学 外科学講座（消化器・乳腺・小児・一般外科）

飯田 洋也（平成12年卒）



この度は、名誉ある滋賀医科大学外科学講座、同門会賞に選出いただき、誠にありがとうございます。本論文のタイトルは、”New metastasectomy criteria for peritoneal metastasis of hepatocellular carcinoma: A study of the Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery”で、日本肝胆膵外科学会の学会誌であります、Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Scienceに掲載されました。要約ですが、肝細胞癌の腹膜播種は、他の消化器癌の腹膜播種と異なり、膨張性発育であるため、比較的容易に摘出可能です。しかしながら、肝癌診療ガイドラインでは、肝外転移である腹膜播種に関しては、薬物療法のみが推奨されています。既報では、腹膜播種切除後の長期生存例の症例報告が散見されますが、まとまった報告はありませんでした。

日本肝胆膵外科学会では、学会が主導する「プロジェクト研究」が公募されています。学術的に意義があり、社会的な使命を果たすにふさわしい、協同で実施する調査や研究に対し、学会が研究経費を補助する制度です。本研究は、滋賀医科大学外科学講座、谷 眞至教授のご推薦もあり、平成28年度のプロジェクト研究に採択されました。その結果、全国の肝胆膵外科の修練施設より、92例の腹膜播種切除例の臨床病理学的データを集積することができ、解析の結果、腹膜播種の数と大きさで定義されているPeritoneal Cancer Index (PCI)が6点未満で、かつ遺残ない切除ができた場合、腹膜播種切除が予後に強く寄与することが明らかになりました。この結果によって、今までは薬物療法しか治療方法がなかった、肝細胞癌の腹膜播種に対し、手術療法という新たな可能性を示すことができました。

近年、レトロスペクティブな臨床系の研究は、本研究のような全国レベルの多施設共同研究でないと、インパクトファクターの高いジャーナルに受理されることが困難な傾向にあります。当講座から、今後も全国レベルの研究のPrincipal Investigatorが生まれることを切に願います。

最後になりましたが、本研究に関し、多大なご協力をいただきました、滋賀医科大学外科学講座の先生方には深く感謝申し上げます。

◎ 2021年度同門会 理事長賞受賞

滋賀医科大学 外科学講座（消化器・乳腺・小児・一般外科）

新田 信人（平成 25 年卒）



この度は、同門会賞という大変光栄な賞を賜り、誠にありがとうございます。受賞させて頂きました「Prognostic impact of pancreatic invasion in duodenal carcinoma: A single-center experience, Annals of Surgical Oncology (2020) 27:4453-4560」は、前任地の静岡県立静岡がんセンター 肝胆膵外科で作成させて頂いた論文です。静岡がんセンターは、国内有数の High Volume Center であり、診断・手術手技・術前術後管理といった臨床的能力だけでなく、論文作成・学会発表といった学術的な能力も向上させることができ、非常に有意義な研修を送ることができました。本論文は消化器がんでは稀少である十二指腸がんに関する報告です。その稀少さ故に、予後因子などの臨床病理学的特徴が十分に解明されていません。同じ膵頭部領域に位置する胆管がん・十二指腸乳頭部がんでは膵臓浸潤が予後因子であると報告されています。本論文では十二指腸がんの膵臓浸潤に着目し、膵臓浸潤が予後因子であったことを報告しました。また、膵臓浸潤を認めた十二指腸がんは、膵頭部領域がんの中で最も予後が悪い膵臓がんとして生存成績が同等であったことも報告しました。本論文の作成にあたり、構想から投稿まで丁寧にご指導頂きました、静岡がんセンター 肝胆膵外科の大木克久先生に深くお礼を申し上げます。これまで私は、論文作成は臨床的能力の向上には寄与しないと考えていました。しかし、論文作成にあたり、多くの一流誌に触れ、十二指腸がんに関する知識を深めることができました。結果として、論文作成は臨床的能力の向上に繋がるものと考えています。この度賜りました同門会賞を励みに、滋賀医科大学 外科同門会のさらなる発展に寄与できるよう、今後も臨床・研究に邁進して参りますので、ご指導・ご鞭撻の程、宜しくお願いたします。

◎ 2021年度同門会 奨励賞受賞



滋賀医科大学地域医療教育研究拠点 准教授
地域医療機能推進機構 滋賀病院 乳腺外科

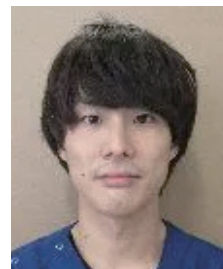
梅田 朋子 (昭和63年卒)

この度は、大変名誉ある奨励賞をいただきありがとうございます。私は、2013年度より「滋賀県女性医師ネットワーク会議」という女性医師のワークライフバランスを目指す会に滋賀医科大学より推薦された委員として参加させていただき、2019年度からは会長を引き継がせていただいております。また、馬場学長在任時に「全国医学部長会議男女共同参画委員会」にもご推薦いただき、微力ながら滋賀医大代表として活動させていただいております。

さて、働き方改革が医師にも適応されつつありますが、男女問わず、過酷な医師の労働環境の中、ワークライフバランスを保ちながら、キャリアアップを目指すことへの支援は、今後の医療を支える若手医師を育成する上でも重要なことと考えられます。現在はコロナ禍にあり、十分な活動ができていませんが、2019年度までは毎年交流会を開き、意見交換を行い、滋賀県の全体の病院に対して行った「短時間勤務」や「ドクターズクラーク」、「当直体制などに関する」アンケート調査の結果を報告し、講師を招いて意見交換を行ってまいりました。労働基準法が改正される中、2019年3月に「医師の働き方改革に関する検討会の報告」（座長岩村正彦東大教授）が行われ、初期研修医の時間外労働+休日労働が年間1860時間まで、3次救急医療機関（一部2次を含む）の勤務医の時間外労働+休日労働も1860時間までを認める方針が発表されました。これは残業月80時間年960時間という過労死ラインを遥かに超えるものであり、2019年11月30日の第8回女性医師交流会においても、会場の参加者60名（学生若手医師含む）にアンケート調査を行ったところ93%の方から許容できないという結果を示されました。これを受けて、このような内容が厚生労働省の省令として発表されないように、女性医師ネットワーク会議としての提言をまとめて2019年末に滋賀県を通じて厚生労働省に提出いたしました。また、2020年1月28日に中條絵里副知事と、「滋賀県における地域医療体制」や「地域を担う若手医師の健康を守るための支援」、「病児保育所増設に関する要望」などに関しまして意見交換を行いました。これらの活動は、全て組織の功績であり、受賞に際しまして、活動に参加する委員含めて全ての関係者に対して、ご賛同いただいたものと考えて感謝いたします。

最後に、この場をお借りして、お願いしたいことがあります。私の専門である乳腺外科は、外科専門医を取得してからのサブスペシャリティーであり、卒後5年以降も修練が必要です。希望者は女性が多く、ライフイベントと重なるため、興味を持っても躊躇されたり、専門講座を有する大学を選ばれたり、滋賀医大に留まって修練される先生が少ないのが現状です。乳癌死亡率は増加しており、9人に一人が乳癌と診断される中、滋賀県の乳腺医療を支える乳腺外科医や乳腺診療医は、この滋賀医大が中心となって育てられるように体制を強化する必要があります。我々が若手希望者を先導して育てられるように、これからも皆様のご支援やご協力をいただければ幸いです。何卒よろしく願いいたします。

◎ 2021年度同門会 若手外科医賞



独立行政法人国立病院機構 東近江総合医療センター 外科

仁科 勇佑 (平成 28 年度卒)

この度は滋賀医科大学 同門会若手外科医賞受賞を授与していただき、誠にありがとうございました。大変光栄に思うと同時に、身の引き締まる思いです。なにより 2019 年に外科医となつてから、日々臨床の現場でご指導いただいていた同門会の先生方に心より感謝申し上げます。特に、今回の論文「小腸 calcifying fibrous tumor に対し腹腔鏡下小腸切除術を行った 1 例」に関しましては、現在大学の肝胆膵チームで活躍しておられます、森治樹先生に多分のご指導を頂き、投稿することができました、本当に感謝しております。私は現在、外科医となつて 4 年目ですが、医師になりたての頃には、「学会発表」、「論文作成」、「研究」を行う事が、「実臨床」にも結び付く、という感覚がありませんでした。

しかし、実地臨床で「典型例にはない特徴を持った症例」に遭遇したとき、「従来の報告との類似点と相違点を洗い出し、その疾患における位置づけを検討する」という作業が、「今後の臨床能力を高めることに繋がる」という事が、症例報告作成を通じて、少し分かってきたように感じています。今後は、大学院で「研究」の分野にも取り組んで行きたいと考えています。現在はまだ実感がないですが、研究を行うことで身につく知識や養われる思考回路も、臨床能力を向上させることに繋がるのではないかと考えています。今回の受賞に対しまして関係各先生方に再度御礼を申し上げますとともに、今回の症例報告が、臨床の現場や疾患概念の確立に少しでもお役に立てることを願って受賞のご挨拶とさせていただきます。

◎ 2021年度同門会 若手外科医賞



医療法人社団昂会 湖東記念病院 心臓血管外科

宮下 史寛 (平成 24 年卒)

この度は若手外科医賞を頂き、非常に嬉しく、選考して頂いた方々にお礼申し上げます。今回評価して頂いたのは、2021年に Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery 誌に掲載されました論文「Fumihiro Miyashita, Takeshi Kinoshita, Tomoaki Suzuki, and Tohru Asai. Respiratory failure after open descending aortic aneurysm repair: Risk factors and outcomes」になります。以前から、胸部下行大動脈瘤に対する後側方切開を用いた人工血管置換術は、分離肺換気を用いるため、術後呼吸合併症が多い印象がありました。この分野において、胸腹部大動脈瘤に対する人工血管置換術の術後呼吸不全に関する論文はいくつか報告があるものの、単独の下行大動脈瘤に対する人工血管置換術の報告は乏しく、今回の報告に至るきっかけとなりました。調べてみると、実際に呼吸機能検査における一秒率の低下が術後呼吸不全のリスク因子となっていることが判明し、感覚的に関連がありそうな項目が統計学的な見地からも証明できたことに感動しました。今回の執筆にあたり指導して頂いた先生方はもちろんのこと、英文校正にあたり尽力して頂いた滋賀医科大学外科学講座スタッフの Piers Nigel Vigers 氏には書中をもって厚く御礼申し上げます。

臨床で日々手術を行っていく中で、さまざまな疑問がわき、その多くがまだ科学的に解明されていないものだと感じる事がよくあります。それを疑問のままで終わらせるのではなく、これからも科学的に検討し、その結果を日々の臨床にいかしていくことが重要だと考えています。今回の受賞を励みにこれからも論文で発表できるような臨床研究を続けていきたいと考えています。

臨床医としての能力を磨いていくことはもちろん、今回の論文執筆の経験をいかして研究や教育にも力を入れていきたいと考えています。今後とも、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。

同 門 会 便 り

- | | |
|------------------|-------|
| 1. 湖東記念病院 | 宮下 史寛 |
| 2. 高知医療センター | 脇坂 穂高 |
| 3. 滋賀もりブレストクリニック | 森 毅 |
| 4. 日野記念病院 | 仲 成幸 |
| 5. 京都医療センター | 橋本 雅之 |
| 6. 長浜赤十字病院 | 塩見 尚礼 |
| 7. ベルランド総合病院 | 福尾 飛翔 |
| 8. 洛和会音羽病院 | 堀本 かな |

● 医療法人社団 昂会 湖東記念病院

心臓血管外科医長 宮下 史寛 (平成 24 年卒)

湖東記念病院は、滋賀県東近江市にある 129 床の小規模病院です。地域の循環器疾患や脳疾患の急性期医療を主目標として設立され、心臓血管外科は 2014 年から基本的に常勤医師 2 名で診療にあたっています。2021 年は新型コロナウイルス感染症の影響もあって手術症例数は伸び悩みましたが、年間 57 例の心臓・胸部大動脈手術、うち 3 例は胸部大動脈ステントグラフト内挿術、23 例の腹部大動脈手術（うち 12 例の開腹人工血管置換術、11 例のステントグラフト内挿術）、10 例の末梢動脈手術、43 例の下肢静脈瘤手術をそれぞれ施行しました。病院の規模は小さいですが、逆にスタッフの連携は密に取れるため、質の高い診療に繋がっているのではないかとかんがえています。

当院は、前述の通り循環器疾患の治療に非常に力を入れており、病院規模から考えると県下では大学病院の次に多くの循環器内科の常勤の先生が在籍されています。心臓カテーテル検査や治療件数も多いため、重症の循環器疾患の方は当科への紹介して頂き、ハートチームとして患者さんに対応しています。さらに近隣の東近江総合医療センターとも密に連携しています。緊急手術にも対応しており、麻酔科の先生方やその他コメディカルスタッフと協力しながら日々の診療にあたっています。

その他の特徴として、当院にはハイブリッド手術室を完備しています。手術室の一室に Canon 据え置き型デジタル式循環器用 X 線透視装置を配備し、血管内治療と手術が同時に行えます。胸部大動脈瘤・腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術ではもちろんのこと、四肢動脈の急性血栓閉塞や複雑な閉塞性動脈硬化症の手術の際も循環器内科の先生方と協力しながら手技を行えるため、低侵襲かつ効果的な治療が可能になっています。近年、ステントグラフト内挿術では、パークローズ ProGlideTM という大腿動脈穿刺用の止血デバイスが保険適応となったため、経皮的に手技が行えるようになりました。従来の cut down であれば創部感染やリンパ漏といったリスクがありましたが、それをかなり軽減でき、入院期間も 3-4 日とかなり短縮され、より低侵襲になってきています。

これからも地域の先生方との信頼構築・連携強化を行い、地域医療に貢献すべく日々精進していく所存です。今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

● 高知県・高知市病院企業団立 高知医療センター

心臓血管外科副医長 脇坂 穂高 (平成 28 年卒)

高知医療センターは、平成 17 年に高知県立中央病院と高知市立市民病院を統合合併して開院し今年で 18 年目を迎えています。

この市民病院の時代から鈴木教授が以前に働かれていたというご縁もあり、2021 年 10 月より脇坂が赴任し滋賀医科大学心臓血管外科教室のバックアップのもと、関連病院となりました。現在は心臓血管外科 4 人の体制となり日々の診療にあたっています。

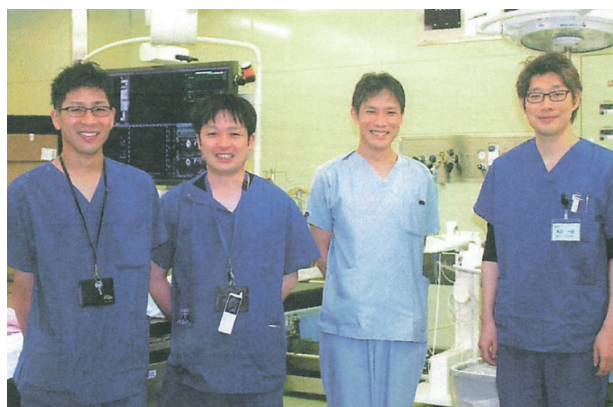
当院は病床数 620 床 3 次救急指定病院であり、救命救急センターでは昨年年間救急患者数 9,428 人、救急車受入れ 3,483 件、ドクターヘリの出動件数 628 件、FMRC 出動件数 120 件と高知県全体の救急拠点病院として急性期医療の中核を担っています。

コロナ禍においては高知県でも患者数増加により医療が逼迫する中、感染症指定医療機関としてコロナ重症患者の対応とともに、受け入れ困難なそれ以外の救急患者の対応と救急医療の最後の砦として医療者全員で頑張っており何とか乗り越えている状態です。

当科に関しましては、コロナや一時医師の減少により減っていた手術数も徐々に盛り返しており、年間 100 例の開心術症例を目標にしております。大動脈解離や心筋梗塞などの緊急手術から末梢動脈疾患、下肢静脈瘤まで幅広く対応しています。低侵襲心臓手術 MICS も取り入れ、昨年度は 3 例の僧帽弁形成術を行いました。当院では今年から Da Vinci が導入されました。心臓手術もより低侵襲なロボット補助下の手術へと発展させていきたいと考えています。循環器内科とのハートチームとしての連携では、TAVI や MitraClip、経皮的左心耳閉鎖術などの新しいデバイス治療も積極的に行っており四国内でもトップレベルの症例数を誇っています。

当院の理念は「医療の主人公は患者さん」です。患者さんが安心して安全に高度な医療を受けていただける医療を目指し、新体制となり以前から培われてきた歴史ある当院心臓血管外科の経験や実績に加え、さらなる発展をしていけるよう精進して参りたいと思っています。

最後になりましたが同門会の先生方には日頃よりご指導賜り感謝申し上げます。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



● 滋賀もりブレストクリニック

院長 森 毅 (平成9年卒)

2022年2月に南草津の駅前に「滋賀もりブレストクリニック」を開院させて頂きました。開院後数か月で、まだ落ち着いてない状況ですが近況をご報告させていただきます。

私は、1997年卒業で旧第一外科に入局、大学病院、関連病院で、消化器外科、乳腺内分泌外科など幅広く研修させて頂きました。2005年にアメリカへの研究留学の機会を得、乳癌研究に携わった事で、帰国後より乳腺を専門とすることになりました。

私のクリニックですが、乳腺専門クリニックとして、マンモグラフィー、エコー、生検による診断はもとより、乳腺炎の切開排膿や小腫瘍切除程度の小手術には対応できるようにしております。また、乳癌術後のホルモン療法が必要な方の定期処方も行っています。

4月からは市町の乳がん検診にも対応しており、徐々にですが患者さんは増えてきております。

近年、乳癌は増加しており、子育て世代も多い滋賀の湖南地域は、乳がん患者さんが今後増えていく事が予想され、乳腺専門外来の需要は非常に高いと思いますが、乳腺専門のクリニックは少なく、また、一般病院の乳腺専門外来は予約が一杯でなかなか予約が取れない状況です。実際、しこりに気づいたものの、乳腺外来の予約が先になるため、早く診てもらえる(空いている?) 当院に来られ、乳癌の診断に至ったケースが開院後4か月程度の段階で何例もあります。

当院は完全予約制で、ネットから24時間いつでも予約可能で、必要な問診などもネットから記入して頂いており、待ち時間が少なくなるようにしております。私以外のスタッフは全員女性で、男性1人では入りづらい? 雰囲気をつくり、女性に来院してもらいやすい環境にしています。広告戦略では野立て看板などは出さずに、主にgoogleに広告料を支払い、ネットで集患するという戦略をとっています。そのため、比較的若い年代層の方の来院が非常に多くなっています。また、湖北、湖西地域からの受診もあり県内の広範囲の地域から患者さんに来ていただいております。

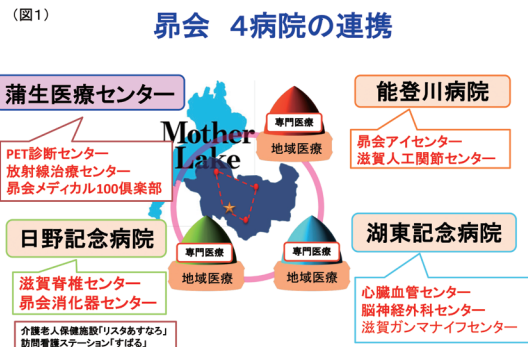
乳癌の診断がついた方は、ご本人の希望に沿っていますが、多くは滋賀医大に紹介させて頂き、症例数増に貢献できればと考えております。一方で、滋賀医大でも半日外来枠を頂いており、当院ではできない抗癌剤治療を大学の外来枠でさせて頂いております。今後も滋賀医大の乳腺・小児・一般外科と密に連絡を取りながらより良い乳腺診療を提供できればと考えております。

医療法人社団昂会 日野記念病院

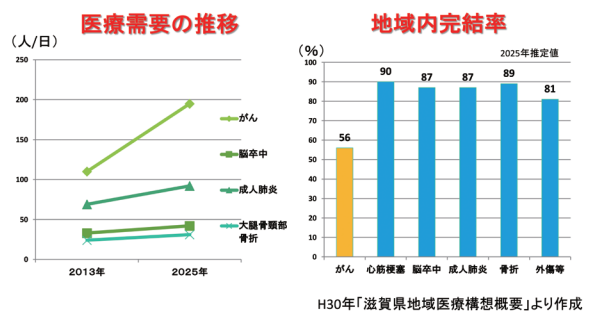
院長 仲 成幸 (平成2年卒)

医療法人社団昂会の医療体制について

日野町がある東近江保健医療圏は、滋賀県に7つある2次医療圏のうち人口は大津、湖南に次ぐ22万6千人、面積は湖北に次いで広く琵琶湖から鈴鹿山脈に至る広い範囲をカバーしています。地方都市の過疎化が進む医療圏では、医療の質を担保しつつ地域住民の医療ニーズの多様化に対応し、さらに医師の働き方改革、医療の効率性を成り立たせるのは困難な状況にあります。医療法人社団昂会は日野記念病院(昂会消化器センター、滋賀脊椎センター：150床)、湖東記念病院(心臓血管センター、脳神経外科センター、滋賀ガンマナイフセンター：129床)、東近江市立能登川病院(指定管理：昂会アイセンター、滋賀人工関節センター：102床)、東近江市蒲生医療センター(指定管理：PET診断センター、放射線治療センター：19床)の4病院が医療圏内で連携することにより、地域で身近な病院でありながら質の高い専門医療も提供できるように取り組んでいます(図1)。



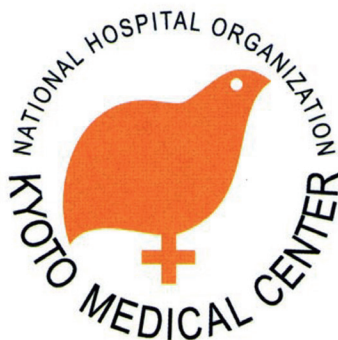
(図2) 東近江保健医療圏の医療需要と完結率



東近江保健医療圏における医療需要と完結率を図2に示します。2025年の推定値ではがんに対する医療需要の増加が見込まれます。一方、地域内での医療完結率は心筋梗塞、脳卒中や肺炎が80%以上であるのに比べがんは50%台と低くなっています。そこで、がん診療のさらなる充実のため、新たに指定管理となった東近江市蒲生医療センターにPET診断センター(センター長：阪原晴海先生 浜松医科大学名誉教授)、放射線治療センター(センター長：田中正博先生 前大阪市立総合医療センター放射線腫瘍科部長)を開設しました。PET診断装置は(GE DiscoveryIQ2.0)は最新の機種で、最新の画像再構築と検出器幅が広いなど、画質の向上や撮像時間の短縮が特徴となっています。放射線治療装置(エレクタ Versa HD)はIMRT(強度変調放射線治療)、VMAT(強度変調回転照射法)、SRT(定位照射)、IGRT(画像誘導放射線治療)により様々ながんに対する治療が可能となっています。また、予防医学を担う健診センターでは会員制人間ドック「昂会メディカル100倶楽部」も開設されています。消化器がんについては日野記念病院の「昂会消化器センター」を中心とし、各病院と連携して診断および治療を行っています。このため、必要に応じて各病院間で患者の搬送や医師の移動を行います。外科領域では昂会4病院にて同門会員の日野記念病院 花澤一芳(名誉院長)、迫 裕孝(院長代行・乳腺外科)、仲 成幸(院長)、東田宏明(副院長)、塩見一徳(医員)、湖東記念病院 周防正史(顧問)、簗 洋三(主任部長)、能登川病院 長谷川 均(副院長)、伊藤 文(医長)が連携・協力して診療に当たっています。しかしながら外科はがん診療を含め扱う領域が広く、まだまだ不十分な体制となっています。今後とも皆様のご指導とご協力により充実させていきたいと考えております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

● 独立行政法人国立病院機構 京都医療センター

呼吸器外科医長 橋本 雅之 (平成 14 年卒)



国立病院機構京都医療センターは、1908年（明治41年）に京都衛戍病院として設立され、その後京都陸軍病院、国立京都病院と名称を変遷し、2004年（平成16年）より現在の京都医療センターへと改称された、歴史ある病院です。現在の医療法病床数は600床で38診療科を擁する総合病院であり、最新鋭のハイブリッド手術室や放射線治療装置を備えた地域がん診療連携拠点病院として、京都市南部地域の医療を担っています。

呼吸器外科は、診療科長である澤井聡先生が2006年に赴任され、以降順調に症例数を伸ばし、令和3年度の全身麻酔下手術が187件、うち原発性肺癌手術が91件と京都府内でも有数の症例数を誇っています。現在は、澤井先生、私、賀来先生（平成21年卒）、余田先生（平成28年卒）の4人で日夜診療にあたっており、若手呼吸器外科医にとっては質・量ともに経験を積める環境と自負しております。

最近のトピックスとしては、ロボット支援胸腔鏡下手術（RATS）と原発性肺癌に対する肺区域切除術が挙げられます。RATSは2018年に肺悪性腫瘍に対する保険診療が認可され、以降、他領域とともに術式拡大がなされています（呼吸器外科領域：5術式）。当院は2014年にda Vinciシステムを導入し、当科では2018年よりRATSを開始致しました。これまで年間15-18件程度行ってきましたが、今年4月からコンソール術者が増え、私自身も昨年プロクター資格を取得することができたため、今年度は症例増加を目標に頑張る所存です。次に、昨年のAATSで、原発性肺癌の一部の病期において、従来標準治療とされてきた肺葉切除に対し縮小手術である肺区域切除が、全生存期間で優越性を示したことが報告され、全世界に衝撃を与えました（JCOG0802/WJOG4607L）。当科でもこの波に乗り遅れまいと、これまで以上に肺区域切除に対し積極的に取り組んでいます。肺区域切除は術前に3D画像構築を行う他、これまでより高齢かつ肺機能が不良な症例も対象となる可能性があり、コメディカルと緊密な連携を行うよう心がけています。

ウィズコロナが当たり前となった今日、より良い医療を安定的に提供できるようチーム一丸となって努めて参ります。同門会の先生方におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

● 日本赤十字社 長浜赤十字病院

副院長 兼 第一外科部長 塩見 尚礼 (平成3年卒)

長浜赤十字病院は492床（一般病床418床、精神病床70床、感染症病床4床）の滋賀県湖北医療圏の中核病院です。救命センター（3次救急）、地域周産期母子医療センター、地域災害医療センターなどの機能を持ち、地域医療に貢献すべく日々診療に励んでおります。外科スタッフは滋賀医大外科学講座より7人、福井大学2人、産業医大1人、自治医大1人の合計11人の大所帯であり、そのうち3人が外科学会専門医修練プログラムに参加して修練中です。守備範囲は食道癌、胃癌、大腸癌をはじめとする消化管外科、肝癌、膵癌、胆道癌、胆石症などの肝胆膵外科、ヘルニア、腸閉塞、穿孔性腹膜炎・外傷などを含む救急外科、成人ヘルニア、乳腺外科、腹部大血管・シャントなどの末梢血管外科、鼠径ヘルニア・虫垂炎を含む小児外科、と多岐に渡ります。2021年のNCD登録手術件数は930件で、医局関連病院の中では症例数の多い病院の一つであると自負しております。きっちりとした臓器専門による線引きはしていませんが、スタッフそれぞれが得意分野を持ち寄り、外科学会専門医プログラムの修練医3人と和気あいあい、日々の外科診療を行なっています。最近の話題としては、手術支援ロボット、ダビンチを用いた胃癌、直腸癌手術を継続して行っております。筆者は2022年1月に胃癌切除でプロクターを取得し、次の術者へバトンタッチすることができました。また、様々な癌種で遺伝子診断を用いて治療方針が決定されることが多くなりました。当院でも遺伝カウンセリング外来を開始し、遺伝性乳がん卵巣がん症候群の患者さんにリスク低減手術の施行を開始しました。

このコロナ禍では1つの病棟を新型コロナ感染症患者専門病棟として運用しています。外科チームは軽症患者の主治医、挿管され人工呼吸器管理になった患者やECMOを回す必要のある重症患者の主治医としても活躍し、コロナ患者の緊急手術（急性虫垂炎）も1例施行しました。当院は呼吸器科がないため、外科チームの協力なしでは、このコロナ禍を乗り切れなかつ

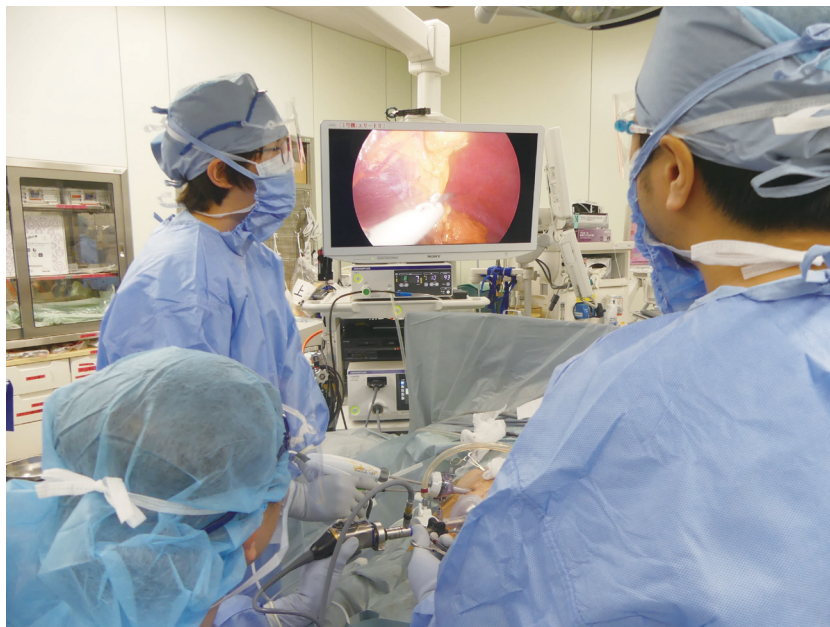
たと思います。また、最近の新型コロナ患者の発症数の減少に伴い、手術件数も徐々にですが戻ってまいりました。引き続き、医局の関連病院として、将来当院で働きたいなあ、と1人でも多くの若い外科医に思っただき、有意義な研修・修練を積むことができる外科チームが構築できるよう尽力したいと思います。



最後に私事ですが2022年4月より現在の外科部長、副院長職に加え、日本赤十字社（本社）の医療事業推進本部で参事監として週の半分を東京で勤務するようになりました。医療事業推進本部の仕事内容は全国に91カ所ある赤十字医療施設の経営分析・サポート、地域医療構想に関する病院統合再編に係ること、医療安全・臨床倫理に係ること、臨床研修に係ること等、多岐に渡ります。約100人いる社員のうち、医師の資格を持つものは4人いて、医師としての立場でアドバイスすることが求められています。湖北地域が重点支援区域に選定されたこともあって声がかかった人事と思っておりますが、生涯学習やなあ、としみじみ考える今日この頃です。

● 社会医療法人生長会 ベルランド総合病院

外科 福尾 飛翔 (平成30年卒)



ベルランド総合病院の外科は総勢13名で診療にあたり、2009年からは大阪府が創設した制度に基づくがん診療拠点病院にも認定されていることから当科では上部領域では食道癌・胃癌、下部領域では大腸癌・直腸癌、肝胆膵領域では肝癌・胆道癌・胆嚢癌・膵臓癌などのほぼすべての領域の消化器領域の癌の紹介を受け入れており、それらに対する手術加療、化学療法を行っております。また、24時間急性腹症の受け入れを行っており、手術加療が必要な疾患に関しては麻酔科、手術室スタッフと協力し可能な限り緊急手術を行っております。

私は滋賀医科大学医学部を卒業後、滋賀医科大学の初期研修プログラムを経て滋賀医科大学消化器・乳腺・小児・一般外科に入局し現在後期研修を行っております。最初の1年間は滋賀医科大学で学び、後期研修2年目よりベルランド総合病院に配属されました。手術に関しては癌の手術はもちろんのこと緊急手術を含めて多くの症例を経験することができ、鏡視下手術だけでなくda Vinci Xiも導入されているためロボット支援下手術を含めた最新治療に関しても助手を通して学ぶことができいております。

しかし、昨今の新型コロナウイルス(COVID-19)による影響か当院でも症例数の減少が進んでいる他、予定されている手術もウイルス感染や濃厚接触により手術の延期を余儀なくされることも増えてきております。また、他院で対応できなくなったCOVID-19陽性の急性腹症の症例もあり、full PPEによる緊急手術対応も行いながら外科医として新型コロナウイルスの治療にあたっております。

私が専攻医になった1年目の頃から消化器外科領域では当たり前のように手術の基本は腹腔鏡になっており、癌の手術に関してはロボット支援下手術の適応が広がり、良性疾患にも今後その適応が広がるのでしょうか。これからも、疾患の根治性はもちろんのこと、より低侵襲手術を目指し患者様に貢献できるよう日々精進してまいります。若輩者ではございますが、関係者の皆様方には今後とも、ご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

● 医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院

呼吸器外科 医員 堀本かな (平成23年卒)

このところ少なくなっていたのですが救急外来で交通外傷患者さんが増えてきたことに、with コロナを感じる日々となりました。同門会の先生方におかれましてはますますご健健のことと拝察いたします。

洛和会音羽病院は京都市山科区の基幹病院で、一般病棟、緩和ケア病棟、地域包括ケア病棟、認知症治療病棟を含め548床の病床を有しています。当院は2012年に近畿圏の民間病院で初めて救命救急センターの指定を受けた病院でもあり、1日に平均60人を超える救急外来患者さんに対応しています。また2020年からは新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に罹患した患者さんの検査・治療にも注力しており、先般の第6波では院内クラスターをかかえる中でもCOVID-19の入院診療を行いつつ、可能な限り京都府全域や大阪からの救急要請、walk inの発熱患者さんの受け入れに当たりました。

がん治療においては昨年度から腫瘍内科、放射線治療科が常勤体制となり、体幹部定位放射線治療(SBRT)が導入されたことで、院内で高度ながん医療を完結できる状況になりました。肺癌領域では毎週火曜日に呼吸器外科、呼吸器内科、腫瘍内科、放射線治療科合同でカンサーボードを行っており、迅速かつ適切な治療に役立っています。

呼吸器外科では肺癌、気胸、縦隔腫瘍に加え、膿胸、外傷性肋骨骨折・血気胸などの疾患を幅広く診療しています。2021年は50件の全身麻酔手術を行っており、肺癌が25件、気胸が7件でした(ほか転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、膿胸など)。また本年4月に呼吸器外科部長の一瀬増太郎先生が副院長に就任され、呼吸器外科領域の診療に加え医療安全、医療倫理、病院経営といった多角的な立場で病院の運営に関わっています。

2020年4月より、前任の上田先生に代わり堀本が赴任いたしました。手術はもちろんですが、定期外来や外傷診療、三次救急に対応した当直など、一瀬先生をはじめ、さまざまな科の先生方にご指導いただきながら日々研鑽を積んでいるところです。洛和会音羽病院ではご高齢の患

者さんが多く、地域との連携が欠かせません。今後も地域との連携を大切に、質の高い医療の提供できるよう努力して参ります。同門会の先生方には今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



● 新入会員紹介



萩原 明郎

社会医療法人誠光会 淡海医療センター 顧問

出身大学：京都府立医科大学
(昭和49年卒)

新たに同門に入れて頂いた萩原明郎です。ハギワラアケオと読みます。正式な戸籍の名前は萩原明郎ですが、幼少時に親が迷信で名前の記述を明於に変え（読みは同じくアケオ）、これが「通り名」です。自分ではどちらでも良いと思っております。

1948年1月生まれで、干支はイノシの74歳、大津市の在住です。京都府立医大を出て秋田大学に属し、秋田県内などの田舎の病院勤務が長く、凡そ大学勤務には向かない医者です。しかし上司の勤務地変更に従い京都府立医大外科を経て同志社大学・生命医科学部にも勤務しました。今は、草津市の淡海医療センターの顧問をさせて頂いております。どうぞ宜しくお願いを申し上げます。



戸川剛

社会医療法人誠光会 淡海医療センター 院長補佐

出身大学：京都府立医科大学
(平成4年卒)

淡海医療センター（旧・草津総合病院）の戸川です。平成4年京都府立医科大学卒ですが、当院に就職して以来滋賀医科大学外科同門会の先生方には大変お世話になっており、2020年度に谷眞至教授の御高配により同門に加えて頂きました。

市中病院ですので消化器外科治療を幅広く行っておりますが、特殊なものとして肥満症外科を手掛けております。滋賀医科大学とともに黎明期よりの日本肥満症治療学会認定施設の一つです。現在保険診療で可能な術式がスリーブ状胃切除に限られますが、その術後合併症であるGERDに対するrevision surgeryも積極的に行いバイパス系手術導入に備えています。

何卒宜しくお願い申し上げます。

● 新入会員紹介



大江 康光

社会医療法人誠光会 淡海医療センター 一般・消化器外科

出身大学：京都府立医科大学

(平成 27 年卒)

私は淡海医療センター消化器外科に勤務しています。同時に社会人大学院生という形で、滋賀医科大学外科学講座の医局に所属させていただいています。谷先生のご厚意を賜り、主に泌尿器科で実験をさせていただいています。

私は 2015 年に京都府立医科大学を卒業いたしました。初期研修を草津総合病院（現在の淡海医療センター）で開始し、初期研修修了後は同院の消化器外科に所属しています。

大学院の単位も滞りがちですが、一步一步進んで参ります。

何卒よろしくお願ひ申し上げます。



永井 望

滋賀医科大学 外科学講座（消化器・乳腺・小児・一般外科） 入局
東近江医療センター 外科

出身大学：滋賀医科大学

(平成 31 年卒)

令和 3 年度入会の永井望と申します。出身は大阪府堺市で平成 31 年に滋賀医大を卒業後、初期研修は大学病院で行いました。その後かねてからの夢である外科の道に進むべく母校である滋賀医大の外科学講座の消化器・小児・乳腺・一般外科に入局いたしました。現在は東近江総合医療センターで専攻医 2 年目として日々研鑽を積んでおります。まだまだ未熟者ではありますが、同門の諸先生方におかれましては今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

● 新入会員紹介



川平 敏博

医療法人徳洲会 神戸徳洲会病院 心臓血管外科

出身大学：鳥取大学
(平成3年卒)

令和2年7月から滋賀医科大学心臓血管外科にお世話になっております、川平敏博です。以前の勤務先である岸和田徳洲会病院でも、滋賀医科大学心臓血管外科出身の先生方とご縁があり、当院でも以前から野島武久先生には大変お世話になっております。今後も野島先生には手術応援・指導にご協力いただく次第です。また、当院は循環器科がおりませんが、徳洲会グループ病院循環器科医師の協力のもと、私自らPCIやステントグラフト治療を行い、神戸大学や神戸市内にある市民病院および各関係施設・院内他部署と連携し、安全かつ最適な治療を提供すべく、努力してまいります。今後とも、ご指導・ご協力のほどよろしくお願いいたします。



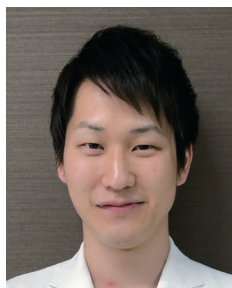
神谷 賢一

滋賀医科大学 外科学講座（心臓血管外科） 入局

出身大学：東京慈恵会医科大学
(平成19年卒)

はじめまして。神谷賢一と申します。一昨年の6月より心臓血管外科にて皆様には大変お世話になっております。国内有数の実績と伝統ある教室で日々研鑽させて頂けることを嬉しく思います。また遅ればせながら社会人大学院生として現在、学位取得を目指して励んでおります。先人曰く「少年老い易く」とはよく言ったものでございまして、今更ながら外科医としてなんと学ぶことの多いことかと鈴木教授をはじめ多くの医局員の方々のご指導を賜り、とても充実した毎日を送らせて頂いております。まことに未熟ながら皆様のお役に立てる日が来ることを願いつつ、今後も頑張っております。ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

● 新入会員紹介



松林 優二

滋賀医科大学 外科学講座（心臓血管外科） 入局

出身大学：和歌山県立医科大学
(平成31年卒)

大阪出身で、和歌山県立医科大学を卒業後、滋賀医科大学付属病院にて2年間初期研修をさせて頂きました。高校時代、将来の夢を考えているときに心臓外科医という職業が純粋に本当にかっこよく思いました。それで医学部を目指そうと思いました。2021年4月、当初思い描いた通り、心臓外科の門戸を叩くことができました。今は心臓外科医の長く険しい修練のスタート地点です。日々質の高い指導・教育を受けることができ、滋賀医大外科同門会の一員になることができ本当に良かったと実感しています。私がこの恵まれた環境を享受できるのも滋賀医大の外科同門会の先生方のおかげです。ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い致します。



三輪 駿太

滋賀医科大学 外科学講座（心臓血管外科） 入局

社会医療法人誠光会 淡海医療センター 心臓血管外科

出身大学：北海道大学
(平成31年卒)

2021年4月より、滋賀医科大学外科同門会に入会させて頂きました三輪駿太と申します。生まれは愛知県名古屋市で、地元の高校を卒業し、大学は北海道でした。初期臨床研修は滋賀県の大津赤十字病院で二年間させて頂き、ご縁あって滋賀医科大学心臓血管外科に入局させて頂きました。2022年4月より、淡海医療センター（旧草津総合病院）に異動となりました。まだ右も左もわからない若輩者ではありますが、精一杯精進して参りますので、ご指導ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

● 新入会員紹介

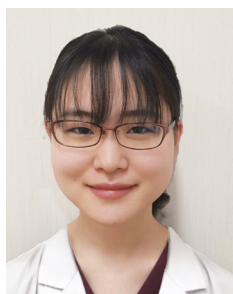


益本 貴人

滋賀医科大学 外科学講座（呼吸器外科） 入局

出身大学：新潟大学
（平成 28 年卒）

2021 年度滋賀医科大学呼吸器外科に入局させていただきました、益本貴人と申します。平成 28 年に新潟大学を卒業し、初期研修の 2 年間は京都岡本記念病院で行いました。後期研修は京都医療センターのプログラムに属して、半分は外科として半分は呼吸器外科として 3 年間で過ごさせていただきました。現在は医仁会武田総合病院に勤務しておりますが、厳しくも温かいご指導のもと、修練に励み充実した日々をすごしております。外科同門の先生方には今後も様々な形でお世話になることがあると思います。日々精進を続けて参る所存です。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



渡邊 敦子

滋賀医科大学 外科学講座（呼吸器外科） 入局

出身大学：滋賀医科大学
（平成 31 年卒）

この度、滋賀医科大学呼吸器外科に入局させていただきました渡邊敦子と申します。

滋賀県出身で、滋賀医科大学を卒業後、洛和会音羽病院で初期研修を行いました。元々は内科医を志望していましたが、外科研修で学生から診療の一員として異なる立場でみた外科は非常に魅力的でした。この時の楽しさが印象に残り、最終的に呼吸器外科医を志すに至りました。現在は滋賀医科大学で後期研修を行っています。早く外科医として一人前になれるよう頑張りますので、同門の先生方におかれましてはご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

教室業績

滋賀医科大学外科学講座（消化器・乳腺・小児・一般外科）

【論文発表】

〈英文学術論文〉

Iida H, Tani M, Komeda K, Nomi T, Matsushima H, Tanaka S, Ueno M, Nakai T, Maehira H, Mori H, Matsui K, Hirokawa F, Kaibori M, Kubo S.

Superiority of CRP-albumin-lymphocyte index (CALLY index) as a non-invasive prognostic biomarker after hepatectomy for hepatocellular carcinoma.

HPB (Oxford), 24(1): 101-115, 2022

Kitamura N, Iida H, Maehira H, Mori H, Sada Y, Shimizu T, Kitagawa H, Tani M.

Postoperative analgesic effect of ultrasound-guided rectus sheath block and local anesthetic infiltration after laparoscopic cholecystectomy: Results of a prospective randomized controlled trial.

Asian J Endosc Surg, 15(1): 29-35, 2022

Takebayashi K, Murata S, Kodama H, Kaida S, Yamaguchi T, Ishikawa K, Shimoji M, Miyake T, Ueki T, Kojima M, Iida H, Maehira H, Shimizu T, Tani M.

Long-term prognosis of patients with cancer-related genes detected in postoperative peritoneal washings obtained during curative gastrectomy.

Eur J Surg Oncol, 48(1): 177-182, 2022

Iida H, Maehira H, Mori H, Takebayashi K, Kojima M, Ueki T, Kaida S, Miyake T, Tomida K, Shimizu T, Tani M.

Usefulness of measuring temporal changes in physical activity levels using an accelerometer for prediction and early detection of postoperative complications after hepatectomy.

HPB (Oxford), 24(1): 57-64, 2022

Yoshimoto-Haramura T, Hidaka M, Hasegawa K, Suzumura K, Takemura N, Hama N, Mizuno T, Nomi T,

Kobayashi T, Sano K, Yokomizo H, Nitta H, Kurata M, Hasegawa Y, Nagayama M, Tani M, Fukumoto T, Ohta M, Hayashi H, Taniguchi H, Ishino S, Aihara T, Murase T, Tsuchida A, Shimamura T, Marubashi S, Kaneko J, Hara T, Matsushima H, Soyama A, Endo T, Eguchi S.

National survey of hepatobiliary and pancreatic surgery in hemophilia patients in Japan.

J Hepatobiliary Pancreat Sci, 29(3): 385-393, 2022

Muramoto K, Kaida S, Miyake T, Nishimura R, Kito K, Shiohara M, Kushima R, Shimizu T, Tani M.

Rare monomorphic epithelial intestinal T-cell lymphoma of the stomach with a giant gastric perforation rescued by liver-covering sutures followed by a total gastrectomy and lateral hepatectomy: A case report.

Surg Case Rep, 8(1): 27, 2022

Mori N, Hongo M, Takemura S, Sugitani Y, Nakamura F, Tani M, Nishida A, Inatomi O, Andoh A, Ban H.

Mixed neuroendocrine-non-neuroendocrine neoplasm associated with autoimmune gastritis.

Clin Case Rep, 10(3): e05640, 2022

Ohta H, Miyake T, Ueki T, Kojima M, Kawasaki M, Tatsuta T, Iuchi T, Kamitani S, Shimizu T, Mekata E, Tani M.

Predictors and clinical impact of postoperative diarrhea after colorectal cancer surgery: A prospective, multicenter, observational study (SHISA-1602).

Int J Colorectal Dis, 37(3): 657-664, 2022

Kozuki R, Watanabe M, Toihata T, Takahashi K, Otake R, Okamura A, Imamura Y, Mine S.

Treatment strategies and outcomes for elderly patients with locally advanced squamous cell carcinoma of the esophagus.

Surg Today, 52(3): 377-384, 2022

Tanaka I, Dayde D, Tai M, Mori H, Solis L, Tripathi S, Fahrman J, Unver N, Parhy G, Jain R, Parra E, Murakami Y, Aguilar-Bonavides C, Mino B, Celiktas M, Dhillon D, Casabar J, Nakatochi M, Stingo F, Baladandayuthapani V, Wang H, Katayama H, Dennison J, Lorenzi P, Do K, Fujimoto J, Behrens C, Ostrin E, Rodriguez-Canales J, Hase T, Fukui T, Kajino T, Kato S, Yatabe Y, Hosoda W, Kawaguchi K, Yokoi K, Chen-Yoshikawa T, Hasegawa Y, Gazdar A, Wistuba I, Hanash S, Taguchi A.
SRGN-triggered aggressive and immunosuppressive phenotype in a subset of TTF-1-negative lung adenocarcinomas. *J Natl Cancer Inst*, 114(2): 290-301. 2022

Iida H, Tani M, Hirokawa F, Ueno M, Noda T, Takemura S, Nomi T, Nakai T, Kaibori M, Kubo S.
Risk factors for incisional hernia according to different wound sites after open hepatectomy using combinations of vertical and horizontal incisions: A multicenter cohort study.
Ann Gastroenterol Surg, 5(5): 701-710, 2021

Akabori H, Yamamoto H, Shimizu T, Endo Y, Tani T, Tani M.
Involvement of TRPV1-containing peripheral sensory efferents in hemodynamic responses in a rat hemorrhagic shock model.
Surgery, 169(4): 879-884. 2021

Maehira H, Iida H, Maekawa T, Yasukawa D, Mori H, Takebayashi K, Kaida S, Miyake T, Matsubara A, Tani M.
Estimated functional remnant pancreatic volume predicts nonalcoholic fatty liver disease after pancreaticoduodenectomy: Use of computed tomography attenuation value of the pancreas.
HPB (Oxford), 23(5): 802-811, 2021

Noda S, Iida H, Fujimoto T, Wakasugi Y, Yabuta N, Sudou M, Hira D, Tani M, Andoh A, Morita SY, Terada T.
Exploratory analysis of target concentration of lenvatinib in the treatment of hepatocellular carcinoma.
Cancer Chemother Pharmacol, 88(2): 281-288. 2021

Ohta M, Seki Y, Ohyama T, Bai R, Kim SH, Oshiro T, Jiang T, Sasaki A, Naitoh T, Yamaguchi T, Inamine S, Miyazaki Y, Ahn SM, Heo Y, Liang H, Choi SH, Yang W, Yao Q, Inoue K, Yamamoto H, Lee HJ, Park YS, Ha TK, Ryu SW, Wang C, Park S, Kasama K.
Prediction of long-term diabetes remission after metabolic surgery in obese East Asian patients: A comparison between ABCD and IMS scores.
Obes Surg, 31(4): 1485-1495, 2021

Miyake T, Mori H, Yasukawa D, Hexun Z, Maehira H, Ueki T, Kojima M, Kaida S, Iida H, Shimizu T, Ohno M, Andoh A, Tani M.
The comparison of fecal microbiota in left-side and right-side human colorectal cancer.
Eur Surg Res, 62(4): 248-254, 2021

Maehira H, Iida H, Mori H, Yasukawa D, Maekawa T, Muramoto K, Takebayashi K, Kaida S, Miyake T, Tani M.
Superior perianastomotic fluid collection in the early postoperative period affects pseudoaneurysm occurrence after pancreaticoduodenectomy.
Langenbecks Arch Surg, 406(5): 1461-1468, 2021

Seko-Nitta A, Nagatani Y, Murakami Y, Watanabe Y, Nitta N, Murata K, Takemura S, Murata S.
¹⁸F-fluorodeoxyglucose uptake in advanced gastric cancer correlates with histopathological subtypes and volume of tumor stroma.
Eur J Radiol, 145: 110048, 2021

Sonoda H, Shimizu T, Miyake T, Ohta H, Akabori H, Tani M.
Severe mental retardation patient with a de novo chromosomal deletion 5q14-22 can be a carrier of a rectal and duodenal cancer associated with over 200 colorectal polyps: A case report.
Int Surg, 105: 322-326, 2021

- Bamba S, Inatomi O, Takahashi K, Morita Y, Imai T, Ohno M, Kurihara M, Takebayashi K, Kojima M, Iida H, Tani M, Sasaki M.
Assessment of body composition from CT Images at the level of the third lumbar vertebra in inflammatory bowel disease.
Inflamm Bowel Dis, 27(9): 1435-1442, 2021
- Iida H, Maehira H, Mori H, Kodama H, Tokuda A, Takebayashi K, Kojima M, Kaida S, Miyake T, Tani M.
Attenuation around the gallbladder on plain abdominal computed tomography as a predictor of surgical difficulty in laparoscopic cholecystectomy.
Asian J Endosc Surg, 14(4): 724-731, 2021
- Kojima M, Miyake T, Ueki T, Ohta H, Kushima R, Shiohara M, Mizuta H, Iida H, Yamaguchi T, Kaida S, Takebayashi K, Maehira H, Nishina Y, Shimizu T, Mekata E, Tani M.
INI1-negative colorectal undifferentiated carcinoma with rhabdoid features and postoperative rapidly growing liver metastases: A case report and review of the literature.
Surg Case Rep, 7(1): 104, 2021
- Otake R, Okamura A, Yamashita K, Imamura Y, Kanamori J, Kozuki R, Takahashi K, Toihata T, Yamamoto N, Asari T, Mine S, Watanabe M.
Efficacy of postoperative radiotherapy in esophageal squamous cell carcinoma patients with positive circumferential resection margin.
Esophagus, 18(2): 288-295, 2021
- Takahashi K, Watanabe M, Kanie Y, Otake R, Kozuki R, Toihata T, Okamura A, Kanamori J, Imamura Y.
Significance of D-dimer-based screening for detecting pre-operative venous thromboembolism in patients with esophageal cancer after neoadjuvant chemotherapy.
Int J Clin Oncol, 26(6): 1083-1090, 2021
- Takahashi K, Watanabe M, Ushida Y, Kanie Y, Kozuki R, Toihata T, Otake R, Kanamori J, Okamura A, Imamura Y, Mine S.
Comparison of the outcomes between total eversion and conventional triangulating stapling technique in cervical esophagogastric anastomosis after esophagectomy: A propensity score - matched analysis.
Esophagus, 18(3): 475-481, 2021
- Kanamori J, Watanabe M, Kozuki R, Toihata T, Otake R, Takahashi K, Okamura A, Imamura Y, Mine S.
Successful transition from open to minimally invasive approach in Ivor Lewis esophagectomy: A single-center experience in Japan.
Langenbecks Arch Surg, 406(5): 1407-1414, 2021
- Maehira H, Iida H, Mori H, Nitta N, Tokuda A, Takebayashi K, Kaida S, Miyake T, Matsubara A, Tani M.
Pathological complete response in a patient with metastatic pancreatic acinar cell carcinoma who received a chemotherapy regimen containing cisplatin and irinotecan.
Clin J Gastroenterol, 14(6): 1772-1778, 2021
- Maehira H, Tsuji Y, Iida H, Mori H, Nitta N, Maekawa T, Kaida S, Miyake T, Tani M.
Estimated tumor blood flow as a predictive imaging indicator of therapeutic response in pancreatic ductal adenocarcinoma: Use of three - phase contrast - enhanced computed tomography.
Int J Clin Oncol, 27(2): 373-382, 2021
- Okada KI, Kawai M, Hirono S, Sho M, Tani M, Matsumoto I, Yamada S, Amano R, Toyama H, Yamashita YI, Gocho T, Shibuya K, Nagai M, Maehira H, Kamei K, Ohira G, Shirai Y, Takami H, Kimura N, Fukumoto T, Baba H, Kodera Y, Nakao A, Shimokawa T, Katsuda M, Yamaue H.
ISolation procedure vs. conventional procedure during distal pancreatectomy (ISOP-DP trial): Study protocol for a randomized controlled trial.
Trials, 22(1): 633, 2021

Mori H, Iida H, Maehira H, Nitta N, Tani M.

Efficacy of novel microwave energy-based scissors device for laparoscopic liver resection.

J Hepatobiliary Pancreat Sci, 2021

〈和文学術論文〉

岡野純子, 鈴木義久, 荒川篤宏, 荻野秀一, 河合由紀, 冨田 香, 北村美奈, 山口 剛, 谷 眞至

Supercharge を付加した腹直筋皮弁を用いた乳房再建

滋賀医科大学雑誌, 35(1): 1-6, 2022

貝田佐知子, 竹林克士, 大竹玲子, 浦野あゆみ, 西田 香, 栗原美香, 村本圭史, 松永隆志, 森 治樹, 徳田 彩, 前平博充, 東口貴之, 小島正継, 植木智之, 三宅 亨, 山口 剛, 飯田洋也, 佐々木雅也, 谷 眞至

半固形試験食を用いた¹³C呼気試験による胃排出能検査の検討: 健常 volunteer による preliminary data の報告

滋賀医科大学雑誌, 35(1): 16-19, 2022

竹林克士, 貝田佐知子, 山口 剛, 村本圭史, 大竹玲子, 松永隆志, 飯田洋也, 三宅 亨, 植木智之, 小島正継, 前平博充, 東口貴之, 徳田 彩, 森 治樹, 永井 望, 清水智治, 村田 聡, 谷 眞至

食道癌根治術における胃管再建困難症例に対する二期分割食道切除回結腸再建の治療成績

滋賀医科大学雑誌, 35(1): 7-11, 2022

松永隆志, 竹林克士, 貝田佐知子, 山口 剛, 大竹玲子, 三宅 亨, 植木智之, 小島正継, 前平博充, 徳田 彩, 東口貴之, 森 治樹, 新田信人, 村本圭史, 永井 望, 飯田洋也, 清水智治, 谷 眞至

80 歳以上の高齢者胸部食道癌手術症例の治療成績

滋賀医科大学雑誌, 35(1): 28-35, 2022

福尾飛翔, 安川大貴, 山口 剛, 前平博充, 新田信人, 松原亜季子, 飯田洋也, 森 治樹, 貝田佐知子, 三宅 亨, 谷 眞至

環状の造影パターンを呈した腓神経内分泌腫瘍の一例

腓臓, 36(5): 331-338, 2021

三宅 亨, 谷 眞至

大腸癌における線維化の意義と腸内細菌の関与

癌と化学療法, 48(9): 1100-1102, 2021

清水智治, 三宅 亨, 貝田佐知子, 飯田洋也, 田中琢也, 萬代良一, 生野芳博, 野崎和彦, 田中俊宏, 谷 眞至

高難度新規医療技術導入に対する取り組み 高難度新規医療技術導入の運用の現状と問題点

日本外科学会雑誌, 122(5): 549-551, 2021

冨田 香, 河合由紀, 北村美奈, 能島 舞, 森谷鈴子, 目片英治, 谷 眞至

両側乳房全切除術に至った両側異時性肉芽腫性乳腺炎の 1 例

日本臨床外科学会雑誌, 82(7): 1286-1290, 2021

坂井幸子, 嶋村 藍, 加藤久尚, 河合由紀, 清水智治, 谷 眞至

正常肛門を有する直腸腔前庭瘻に対し会陰体形成による修復術を施行した 3 例

日本小児外科学会雑誌, 57(4): 759-764, 2021

坂井幸子, 谷 眞至

胆道閉鎖症

日本臨床 別冊 肝・胆道系症候群, III: 93-97, 2021

石川 健, 竹林克士, 貝田佐知子, 山口 剛, 飯田洋也, 谷 眞至

弓状靱帯症候群に対する腹腔鏡下正中弓状靱帯切離術 — 腓下縁アプローチ法の試みと考察

手術, 75(11): 1709-1714, 2021

嶋村 藍, 坂井幸子, 河合由紀, 清水智治, 谷 眞至
異所性腺に関連した小腸腺筋腫により腸重積症をきたした1か月乳児の1例
日小外会誌, 57(7): 1127-1132, 2021

松原亜季子, 田中えり, 森谷鈴子, 貝田佐知子, 山口 剛, 藤本剛英, 谷 眞至, 稲富 理, 九嶋亮治
de novo 発生と思われる十二指腸低異型度(高分化)管状腺癌の1例
胃と腸, 56(13): 1715-1720, 2021

大町玲雄, 小島正継, 三宅 亨, 植木智之, 飯田洋也, 山口 剛, 石川 健, 貝田佐知子, 竹林克士, 前平博充,
清水智治, 谷 眞至
Lynch 症候群が疑われた腸重積で発症した若年性大腸癌の1例
癌と化学療法, 48(13): 2145-2147, 2021

春田英律, 笠間和典, 関 洋介, 大竹玲子
【肥満外科 A to Z】肥満症に対する外科的治療
臨床外科, 76(4): 417-422, 2021

【著書】

村田 聡, 谷 眞至
4 章 免疫抑制機構と免疫逃避機構 Keyword7 OX40/4-1BB
がん免疫ペディア, 189-191, 2022

【学会発表】

〈国際学会〉

Kaida S, Takebayashi K, Ishikawa K, Yamaguchi T, Murata S, Ueki T, Miyake T, Iida H, Shimizu T, Tani M.
Clinicopathological features and treatment outcomes of esophagogastric junctional carcinoma treated with curative
surgery.
17th ISDE, Virtual Congress, Canada, 2021, Virtual

Shimizu T, Miyake T, Tani M, Kitamura N, Fujino K, Tabata T, Endo Y.
Current status of polymyxin B-immobilized fiber column for treatment of severe sepsis and septic shock.
16th Meeting of the International Endotoxin and Innate Immunity society, Kobe, 2021, Virtual

〈全国学会〉

貝田佐知子, 竹林克士, 大竹玲子, 永井 望, 松永隆志, 徳田 彩, 前平博充, 東口貴之, 小島正継, 植木智之, 三宅 亨,
山口 剛, 飯田洋也, 谷 眞至
当科におけるロボット支援下胃切除の短期成績からみる安全性と定型化、コスト軽減への取り組み
第14回日本ロボット外科学会学術集会, 2022年2月, Web開催(鹿児島)

貝田佐知子, 竹林克士, 山口 剛, 村田 聡, 大竹玲子, 松永隆志, 徳田 彩, 前平博充, 小島正継, 三宅 亨, 植木智之,
飯田洋也, 谷 眞至
胃癌に対するロボット支援/腹腔鏡下胃切除術後の大腰筋体積減少率に関連する因子の検討
第94回日本胃癌学会総会, 2022年3月, 横浜(ハイブリッド開催)

Takebayashi K, Kaida S, Yamaguchi T, Ohtake R, Murata S, Miyake T, Ueki T, Kojima M, Maehira H, Iida H,
Tani M.
Correlation of intra-abdominal infectious complications on survival outcomes in gastric cancer.
第94回日本胃癌学会総会, 2022年3月, 横浜(ハイブリッド開催)

Otake R, Kaida S, Yamaguchi T, Takebayashi K, Murata S, Miyake T, Iida H, Maehira H, Ueki T, Kojima M,
Tani M.
Institutional outcome after gastrectomy for elderly gastric cancer patients
第94回日本胃癌学会総会, 2022年3月, 横浜(ハイブリッド開催)

松永隆志, 前平博充, 飯田洋也, 徳田 彩, 森 治樹, 新田信人, 竹林克士, 貝田佐知子, 三宅 亨, 山口 剛, 谷 眞至
腹腔鏡下胆嚢全摘後の胆嚢断端閉鎖に対する Plugging technique の経験
第 58 回日本腹部救急医学会総会, 2022 年 3 月, 東京

村本圭史, 三宅 亨, 小島正継, 植木智之, 永井 望, 飯田洋也, 松永隆志, 貝田佐知子, 竹林克士, 森 治樹,
前平博充, 東口貴之, 徳田 彩, 山口 剛, 前川 毅, 新田信人, 大竹玲子, 谷 眞至
肝右葉切除後の横隔膜ヘルニア嵌頓に伴う結腸壊死を救命しえた 1 例
第 58 回日本腹部救急医学会総会, 2022 年 3 月, 東京

村田 聡, 竹林克士, 山口 剛, 貝田佐知子, 児玉泰一, 石川 健, 下地みゆき, A Michael Sihombing, 飯田洋也,
前平博充, 小島正継, 三宅 亨, 植木智之, 徳田 彩, 富田 香, 河合由紀, 油木純一, 清水智治, 谷 眞至
がん手術後再発の新たな機序解明が示す外科医による臨床仮説と基礎研究の重要性
第 121 回日本外科学会定期学術集会, 2021 年 4 月, Web 開催 (千葉)

山口 剛, 山本 寛, 貝田佐知子, 石川 健, 竹林克士, 清水智治, 村田 聡, 飯田洋也, 三宅 亨, 河合由紀, 植木智之,
坂井幸子, 小島正継, 前平博充, 児玉泰一, 富田 香, 北村美奈, 徳田 彩, 油木純一, 谷 眞至
2 型糖尿病に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除の寛解予測スコアの比較
第 121 回日本外科学会定期学術集会, 2021 年 4 月, Web 開催 (千葉)

清水智治, 野崎和彦, 三宅 亨, 貝田佐知子, 山口 剛, 河合由紀, 飯田洋也, 谷 眞至
高難度新規医療技術導入の運用の現状と問題点
第 121 回日本外科学会定期学術集会, 2021 年 4 月, Web 開催 (千葉)

小島正継, 三宅 亨, 植木智之, 大塚武人, 飯田洋也, 貝田佐知子, 石川 健, 竹林克士, 前平博充, 児玉泰一, 徳田 彩,
塩見一徳, 前川 毅, 村本圭史, 福尾飛翔, 清水智治, 谷 眞至
直腸神経内分泌腫瘍におけるリンパ節転移リスク因子の検討
第 121 回日本外科学会定期学術集会, 2021 年 4 月, Web 開催 (千葉)

三宅 亨, 森 治樹, 植木智之, 貝田佐知子, 飯田洋也, 山口 剛, 前平博充, 清水智治, 谷 眞至
大腸癌における腫瘍局在が腸内細菌叢に及ぼす影響について
第 121 回日本外科学会定期学術集会, 2021 年 4 月, Web 開催 (千葉)

石川 健, 貝田佐知子, 竹林克士, 徳田 彩, 植木智之, 三宅 亨, 飯田洋也, 山口 剛, 清水智治, 谷 眞至
ロボット手術の Learning curve ~胃切除の出血の原因として牽引把時と剥離切断~
第 121 回日本外科学会定期学術集会, 2021 年 4 月, Web 開催 (千葉)

貝田佐知子, 竹林克士, 石川 健, 山口 剛, 村田 聡, 福尾飛翔, 塩見一徳, 村本圭史, 前川 毅, 徳田 彩, 植木智之,
三宅 亨, 飯田洋也, 谷 眞至
ロボット支援 / 腹腔鏡下胃切除術における術後短期成績の比較とロボット特有の術中インシデントについての報告
第 121 回日本外科学会定期学術集会, 2021 年 4 月, Web 開催 (千葉)

飯田洋也, 前平博充, 森 治樹, 村本圭史, 前川 毅, 塩見一徳, 竹林克士, 小島正継, 植木智之, 貝田佐知子, 三宅 亨,
谷 眞至
肝切除術後合併症予測に対する術前活動量測定の有用性 -Prospective observational study-
第 121 回日本外科学会定期学術集会, 2021 年 4 月, Web 開催 (千葉)

前平博充, 飯田洋也, 安川大貴, 森 治樹, 新田信人, 前川 毅, 竹林克士, 貝田佐知子, 三宅 亨, 谷 眞至
術前 CT 所見による睪頭十二指腸切除後脂肪肝の予測可能性
第 121 回日本外科学会定期学術集会, 2021 年 4 月, Web 開催 (千葉)

植木智之, 三宅 亨, 小島正継, 前平博充, 竹林克士, 貝田佐知子, 飯田洋也, 山口 剛, 谷 眞至
腹腔鏡下結腸・直腸切除術における側端吻合による DST 導入後の周術期成績の検討
第 121 回日本外科学会定期学術集会, 2021 年 4 月, Web 開催 (千葉)

竹林克士, 貝田佐知子, 山口 剛, 石川 健, 三宅 亨, 植木智之, 小島正継, 前平博充, 徳田 彩, 児玉泰一, 飯田洋也, 谷 眞至

胸部食道癌術後体重減少に関する検討

第 121 回日本外科学会定期学術集会, 2021 年 4 月, Web 開催 (千葉)

嶋村 藍, 坂井幸子, 久保田良浩, 清水智治, 谷 眞至

胎便関連性腸閉塞の手術適応と至適手術時期に関する検討

第 58 回日本小児外科学会学術集会, 2021 年 4 月, 横浜 (ハイブリッド開催)

Tani M.

New metastasectomy criteria for peritoneal metastasis of hepatocellular carcinoma -A study of the Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery-

第 33 回日本肝胆膵外科学会学術集会, 2021 年 6 月, Web 開催 (大阪)

Iida H, Maehira H, Mori H, Kodama H, Nitta N, Tokuda A, Takebayashi K, Kojima M, Kaida S, Ueki T, Miyake T, Yamaguchi T, Shimizu T, Tani M.

Utility of preoperative physical activity level measuring by accelerometer for predicting complications after hepatectomy.

第 33 回日本肝胆膵外科学会学術集会, 2021 年 6 月, Web 開催 (大阪)

Maehira H, Iida H, Nitta N, Yasukawa D, Mori H, Tokuda A, Maekawa T, Kaida S, Miyake T, Tani M.

Effectiveness of postoperative early administration of pancrelipase after pancreatectomy.

第 33 回日本肝胆膵外科学会学術集会, 2021 年 6 月, Web 開催 (大阪)

Ueno M, Hirokawa F, Kosaka H, Nakai T, Nomi T, Iida H, Tanaka S, Hayami S, Komeda K, Matsumoto M, Hokuto D, Mori D, Takemura S, Kaibori M, Yamaue H, Kubo S.

Perioperative events have prognostic influence on patients with synchronous and multiple colorectal liver metastases: Multicenter retrospective study.

第 33 回日本肝胆膵外科学会学術集会, 2021 年 6 月, Web 開催 (大阪)

Tanaka S, Iida H, Ueno M, Hirokawa F, Nomi T, Nakai T, Kaibori M, Ikoma H, Noda T, Shinkawa H, Maehira H, Hayami S, Komeda K, Kubo S.

Development of nomogram to predict postoperative loss of independence following liver resection in older adults: A prospective multicenter study with bootstrap analysis

第 33 回日本肝胆膵外科学会学術集会, 2021 年 6 月, Web 開催 (大阪)

Maekawa T, Maehira T, Iida H, Yasukawa D, Mori H, Nitta N, Kaida S, Miyake T, Takebayashi K, Tani M.

Estimated functional remnant pancreatic volume as a predictor for nonalcoholic fatty liver disease after pancreaticoduodenectomy.

第 33 回日本肝胆膵外科学会学術集会, 2021 年 6 月, Web 開催 (大阪)

北村美奈, 河合由紀, 勝本さえ子, 辰巳征浩, 富田 香, 森 毅, 梅田朋子, 谷 眞至

当院におけるコンパニオン診断と HBOC 診断のための BRCA1/2 遺伝子検査の現状について

第 29 回日本乳癌学会学術総会, 2021 年 7 月, 横浜 (ハイブリッド開催)

辰巳征浩, 梅田朋子, 油木純一, 八木俊和, 来見良誠, 谷 眞至

疼痛を主訴として受診した乳房神経鞘腫の 1 例

第 29 回日本乳癌学会学術総会, 2021 年 7 月, 横浜 (ハイブリッド開催)

植木智之, 三宅 亨, 小島正継, 前平博充, 竹林克士, 貝田佐知子, 飯田洋也, 山口 剛, 清水智治, 谷 眞至

当院における癌・異形成を合併した潰瘍性大腸炎の手術治療成績の検討

第 76 回日本消化器外科学会総会, 2021 年 7 月, 京都 (ハイブリッド開催)

前川 毅, 前平博充, 飯田洋也, 新田信人, 安川大貴, 森 治樹, 竹林克士, 貝田佐知子, 三宅 亨, 谷 眞至

推定機能的残腔量を用いた膵頭十二指腸切除術後非アルコール性脂肪肝の発症予測

第 76 回日本消化器外科学会総会, 2021 年 7 月, 京都 (ハイブリッド開催)

福尾飛翔, 小島正継, 谷 眞至

骨盤内後腹膜を原発とした solitary fibrous tumor の1例

第76回日本消化器外科学会総会, 2021年7月, 京都 (ハイブリッド開催)

三宅 亨, 清水智治, 植木智之, 小島正継, 前平博充, 竹林克士, 貝田佐知子, 飯田洋也, 山口 剛, 谷 眞至
術前プロカルシトニンが大腸癌の長期予後に及ぼす影響について

第76回日本消化器外科学会総会, 2021年7月, 京都 (ハイブリッド開催)

前平博充, 飯田洋也, 村本圭史, 新田信人, 森 治樹, 竹林克士, 貝田佐知子, 三宅 亨, 山口 剛, 谷 眞至
当科における腹腔鏡下胆嚢摘出術困難症例に対する指導の工夫

第76回日本消化器外科学会総会, 2021年7月, 京都 (ハイブリッド開催)

貝田佐知子, 竹林克士, 石川 健, 山口 剛, 前平博充, 小島正継, 植木智之, 三宅 亨, 飯田洋也, 谷 眞至
胃癌に対するロボット支援/腹腔鏡下胃切除術の術後短期成績の比較-Propensity score matchingを用いた検討-

第76回日本消化器外科学会総会, 2021年7月, 京都 (ハイブリッド開催)

飯田洋也, 前平博充, 森 治樹, 三宅 亨, 植木智之, 小島正継, 山口 剛, 貝田佐知子, 竹林克士, 谷 眞至
高齢者における肝切除周術期の活動量が術後合併症に与える影響

第76回日本消化器外科学会総会, 2021年7月, 京都 (ハイブリッド開催)

村本圭史, 前平博充, 飯田洋也, 新田信人, 森 治樹, 安川大貴, 竹林克士, 貝田佐知子, 三宅 亨, 谷 眞至
膵頭十二指腸切除術後臨床的膵液瘻症例における仮性動脈瘤発生リスク因子の検討

第76回日本消化器外科学会総会, 2021年7月, 京都 (ハイブリッド開催)

竹林克士, 貝田佐知子, 山口 剛, 石川 健, 三宅 亨, 植木智之, 小島正継, 前平博充, 飯田洋也, 谷 眞至
高齢者食道癌手術症例の治療成績に関する検討

第76回日本消化器外科学会総会, 2021年7月, 京都 (ハイブリッド開催)

村田 聡, Andreas Sihombing, 下地みゆき, 竹林克士, 山口 剛, 貝田佐知子, 児玉泰一, 三宅 亨, 飯田洋也, 谷 眞至

胃癌手術操作により誘導される腹腔内炎症が腹膜播種性転移に与える影響についての実験的解析

第76回日本消化器外科学会総会, 2021年7月, 京都 (ハイブリッド開催)

小島正継, 三宅 亨, 植木智之, 飯田洋也, 前平博充, 山口 剛, 貝田佐知子, 竹林克士, 清水智治, 谷 眞至
サルコペニア内臓肥満が、大腸癌手術症例の予後に与える影響の検討

第76回日本消化器外科学会総会, 2021年7月, 京都 (ハイブリッド開催)

徳田 彩, 三宅 亨, 飯田洋也, 山口 剛, 貝田佐知子, 植木智之, 小島正継, 竹林克士, 前平博充, 谷 眞至
CT26大腸癌由来エクソソームはIFN γ を介してマクロファージを活性化する

第76回日本消化器外科学会総会, 2021年7月, 京都 (ハイブリッド開催)

土橋果実, 三宅 亨, 植木智之, 小島正継, 竹林克士, 貝田佐知子, 飯田洋也, 山口 剛, 清水智治, 谷 眞至
腸管パーチェット病に対して外科治療を要した7例の臨床的検討

第76回日本消化器外科学会総会, 2021年7月, 京都 (ハイブリッド開催)

山口 剛, 山本 寛, 友澤裕樹, 貝田佐知子, 石川 健, 竹林克士, 飯田洋也, 三宅 亨, 清水智治, 谷 眞至
腹腔鏡下スリーブ状胃切除後の残胃体積および大きさと術後減量効果との関係

第76回日本消化器外科学会総会, 2021年7月, 京都 (ハイブリッド開催)

貝田佐知子, 竹林克士, 石川 健, 山口 剛, 栗原美香, 福尾飛翔, 徳田 彩, 児玉泰一, 前平博充, 小島正継, 植木智之, 三宅 亨, 飯田洋也, 佐々木雅也, 谷 眞至

腹腔鏡/ロボット支援下胃切除術における術前後の大腰筋体積(PMV)減少率に関連する因子の検討

第36回日本臨床栄養代謝学会学術集会, 2021年7月, 神戸 (ハイブリッド開催)

竹林克士, 貝田佐知子, 山口 剛, 石川 健, 三宅 亨, 植木智之, 小島正継, 前平博充, 飯田洋也, 馬場重樹, 佐々木雅也, 谷 眞至

胸部食道癌周術期における栄養管理の工夫

第 36 回日本臨床栄養代謝学会学術集会, 2021 年 7 月, 神戸 (ハイブリッド開催)

前平博充, 飯田洋也, 竹林克士, 小島正継, 貝田佐知子, 三宅 亨, 山口 剛, 馬場重樹, 佐々木雅也, 谷 眞至
膵切除後におけるパングレリパーゼ早期投与の有用性

第 36 回日本臨床栄養代謝学会学術集会, 2021 年 7 月, 神戸 (ハイブリッド開催)

飯田洋也, 前平博充, 森 治樹, 竹林克士, 小島正継, 栗原美香, 馬場重樹, 佐々木雅也, 谷 眞至

亜全胃温存膵頭十二指腸切除における、胃空腸吻合部の位置が術後の食事量に与える影響

第 36 回日本臨床栄養代謝学会学術集会, 2021 年 7 月, 神戸 (ハイブリッド開催)

小島正継, 植木智之, 三宅 亨, 飯田洋也, 竹林克士, 馬場重樹, 山口 剛, 貝田佐知子, 清水智治, 佐々木雅也, 谷 眞至

サルコペニアと肥満が、S 状結腸癌および直腸 S 状部癌に対する腹腔鏡手術での術後合併症に与える影響

第 36 回日本臨床栄養代謝学会学術集会, 2021 年 7 月, 神戸 (ハイブリッド開催)

竹林克士, 貝田佐知子, 山口 剛, 石川 健, 三宅 亨, 植木智之, 小島正継, 前平博充, 飯田洋也, 谷 眞至
食道癌術後早期在宅経腸栄養の有用性に関する検討

第 75 回日本食道学会学術集会, 2021 年 9 月, 東京 (ハイブリッド開催)

前平博充, 辻 喜久, 飯田洋也, 森 治樹, 新田信人, 前川 毅, 竹林克士, 貝田佐知子, 三宅 亨, 谷 眞至
膵癌における腫瘍内血行動態と術前治療後組織学的効果判定との関連性

第 52 回日本膵臓学会大会, 2021 年 9 月, 東京 (ハイブリッド開催)

前川 毅, 前平博充, 飯田洋也, 森 治樹, 新田信人, 谷 眞至

推定機能的残膵量は膵頭十二指腸切除術後非アルコール性脂肪肝の発症を予測する

第 52 回日本膵臓学会大会, 2021 年 9 月, 東京 (ハイブリッド開催)

前平博充, 飯田洋也, 森 治樹, 新田信人, 前川 毅, 村本圭史, 竹林克士, 貝田佐知子, 三宅 亨, 谷 眞至
腹腔鏡下胆嚢亜全摘における胆嚢管処理困難症例に対する断端処理方法の検討

第 57 回日本胆道学会学術集会, 2021 年 10 月, 東京 (ハイブリッド開催)

村田 聡, Andreas M Sihombing, 下地みゆき, 竹林克士, 児玉泰一, 貝田佐知子, 山口 剛, 三宅 亨, 小島正継, 植木智之, 徳田彩, 前平博充, 飯田洋也, 清水智治, 谷 眞至

CD44 陽性癌幹細胞をターゲットとした胃癌術後腹膜再発予防法の開発

第 59 回日本癌治療学会学術集会, 2021 年 10 月, 横浜 (ハイブリッド開催)

森 治樹, 阿部雄一, 夏目誠治, 木下敬史, 大内 晶, 三宅 亨, 飯田洋也, 細田和貴, 小森康司, 清水泰博, 谷 眞至, 田口 歩

In vitro 転移モデルのマルチオミクス解析による大腸癌転移機構の解明と制御法の開発

第 59 回日本癌治療学会学術集会, 2021 年 10 月, 横浜 (ハイブリッド開催)

前川 毅, 三宅 亨, 張 赫恂, 安川大貴, 森 治樹, 貝田佐知子, 飯田洋也, 新田信人, 全 有美, 谷 眞至

リンパ節転移陽性胃癌における転移リンパ節の線維化は予後不良因子である

第 59 回日本癌治療学会学術集会, 2021 年 10 月, 横浜 (ハイブリッド開催)

新田信人, 大木克久, 杉浦禎一, 岡村行泰, 蘆田 良, 山田美保子, 大塚新平, 谷 眞至, 上坂克彦

肝外胆管癌切除例における再発形式と生存成績の検討

第 59 回日本癌治療学会学術集会, 2021 年 10 月, 横浜 (ハイブリッド開催)

竹林克士, 村田 聡, 貝田佐知子, 山口 剛, 石川 健, 三宅 亨, 植木智之, 小島正継, 前平博充, 飯田洋也, 谷 眞至

胃癌手術における術中癌細胞散布と腹腔内感染性合併症の再発予後への影響

第 19 回日本消化器外科学会大会, 2021 年 11 月, 神戸 (ハイブリッド開催)

村本圭史, 石川 健, 貝田佐知子, 竹林克士, 児玉泰一, 塩原正規, 森谷鈴子, 九嶋亮治, 前平博充, 植木智之, 三宅 亨, 飯田洋也, 谷 眞至

腹腔鏡下に根治切除を施行しえた肝円索原発 PEComa の 1 例

第 19 回日本消化器外科学会大会, 2021 年 11 月, 神戸 (ハイブリッド開催)

貝田佐知子, 竹林克士, 石川 健, 児玉泰一, 徳田 彩, 前平博充, 小島正継, 植木智之, 三宅 亨, 山口 剛, 飯田洋也, 谷 眞至

ロボット支援 / 腹腔鏡下噴門側胃切除における食道残胃吻合再建 (Side-Overlap) 法の短期成績

第 19 回日本消化器外科学会大会, 2021 年 11 月, 神戸 (ハイブリッド開催)

植木智之, 三宅 亨, 小島正継, 前平博充, 竹林克士, 貝田佐知子, 飯田洋也, 山口 剛, 清水智治, 谷 眞至

サルコペニアが潰瘍性大腸炎の術後合併症に与える影響の検討

第 19 回日本消化器外科学会大会, 2021 年 11 月, 神戸 (ハイブリッド開催)

山口 剛, 山本 寛, 貝田佐知子, 石川 健, 竹林克士, 清水智治, 村田 聡, 飯田洋也, 三宅 亨, 植木智之, 坂井幸子, 小島正継, 前平博充, 児玉泰一, 冨田 香, 北村美奈, 徳田 彩, 前川 毅, 村本圭史, 谷 眞至

腹腔鏡下スリーブ状胃切除術後 3 年における 2 型糖尿病寛解率と寛解予測スコアの検討

第 19 回日本消化器外科学会大会, 2021 年 11 月, 神戸 (ハイブリッド開催)

三宅 亨, 植木智之, 小島正継, 清水智治, 前平博充, 竹林克士, 貝田佐知子, 飯田洋也, 山口 剛, 谷 眞至

プロペンシティスコア分析を用いた腹腔鏡下大腸手術術後におけるアセトアミノフェン定期投与に関する検討

第 19 回日本消化器外科学会大会, 2021 年 11 月, 神戸 (ハイブリッド開催)

前平博充, 辻 喜久, 飯田洋也, 森 治樹, 新田信人, 前川 毅, 貝田佐知子, 三宅 亨, 竹林克士, 谷 眞至

造影 CT による膵癌術前治療の組織学的効果判定予測因子の検討

第 19 回日本消化器外科学会大会, 2021 年 11 月, 神戸 (ハイブリッド開催)

村田 聡, 竹林克士, 山口 剛, 貝田佐知子, 児玉泰一, Andreas Michael Sihombing, 下地みゆき, 小島正継, 三宅 亨, 前平博充, 植木智之, 徳田 彩, 飯田洋也, 谷 眞至

胃癌術後腹膜再発と CD44 陽性腹腔内癌細胞との関係

第 19 回日本消化器外科学会大会, 2021 年 11 月, 神戸 (ハイブリッド開催)

飯田洋也, 前平博充, 森 治樹, 三宅 亨, 植木智之, 小島正継, 貝田佐知子, 竹林克士, 前川 毅, 村本圭史, 山口 剛, 谷 眞至

ウェアラブルデバイスによる高齢者肝切除の術後合併症予測

第 19 回日本消化器外科学会大会, 2021 年 11 月, 神戸 (ハイブリッド開催)

永井 望, 小島正継, 三宅 亨, 植木智之, 飯田洋也, 山口 剛, 貝田佐知子, 竹林克士, 前平博充, 谷 眞至

骨盤内に発生した後腹膜特発性 chronic expanding hematoma の 1 例

第 19 回日本消化器外科学会大会, 2021 年 11 月, 神戸 (ハイブリッド開催)

前川 毅, 飯田洋也, 前平博充, 森 治樹, 三宅 亨, 植木智之, 小島正継, 貝田佐知子, 竹林克士, 村本圭史, 山口 剛, 谷 眞至

亜全胃温存瘻頭十二指腸切除における胃空腸吻合部の位置は術後の食事量に影響する

第 19 回日本消化器外科学会大会, 2021 年 11 月, 神戸 (ハイブリッド開催)

森 治樹, 阿部雄一, 田口 歩

In vitro 大腸癌転移モデルの多層オミクス解析に基づく転移分子機構解明とその制御法の開発

第 63 回日本消化器病学会大会・第 19 回日本消化器外科学会大会, 2021 年 11 月, 神戸 (ハイブリッド開催)

三宅 亨, 植木智之, 小島正継, 前平博充, 竹林克士, 貝田佐知子, 飯田洋也, 山口 剛, 清水智治, 谷 眞至

高齢者大腸癌における術後合併症に対する周術期予測因子の検討

第 76 回日本大腸肛門病学会学術集会, 2021 年 11 月, 広島 (ハイブリッド開催)

植木智之, 三宅 亨, 小島正継, 清水智治, 谷 眞至

当院における左側閉塞性大腸癌の治療成績の検討－自己拡張型金属ステントと経肛門的イレウス管との比較－
第76回日本大腸肛門病学会学術集会, 2021年11月, 広島 (ハイブリッド開催)

竹林克士, 貝田佐知子, 山口 剛, 大竹玲子, 三宅 亨, 植木智之, 小島正継, 前平博充, 徳田 彩, 飯田洋也,
谷 眞至

食道癌術後再発において配偶者の有無が予後に与える影響
第83回日本臨床外科学会総会, 2021年11月, 東京 (ハイブリッド開催)

村田 聡, 山口 剛, 貝田佐知子, 児玉泰一, 竹林克士, M Sihombing Andreas, 下地みゆき, 小島正継, 三宅 亨,
前平博充, 植木智之, 徳田 彩, 飯田洋也, 谷 眞至

術後腹膜転移発症原因としての腹腔内CD44発現がん細胞
第83回日本臨床外科学会総会, 2021年11月, 東京 (ハイブリッド開催)

飯田洋也, 前平博充, 森 治樹, 新田信人, 前川 毅, 徳田 彩, 貝田佐知子, 竹林克士, 三宅 亨, 植木智之, 小島正継,
村本圭史, 永井 望, 山口 剛, 谷 眞至

肝切除後の胸水貯留に対する、トルバプタン早期投与の効果
第83回日本臨床外科学会総会, 2021年11月, 東京 (ハイブリッド開催)

田中肖吾, 飯田洋也, 上野昌樹, 廣川文鋭, 野見武男, 中居卓也, 海堀昌樹, 生駒久視, 野田剛広, 久保正二
フレイルを有する高齢者に対する肝切除が短期治療成績に及ぼす影響に関する前向き多施設共同研究

第83回日本臨床外科学会総会, 2021年11月, 東京 (ハイブリッド開催)

山口 剛, 山本 寛, 貝田佐知子, 竹林克士, 大竹玲子, 清水智治, 村田 聡, 飯田洋也, 三宅 亨, 植木智之, 坂井幸子,
小島正継, 前平博充, 徳田 彩, 谷 眞至

腹腔鏡下スリーブ状胃切除術時の視野展開と胃管の捻れ予防の工夫
第83回日本臨床外科学会総会, 2021年11月, 東京 (ハイブリッド開催)

新田信人, 前平博充, 飯田洋也, 徳田 彩, 森 治樹, 前川 毅, 竹林克士, 貝田佐知子, 三宅 亨, 谷 眞至
膵頭十二指腸切除における早期ドレーン抜去後再ドレナージ危険因子の検討

第83回日本臨床外科学会総会, 2021年11月, 東京 (ハイブリッド開催)

前平博充, 飯田洋也, 森 治樹, 新田信人, 前川 毅, 徳田 彩, 竹林克士, 貝田佐知子, 三宅 亨, 谷 眞至
膵癌に対する膵切除後におけるパングレリパーゼ早期投与の臨床的意義

第83回日本臨床外科学会総会, 2021年11月, 東京 (ハイブリッド開催)

貝田佐知子, 竹林克士, 大竹玲子, 松永隆志, 前平博充, 東口貴之, 小島正継, 植木智之, 三宅 亨, 山口 剛, 飯田洋也,
谷 眞至

腹腔鏡下胃切除からロボット支援下胃切除への移行に向けて～超音波凝固切開装置の柔軟な使用方法～
第34回日本内視鏡外科学会総会, 2021年12月, 神戸 (ハイブリッド開催)

山口 剛, 山本 寛, 貝田佐知子, 竹林克士, 大竹玲子, 清水智治, 村田 聡, 飯田洋也, 三宅 亨, 植木智之, 坂井幸子,
小島正継, 前平博充, 徳田 彩, 谷 眞至

腹腔鏡下スリーブ状胃切除後の幽門-ステーブル間距離と術後減量効果および嘔吐頻度に関する検討
第34回日本内視鏡外科学会総会, 2021年12月, 神戸 (ハイブリッド開催)

太田正之, 関洋介, 大城崇司, 佐々木章, 内藤 剛, 山口 剛, 稲嶺 進, 宮崎安弘, 井上健太郎, 山本 寛, 遠藤裕一,
猪股雅史, 笠間和典

東アジア人に対する減量・代謝改善手術後の糖尿病寛解予測スコアの比較
第34回日本内視鏡外科学会総会, 2021年12月, 神戸 (ハイブリッド開催)

山口 剛, 山本 寛, 貝田佐知子, 竹林克士, 大竹玲子, 清水智治, 村田 聡, 飯田洋也, 三宅 亨, 植木智之, 坂井幸子,
小島正継, 前平博充, 徳田 彩, 谷 眞至

肥満外科手術の継承と発展
第34回日本内視鏡外科学会総会, 2021年12月, 神戸 (ハイブリッド開催)

山本 寛, 神谷純広, 井上健太郎, 岩田辰吾, 北浜誠一, 篠原尚, 千野佳秀, 戸川剛, 宮崎安弘, 山口 剛, 谷 眞至
「近畿肥満外科治療研究会」の取り組みと今後の課題
第 34 回日本内視鏡外科学会総会, 2021 年 12 月, 神戸 (ハイブリッド開催)

小島正継, 三宅 亨, 植木智之, 飯田洋也, 貝田佐知子, 竹林克士, 前平博充, 山口 剛, 清水智治, 谷 眞至
大腸癌 pStage III 腹腔鏡手術症例におけるフレイルが治療・予後に与える影響に関する検討
第 34 回日本内視鏡外科学会総会, 2021 年 12 月, 神戸 (ハイブリッド開催)

三宅 亨, 植木智之, 小島正継, 東口貴之, 前平博充, 竹林克士, 貝田佐知子, 飯田洋也, 山口 剛, 清水智治,
谷 眞至
腹腔鏡下大腸手術における回腸人工肛門造設後の Outlet obstruction に関する検討
第 34 回日本内視鏡外科学会総会, 2021 年 12 月, 神戸 (ハイブリッド開催)

東口貴之, 三宅 亨, 植木智之, 小島正継, 村本圭史, 前平博充, 竹林克士, 貝田佐知子, 山口 剛, 飯田洋也,
谷 眞至
高齢者の直腸脱患者に対して施行した腹腔鏡下直腸固定術の有効性および安全性
第 34 回日本内視鏡外科学会総会, 2021 年 12 月, 神戸 (ハイブリッド開催)

植木智之, 三宅 亨, 小島正継, 前平博充, 竹林克士, 貝田佐知子, 飯田洋也, 山口 剛, 清水智治, 谷 眞至
当院における自己拡張型金属ステント留置後に腹腔鏡下切除術を施行した閉塞性大腸癌の治療成績の検討
第 34 回日本内視鏡外科学会総会, 2021 年 12 月, 神戸 (ハイブリッド開催)

竹林克士, 貝田佐知子, 山口 剛, 三宅 亨, 植木智之, 前平博充, 飯田洋也, 谷 眞至
腹臥位胸腔鏡下食道切除における血管走行を意識した左反回神経周囲リンパ節郭清
第 34 回日本内視鏡外科学会総会, 2021 年 12 月, 神戸 (ハイブリッド開催)

前平博充, 飯田洋也, 森 治樹, 新田信人, 前川 毅, 徳田 彩, 竹林克士, 貝田佐知子, 三宅 亨, 谷 眞至
当科における臍頭十二指腸切除後瘻液瘻関連合併症に対する対策
第 34 回日本外科感染症学会学術集会, 2021 年 12 月, 福岡 (ハイブリッド開催)

飯田洋也, 前平博充, 徳田 彩, 森 治樹, 新田信人, 三宅 亨, 植木智之, 小島正継, 貝田佐知子, 竹林克士, 山口 剛,
谷 眞至
急性胆嚢炎に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術における、胆嚢周囲脂肪織 CT 値測定の有用性
第 34 回日本外科感染症学会学術集会, 2021 年 12 月, 福岡 (ハイブリッド開催)

三宅 亨, 徳田 彩, 前川 毅, 森 治樹, 小島正継, 植木智之, 貝田佐知子, 飯田洋也, 谷 眞至
大腸癌における先進部の腫瘍浸潤免疫細胞と線維化の関与について
第 34 回日本バイオセラピー学会学術集会総会, 2021 年 12 月, 和歌山

〈研究会・その他〉

村本圭史, 貝田佐知子, 大竹玲子, 竹林克士, 永井 望, 松永隆志, 森 治樹, 徳田 彩, 東口貴之, 前平博充,
小島正継, 植木智之, 三宅 亨, 山口 剛, 飯田洋也, 谷 眞至
巨大肝嚢胞に対する腹腔鏡下肝嚢胞開窓術の術後胆汁瘻予防に術中蛍光インドシアニングリーン蛍光法が有用であつた 1 例
第 27 回滋賀内視鏡手術研究会, 2022 年 1 月, 大津

植木智之, 三宅 亨, 小島正継, 貝田佐知子, 飯田洋也, 清水智治, 谷 眞至
当院における Stage II 大腸癌の再発リスク因子についての検討
第 96 回大腸癌研究会, 2022 年 1 月, 東京 (ハイブリッド開催)

三宅 亨, 植木智之, 小島正継, 松永隆志, 清水智治, 貝田佐知子, 飯田洋也, 谷 眞至
直腸癌術後吻合部再発に対する経肛門の内視鏡併用下の切除例に関する検討
第 96 回大腸癌研究会, 2022 年 1 月, 東京 (ハイブリッド開催)

新田信人, 飯田洋也, 藤本剛英, 松本寛史, 新谷修平, 大井雅之, 前平博充, 徳田 彩, 森 治樹, 前川 毅, 安藤 朗, 谷 眞至

肝細胞癌に対するアテゾリズマブ+ベバシズマブ投与後に腫瘍出血を認めた2例
日本消化器病学会近畿支部 第116回例会, 2022年2月, 大阪

井上博登, 松本寛史, 谷 眞至, 安藤 朗

切除不能進行・再発胃癌患者に対してのNivolumab療法の効果予測因子の検討
日本消化器病学会近畿支部 第116回例会, 2022年2月, 大阪

三宅 亨, Zhang Hexun, 森 治樹, 貝田佐知子, 飯田洋也, 谷 眞至

大腸癌におけるリンパ球浸潤と腸内細菌叢の関与について
第54回制癌剤適応研究会, 2022年2月, 富山 (Web・誌上開催)

森 治樹, 三宅 亨, 飯田洋也, 前平博充, 新田信人, 貝田佐知子, 谷 眞至

大腸癌肝転移巣の病理組織学的進展形態と予後解析の検討
第54回制癌剤適応研究会, 2022年2月, 富山 (Web・誌上開催)

竹林克士, 貝田佐知子, 山口 剛, 石川 健, 児玉泰一, 徳田 彩, 前平博充, 小島正継, 植木智之, 三宅 亨, 飯田洋也, 谷 眞至

当院における腹臥位胸腔鏡下食道切除術の上縦隔郭清の工夫
第75回手術手技研究会, 2021年5月, 静岡 (ハイブリッド開催)

貝田佐知子, 石川 健, 竹林克士, 山口 剛, 児玉泰一, 徳田 彩, 前平博充, 小島正継, 植木智之, 三宅 亨, 飯田洋也, 谷 眞至

腹腔鏡/ロボット支援下噴門側胃切除における食道残胃吻合再建 (Side-Overlap) 術の短期成績
第75回手術手技研究会, 2021年5月, 静岡 (ハイブリッド開催)

前平博充, 飯田洋也, 村本圭史, 前川 毅, 新田信人, 森 治樹, 安川大貴, 竹林克士, 貝田佐知子, 三宅 亨, 山口 剛, 谷 眞至

当科における腹腔鏡下胆嚢摘出術における胆嚢管処理困難症例への対策
第75回手術手技研究会, 2021年5月, 静岡 (ハイブリッド開催)

三宅 亨, 植木智之, 小島正継, 貝田佐知子, 森 治樹, 前川 毅, 全 有美, 飯田洋也, 谷 眞至

大腸癌における炎症が腸内細菌に及ぼす影響について
第42回癌免疫外科研究会, 2021年5月, Web開催 (山口)

小島正継, 三宅 亨, 植木智之, 飯田洋也, 貝田佐知子, 竹林克士, 前平博充, 山口 剛, 清水智治, 谷 眞至

高齢者大腸癌 pStage III 手術症例の補助化学療法に関する検討
第95回大腸癌研究会, 2021年7月, 旭川 (ハイブリッド開催)

飯田洋也, 藤本剛英, 松本寛史, 新谷修平, 大井雅之, 前平博充, 森 治樹, 安藤 朗, 谷 眞至

肝細胞癌に対するアテゾリズマブ+ベバシズマブ投与後に腫瘍出血を認めた2例
第57回日本肝癌研究会, 2021年7月, 鹿児島 (ハイブリッド開催)

田中肖吾, 飯田洋也, 上野昌樹, 廣川文鋭, 野見武男, 中居卓也, 海堀昌樹, 生駒久視, 野田剛広, 大沢愛子, 久保正二

高齢者肝癌の切除治療標準化で残された課題と未来像
第57回日本肝癌研究会, 2021年7月, 鹿児島 (ハイブリッド開催)

前平博充, 飯田洋也, 森 治樹, 新田信人, 前川 毅, 竹林克士, 貝田佐知子, 三宅 亨, 谷 眞至

術前 CT と病理学的所見から推定した機能的残存量の臨床的意義
第48回日本瘻切研究会, 2021年8月, Web開催 (島根)

前川 毅, 前平博充, 飯田洋也, 徳田 彩, 森 治樹, 新田信人, 谷 眞至
膵切除における筋肉量と術後栄養状態の関係
第 48 回日本膵切研究会, 2021 年 8 月, Web 開催 (島根)

新田信人, 前平博充, 飯田洋也, 森 治樹, 前川 毅, 竹林克士, 貝田佐知子, 三宅 亨, 谷 眞至
膵切除後早期パンクレリパーゼ投与が術後栄養状態に与える影響
第 48 回日本膵切研究会, 2021 年 8 月, Web 開催 (島根)

飯田洋也, 前平博充, 森 治樹, 新田信人, 徳田 彩, 山田篤史, 仲 成幸, 谷 徹, 谷 眞至
新規マイクロ波エネルギーデバイス (Acrosurg.Revo S) を用いた腹腔鏡下肝切除
第 40 回 Microwave Surgery 研究会, 2021 年 9 月, 東京 (ハイブリッド開催)

貝田佐知子, 竹林克士, 大竹玲子, 松永隆志, 生地笑子, 徳田 彩, 前平博充, 東口貴之, 坂井幸子, 小島正継, 植木智之,
三宅 亨, 山口 剛, 飯田洋也, 谷 眞至
当科における鏡視下手術の導入普及と女性外科医活躍に向けた取り組み
第 34 回近畿内視鏡外科研究会, 2021 年 9 月, Web 開催 (大阪)

山口 剛, 山本 寛, 貝田佐知子, 竹林克士, 大竹玲子, 清水智治, 村田 聡, 飯田洋也, 三宅 亨, 植木智之, 坂井幸子,
小島正継, 前平博充, 徳田 彩, 谷 眞至
腹腔鏡下スリーブ状胃切除後の幽門 - ステープル間距離と術後減量効果および嘔吐頻度に関する検討
第 34 回近畿内視鏡外科研究会, 2021 年 9 月, Web 開催 (大阪)

貝田佐知子, 竹林克士, 大竹玲子, 松永隆志, 前平博充, 植木智之, 三宅 亨, 山口 剛, 飯田洋也, 谷 眞至
ロボット支援 / 腹腔鏡下噴門側胃切除食道残胃吻合再建法におけるベストチョイス「mSOFY 法」
第 51 回胃外科・術後障害研究会, 2021 年 11 月, Web 開催 (東京)

山下裕玄, 豊田和宏, 國崎主税, 瀬下明良, 衛藤 剛, 小川 了, 馬場秀夫, 出村公一, 貝田佐知子, 中田浩二
食道胃接合部癌に対する術式選択の現状について -PGSAS NEXT スタディより -
第 51 回胃外科・術後障害研究会, 2021 年 11 月, Web 開催 (東京)

滋賀医科大学外科学講座（心臓血管外科）

【論文発表】

〈英文学術論文〉

Matsubayashi Y, Takashima N, Kondo Y, Wakisaka H, Suzuki T.

Infected aortic aneurysm caused by streptococcus zooepidemicus: A case report and literature review.
Ann Vasc Dis, 25-14(1);71-74, 2021

Hachiro K, Kinoshita T, Suzuki T, Asai T.

Impact of aortic valve replacement for aortic stenosis on coexisting mitral stenosis.
Ann Thorac Cardiovasc Surg, 27(5): 311-316, 2021

Kinoshita T, Yoshida K, Suzuki T, Asai T.

Longitudinal hemodynamics of aortic bioprosthetic valve in hemodialysis patients.
Seminars in Thoracic and Cardiovascular Surgery, S1043-0679(21)00408-1, 2021

Hachiro K, Kinoshita T, Suzuki T, Asai T.

Bilateral internal thoracic artery grafting in hemodialysis patients.
Circulation Journal, 85(11); 2004-2010, 2021

Kamiya K, Nagatani Y, Matsubayashi Y, Mori Y, Wakisaka H, Junghun Lee, Minamidate N, Takashima N, Kinoshita T, Suzuki T.

A virtual-reality imaging analysis of the dynamic aortic root anatomy.
Ann Thorac Surg, 112(6); 2077-2083, 2021

〈和文学術論文〉

川口民郎, 安藤厚生, 児玉成人, 今井晋二, 鈴木友彰, 中川義久

循環器疾患患者が心臓リハビリテーションを継続できるために - 異業種連携も含めた滋賀医科大学の取り組み -
Journal of Clinical Rehabilitation, 31(6): 579-585, 2022年

【書評】

鈴木友彰

三宅論文に対する Editorial Comment

心臓, 51(1): 104, 2019年

【新聞】

白石昭一郎, 森本政憲

知ってください下肢静脈瘤のこと

読売新聞, 2021年12月27日号

【学会発表】

〈全国学会・地方会・その他〉

鈴木友彰

当院での心臓手術周術期における iNO の使用経験

第52回日本心臓血管外科学会学術総会, 2022年3月, 横浜 (ハイブリッド開催)

神谷賢一, 永谷幸裕, 寺田真也, 松林優児, 三輪駿太, 森陽太郎, 脇坂穂高, 榎本匡秀, 南館直志, 高島範之, 藤井太, 仲田晋, 鈴木友彰

Virtualreality 技術の臨床応用に向けた四次元画像解析の信頼性の検証

第52回日本心臓血管外科学会学術総会, 2022年3月, 横浜 (ハイブリッド開催)

高島範之, 松林優児, 三輪駿太, 森 陽太郎, 脇坂穂高, 南館直志, 榎本匡秀, 神谷賢一, 鈴木友彰
弓部真性瘤に対する Frozenelephanttrunk 法の役割
第 52 回日本心臓血管外科学会学術総会, 2022 年 3 月, 横浜 (ハイブリッド開催)

榎本匡秀, 高島範之, 神谷賢一, 南館直志, 脇坂穂高, 森 陽太郎, 松林優児, 三輪駿太, 鈴木友彰
僧帽弁位の活動期感染性心内膜炎に対する外科治療成績の複雑性スコアを用いた比較
第 52 回日本心臓血管外科学会学術総会, 2022 年 3 月, 横浜 (ハイブリッド開催)

宮下史寛, 川平敏博, 高島範之, 鈴木友彰
慢性腎臓病患者の腹部大動脈瘤に対する人工血管置換と EVAR の術後急性腎障害の比較検討
第 52 回日本心臓血管外科学会学術総会, 2022 年 3 月, 横浜 (ハイブリッド開催)

鳥本真由, 久野智之, 澁川武志, 浦上誠弘, 脇田喜芳, 遠藤久美子, 園田安伊子, 服部直美, 川口民郎, 鈴木友彰
封入体筋炎を有した心臓弁膜症術後患者に対し多職種連携し自宅退院した 1 例
日本心臓リハビリテーション学会第 7 回近畿地方会, 2022 年 2 月, Web 開催 (京都)

木下 武, 鈴木友彰, 浅井 徹
胃大網動脈グラフトに対する蛍光イメージング
日本蛍光ガイド手術研究会第 4 回学術集会, 2021 年 5 月, 高知

高島範之, 鈴木友彰
再胸骨切開を伴う全弓部置換術の成績
第 49 回日本血管外科学会学術集会, 2021 年 5 月, Web 開催 (高知)

乃田浩光, 松林景二 (近江八幡市立総合医療センター)
EVAR+ 両側内腸骨動脈塞栓術後の endoleak によって瘤拡大した症例に対する治療戦略
第 49 回日本血管外科学会学術集会, 2021 年 5 月, Web 開催 (高知)

森 陽太郎
大動脈弁置換術後の ValvularLeakaeges による大動脈弁逆流に対して supra-coronaryposition での再置換術が必要となった 2 例
第 64 回関西胸部外科学会学術集会, 2021 年 6 月, Web 開催 (岡山)

高島範之, 松林優児, 森 陽太郎, 脇坂穂高, 南館直志, 榎本匡秀, 神谷賢一, 木下 武, 鈴木友彰
咯血、吐血をきたし再手術を要した胸部大動脈人工血管置換術後症例の検討
第 64 回関西胸部外科学会学術集会, 2021 年 6 月, Web 開催 (岡山)

松林優児, 高島範之, 森 陽太郎, 脇坂穂高, 森本政憲, 南館直志, 神谷賢一, 木下 武, 鈴木友彰
腱索断裂による三尖弁閉鎖不全症で発症した Platypnea-orthodeoxiasyndrome の 1 例
第 64 回関西胸部外科学会学術集会, 2021 年 6 月, Web 開催 (岡山)

鈴木友彰, 高島範之, 神谷賢一, 榎本匡秀, 南館直志, 脇坂穂高, 森 陽太郎, 松林優児, 三輪駿太
CABG 吻合部の解析
第 26 回日本冠動脈外科学会学術大会, 2021 年 7 月, 山口 (ハイブリッド開催)

木下 武, 鈴木友彰, 浅井 徹
OPCAB におけるシャントチューブの使い方
第 26 回日本冠動脈外科学会学術大会, 2021 年 7 月, 山口 (ハイブリッド開催)

鈴木友彰, 高島範之, 神谷賢一, 榎本匡秀, 南館直志, 脇坂穂高, 森 陽太郎, 松林優児, 三輪駿太
急性 A 型解離に対し中等度低体温循環停止法のみで行ったヘミアーチ置換術の成績
第 74 回日本胸部外科学会定期学術集会, 2021 年 10 月, 東京

高島範之, 松林優児, 三輪駿太, 森 陽太郎, 脇坂穂高, 南館直志, 榎本匡秀, 神谷賢一, 鈴木友彰
 亜急性期・慢性期のB型解離, A型残存解離に対する弓部置換術の成績
 第74回日本胸部外科学会定期学術集会, 2021年10月, 東京

鈴木友彰

当院での心臓手術周術期におけるiNOの使用経験
 金沢iNOフォーラム (WEBセミナー), 2021年11月, Web開催 (金沢)

木下 武, 鈴木友彰, 浅井 徹

急性解離 Hemiarch の脳保護
 第74回日本胸部外科学会定期学術集会, 2021年10月, 東京

森本政憲, 鈴木友彰, 高島範之

急性A型解離術後major adverse outcomes (MAO) 発生のリスク因子解析
 第74回日本胸部外科学会定期学術集会, 2021年10月, 東京

森本政憲, 鈴木友彰, 木下 武, 浅井 徹

術中弁尖測定による geometry oriented mitral valve repair
 第74回日本胸部外科学会定期学術集会, 2021年10月, 東京

神谷賢一, 寺田真也, 松林優児, 三輪駿太, 森 陽太郎, 榎本匡秀, 南館直志, 高島範之, 藤井太平, 仲田 晋,
 鈴木友彰

Validation of virtual reality imaging accuracy of dynamic, functioning heart valves using anex-vivoporcine heart.
 第38回滋賀医科大学シンポジウム, 2021年12月, 滋賀

鈴木友彰

心臓血管外科における最新トピックと抗凝固療法の現状
 第191回草津栗東医師会循環器研究会, 2021年8月, Web開催 (滋賀)

〈コメンテータ〉

鈴木友彰
 第190回草津栗東医師会循環器研究会, 2021年6月, Web開催 (滋賀)

鈴木友彰

第192回草津栗東医師会循環器研究会, 2021年10月, Web開催 (滋賀)

鈴木友彰

滋賀県での今後の取り組み (各領域の現状と課題)
 滋賀県循環器病対策連携講演会, 2021年10月, Web開催 (滋賀)

滋賀医科大学外科学講座（呼吸器外科）

【著書】

岡本圭伍, 大塩恭彦, 花岡 淳

XI. 縦隔疾患 2. 縦隔腫瘍 (25) 特発性線維性縦隔炎, 硬化性縦隔炎, 縦隔線維症
別冊 日本臨牀 領域別症候群シリーズ 呼吸器症候群 (第3版), V: 292-295, 2021

林 一喜, 花岡 淳

XI. 縦隔疾患 2. 縦隔腫瘍 (13) 縦隔内神経鞘腫, 神経線維腫
別冊 日本臨牀 領域別症候群シリーズ 呼吸器症候群 (第3版), V: 243-246, 2021

【論文発表】

〈英文学術論文〉

Okamoto K, Kaku R, Oshio Y, Hanaoka J.

Impact of thoracic esophageal displacement after lobectomy on the continuity of oral adjuvant chemotherapy.
Asian Cardiovasc Thorac Ann, 18: 2184923221081701, 2022

Kawaguchi Y, Hanaoka J, Ohshio Y, Okamoto K, Kaku R, Hayashi K, Shiratori T, Akazawa A, Ishida M.

Locoregional recurrence via mucus-mediated extension following lung resection for mucinous tumors.
BMC Cancer, 21(1): 470, 2021

Okamoto K, Shiratori T, Hanaoka J.

A reliable fistula closure technique for refractory pneumothorax unresponsive to pleurodesis.
Respir Med Case Rep, 33: 101442, 2021

Kawaguchi Y, Hanaoka J, Ohshio Y, Okamoto K, Kaku R, Hayashi K, Shiratori T, Akazawa A.

Sarcopenia increases the risk of post-operative recurrence in patients with non-small cell lung cancer.
PLoS One, 16(9): e0257594, 2021

Hayashi K, Hanaoka J, Oshio Y, Okamoto K, Kaku R, Shiratori T.

Anatomical lung resection for left lung cancer after thoracic aortic replacement.
Gen Thorac Cardiovasc Surg, 69(9): 1356-1359, 2021

【学会発表】

〈全国学会・地方会・その他〉

渡邊敦子, 益本貴人, 白鳥琢也, 林 一喜, 上田桂子, 岡本圭伍, 賀来良輔, 川口 庸, 大塩恭彦, 花岡 淳
左腕頭静脈の発達異常と左上大静脈遺残を伴った前縦隔腫瘍の一切除例
第205回近畿外科学会, 2022年3月, Web開催

渡邊敦子, 益本貴人, 白鳥琢也, 林 一喜, 上田桂子, 岡本圭伍, 賀来良輔, 川口 庸, 大塩恭彦, 花岡 淳
他臓器転移を有する転移性肺腫瘍に対する手術症例の検討
第115回日本肺癌学会関西支部学術集会, 2022年3月, Web開催

岡本圭伍

肺切除患者の術後転帰予測における呼気中一酸化窒素測定の有用性に関する前向き研究
第62回近江呼吸器疾患研究会, 2022年3月, Web開催

益本貴人, 渡邊敦子, 白鳥琢也, 林 一喜, 上田桂子, 岡本圭伍, 賀来良輔, 川口 庸, 大塩恭彦, 花岡 淳
胸骨正中切開後の胸腔内癒着に関する検討

第62回近江呼吸器疾患研究会, 2022年3月, Web開催

川口 庸, 赤澤 彰, 林 一喜, 白鳥琢也, 賀来良輔, 岡本圭伍, 大塩恭彦, 花岡 淳
サルコペニアは肺癌術後再発のリスク因子である
第 121 回日本外科学会定期学術集会, 2021 年 4 月, Web 開催 (千葉)

岡本圭伍, 白鳥琢也, 賀来良輔, 川口 庸, 大塩恭彦, 花岡 淳
呼吸器外科術後疼痛に対するプレガバリンおよびミロガバリン投与症例の検討
第 121 回日本外科学会定期学術集会, 2021 年 4 月, Web 開催 (千葉)

大塩恭彦, 赤澤 彰, 林 一喜, 白鳥琢也, 賀来良輔, 岡本圭伍, 川口 庸, 大塩麻友美, 花岡 淳
多関節鉗子 ArtiSential の使用経験
第 38 回日本呼吸器外科学会学術集会, 2021 年 5 月, Web 開催 (長崎)

川口 庸, 赤澤 彰, 白鳥琢也, 林 一喜, 岡本圭伍, 賀来良輔, 大塩恭彦, 花岡 淳
サルコペニアは 1 期肺癌における術後再発リスク因子である
第 38 回日本呼吸器外科学会学術集会, 2021 年 5 月, Web 開催 (長崎)

岡本圭伍, 白鳥琢也, 賀来良輔, 川口 庸, 大塩恭彦, 花岡 淳
第 1 肋骨浸潤を有する T4 肺癌に対する前方アプローチ下胸壁合併左上葉切除術の 1 例
第 38 回日本呼吸器外科学会学術集会, 2021 年 5 月, Web 開催 (長崎)

赤澤 彰, 白鳥琢也, 岡本圭伍, 賀来良輔, 川口 庸, 大塩恭彦, 花岡 淳
画像上で推測されるよりも広範囲に肋骨浸潤を認めた限局性悪性胸膜中皮腫の 1 切除例
第 38 回日本呼吸器外科学会学術集会, 2021 年 5 月, Web 開催 (長崎)

林 一喜, 赤澤 彰, 白鳥琢也, 岡本圭伍, 賀来良輔, 川口 庸, 大塩恭彦, 花岡 淳
胆嚢炎治療を契機に発症したと考えられる無菌性胸壁膿瘍の一例
第 38 回日本呼吸器外科学会学術集会, 2021 年 5 月, Web 開催 (長崎)

大塩恭彦, 赤澤 彰, 白鳥琢也, 林 一喜, 岡本圭伍, 賀来良輔, 川口 庸, 大塩麻友美, 仲川宏昭, 山口将史,
中野恭幸, 花岡 淳
CT like imaging を用いた術中の肺病変のより簡便な把握法の模索
第 44 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2021 年 6 月, 名古屋 (ハイブリッド開催)

白鳥琢也, 花岡 淳, 大塩恭彦, 川口 庸, 岡本圭伍, 賀来良輔, 赤澤 彰
当院での U-VATS lobectomy 導入の試み, 従来の VATS lobectomy との比較検討
第 44 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2021 年 6 月, 名古屋 (ハイブリッド開催)

仲川宏昭, 松尾裕美子, 内田泰樹, 黄瀬大輔, 山口将史, 大塩恭彦, 花岡 淳, 中野恭幸
フローボリューム曲線から予測する気管支鏡検査中の酸素必要量の検討
第 44 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2021 年 6 月, 名古屋 (ハイブリッド開催)

岡本圭伍
3D 胸腔鏡・ICG 蛍光観察を活用した肺区域切除の有用性
胸腔鏡下手術 Web セミナー, 2021 年 8 月, 大津

白鳥琢也, 渡邊敦子, 益本貴人, 上田桂子, 岡本圭伍, 賀来良輔, 川口 庸, 大塩恭彦, 花岡 淳
当院における単孔式胸腔鏡手術の試み
第 61 回近江呼吸器疾患研究会, 2021 年 9 月, Web 開催

大塩恭彦, 渡邊敦子, 益本貴人, 白鳥琢也, 林 一喜, 上田桂子, 岡本圭伍, 賀来良輔, 川口 庸, 大塩麻友美,
花岡 淳
当科における単孔式肺手術においての助手の役割を考える
第 34 回近畿内視鏡外科研究会, 2021 年 9 月, Web 開催

川口 庸, 大塩恭彦, 花岡 淳

腫瘍随伴マクロファージ阻害を介したがん間質制御法の開発に関する基礎的研究

第 80 回日本癌学会学術総会, 2021 年 9 月 -10 月, 横浜 (ハイブリッド開催)

片岡瑛子, 上田桂子, 川口 庸, 五十嵐知之, 大塩恭彦, 藤田琢也, 寺本晃治, 花岡 淳

肺癌間質線維芽細胞における CD271 の役割

第 80 回日本癌学会学術総会, 2021 年 9 月 -10 月, 横浜 (ハイブリッド開催)

大塩恭彦, 渡邊敦子, 益本貴人, 白鳥琢也, 林 一喜, 上田桂子, 岡本圭伍, 賀来良輔, 川口 庸, 大塩麻友美, 花岡 淳

単孔式肺癌手術における 8K カメラの使用経験

第 62 回日本肺癌学会学術集会, 2021 年 11 月, 横浜 (ハイブリッド開催)

大塩恭彦, 渡邊敦子, 林 一喜, 白鳥琢也, 大塩麻友美, 池田那祥, 花岡 淳

単孔式肺葉切除における肺静脈切離の難度と CT データから算出したポートー血管間距離の関連についての検討

第 34 回日本内視鏡外科学会総会, 2021 年 12 月, 神戸

白鳥琢也, 渡邊敦子, 益本貴人, 林 一喜, 上田桂子, 岡本圭伍, 賀来良輔, 川口 庸, 大塩恭彦, 花岡 淳, 仲川宏昭, 山口将史, 中野恭幸

咳嗽を契機に発見された、右主気管支浸潤肺癌の治療戦略

第 110 回日本呼吸器内視鏡学会近畿支部会, 2021 年 12 月, Web 開催

林 一喜, 喜田裕介, 花岡 淳

嘔吐により改善する心窩部痛を認めた気管支動脈瘤の 1 例

第 110 回日本呼吸器内視鏡学会近畿支部会, 2021 年 12 月, Web 開催

滋賀医科大学総合外科学講座

【論文発表】

〈英文学術論文〉

Ohta H, Miyake T, Ueki T, Kojima M, Kawasaki M, Tatsuta T, Iuchi T, Kamitani S, Shimizu T, Mekata E, Tani M. Predictors and clinical impact of postoperative diarrhea, after colorectal cancer surgery : A prospective, multicenter, observational study (SHISA 1602).

International Journal of Colorectal Disease, 37(3); 657-664, 2022

Kitamura N, Iida H, Maehira H, Mori H, Sada Y, Shimizu T, Kitagawa H, Tani M.

Postoperative analgesic effect of ultrasound-guided rectus sheath block and local anesthetic infiltration after laparoscopic cholecystectomy: Results of a prospective randomized controlled trial.

Asian Journal of Endoscopic Surgery, 15(1); 29-35, 2021

Ohta H, Mizukuro T, Hashimoto K, Fujino M, Shimizu T, Miyake T, Ueki T, Kojima M, Mekata E, Tani M.

Successful surgical repair of perineal body for obstetric trauma-induced fecal incontinence: A case report.

日本外科系連合学会誌, 46(6): 698-702, 2021

Terada Y, Miyake T, Ueki T, Shimizu T, Kojima M, Takebayashi K, Maehira H, Kaida S, Yamaguchi T, Iida H, Tani M.

Incidence of surgical site infections with triclosan - coated monofilament versus multifilament sutures in elective colorectal surgery.

Surg Today, 52(4); 652-659, 2021

〈和文学術論文〉

北村直美, 大内政嗣, 森内宏治, 遠藤 潤, 松本彩花

非災害拠点病院におけるBCP (Business Continuity Plan) の作成と院内防災訓練
病院羅針盤, 12(189): 17-22, 2021 年

富田 香, 河合由紀, 北村奈美, 能島 舞, 森谷鈴子, 目片英治, 谷 眞至

両側乳房全切除に至った両側異時性肉芽腫性乳腺炎の1例

日本臨床外科学会雑誌, 82(7): 1286-1290, 2021 年

仁科勇佑, 赤堀浩也, 寺田好孝, 太田裕之, 森谷鈴子

胆嚢癌を合併した胆嚢捻転症の1例

胆道, 35(2): 175-181, 2021 年

【学会発表】

〈全国学会・地方会・その他〉

白石智順, 山根あゆみ, 山本順子, 西村幾美, 東 里映, 太田裕之, 伊藤明彦

神経難病患者における食べる力を維持するための胃瘻造設

第36回日本栄養代謝学会学術集会, 2021年7月, 神戸 (ハイブリッド開催)

山根あゆみ, 山本順子, 畠中真由, 西井和信, 西村幾美, 東 里映, 白石智順, 藤岡江里子, 太田裕之, 伊藤明彦

高齢者における水分管理から見たNST活動のピットフォール

第36回日本栄養代謝学会学術集会, 2021年7月, 神戸 (ハイブリッド開催)

西村幾美, 東 里映, 伊藤明彦, 山本順子, 山根あゆみ, 白石智順, 庄野裕志, 太田裕之

結核患者に対するNST活動の重要性

第36回日本栄養代謝学会学術集会, 2021年7月, 神戸 (ハイブリッド開催)

山根あゆみ, 畠中真由, 山本順子, 西井和信, 西村幾美, 東里映, 白石智順, 太田裕之, 伊藤明彦
NSTにおけるリフィーディング高リスク患者への介入と今後の課題
第36回日本栄養代謝学会学術集会, 2021年7月, 神戸 (ハイブリッド開催)

仁科勇佑, 太田裕之, 寺田好孝, 赤堀浩也, 北村直美, 目片英治
骨盤膿瘍を伴った直腸癌に対して、経直腸的ドレナージ後に根治術を施行した一例
第205回近畿外科学会, 2021年3月, Web開催

北村直美, 仁科勇佑, 寺田好孝, 赤堀浩也, 太田裕之, 目片英治
救命できなかった急性細菌感染性腸炎の一例
第58回日本腹部救急医学会総会, 2021年3月, 東京

滋賀医科大学革新的医療機器・システム研究開発講座

【論文発表】

〈英文学術論文〉

Tanaka Y, Tanaka K, Shiomi H, Kurumi Y, Tani T, Ogura Y.

Needle tip detection using ultrasound probe for vertical punctures: A simulation and experimental study.
Diagnostics, 12, 527, 2022

Ogino S, Yamada A, Kambe Y, Nakano T, S. Lee, Sakamoto M, Kato Y, Okumura S, Okano J, Yamauchi K, Suzuki Y, Yamaoka T, Morimoto N.

Preliminary report of de novo adipogenesis using novel bioabsorbable implants and image evaluation using a porcine model.

Journal of Artificial Organs, 25(3): 245-253, 2022

Dang KT, Naka S, Nguyen VQ, Yamada A, Tani T.

Functional evaluation of a novel microwave surgical device in a canine splenectomy model.

Journal of Investigative Surgery, 34(2): 164-171, 2021

Akabori H, Yamamoto H, Shimizu T, Endo Y, Tani T, Tani M.

Involvement of TRPV1-containing peripheral sensory efferents in hemodynamic responses in a rat hemorrhagic shock model.

Surgery, 169(4): 879-884, 2021

Dang KT, Naka S, Yamada A, Tani T.

Feasibility of microwave-based scissors and tweezers in partial hepatectomy: An initial assessment on canine model.

Frontiers in Surgery, 8:Article 661064, 2021

Tanaka R, Tani T, Yamada A, Tani S, Dang KT, Nitta N, Tabata T, Muraoka S, Yoneyama T, Sanada S.

Correlations between cardiovascular parameters and image parameters on dynamic chest radiographs in a porcine model under fluid loading.

Radiological Physics and Technology, 14(3): 288-296, 2021

〈和文学術論文〉

谷 徹

アフェレシス治療の黎明期－技術革新、新規手法／機器によるアフェレシス治療の発展－

日本アフェレシス学会雑誌, 41(1): 69-73, 2022

山田篤史

弾性ループを用いた連続体デバイスの操舵機構

日本コンピュータ外科学会誌, 23(2): 65-72, 2021

【学会発表】

〈国際学会〉

Ha NN, Yamada A, Naka S, Tani T.

Zero-ischemic and sutureless partial nephrectomy by using microwave surgical device: Initial results in canine models.

27th Meeting of the EAU Section of Urological Research (ESUR21 Virtual), 2021, Virtual

〈全国学会・地方会・その他〉

山川 勇, 園田悠馬, 山田篤史, 中村竜太郎, 西田知弘, 宮脇光二, 杉山誠治, 金子隼也, 山本 寛, 田村亮太, 塚本剛士, 小橋修平, 小川暢弘, 北村彰浩, 金 一暁, 真田 充, 漆谷 真

The effect of a motor assist glove rehabilitation for hand function in ALS.

第 62 回日本神経学会学術大会, 2021 年 5 月, 京都 (ハイブリッド開催)

谷 徹, 山田篤史, Ha NN, 仲 成幸

郭清操作においてリンパ漏発生が少ないエネルギーデバイスと手術法

第 40 回 Microwave Surgery 研究会, 2021 年 9 月, 東京 (ハイブリッド開催)

飯田洋也, 前平博充, 森 治樹, 新田信人, 徳田 彩, 山田篤史, 仲 成幸, 谷 徹, 谷 眞至

新規マイクロ波エネルギーデバイス (Acrosurg.Revo S) を用いた腹腔鏡下肝切除

第 40 回 Microwave Surgery 研究会, 2021 年 9 月, 東京 (ハイブリッド開催)

Ha NN, Yamada A, Naka S, Tani T.

Zero-ischemia partial nephrectomy by using microwave surgical device: Initial results in canine models.

第 40 回 Microwave Surgery 研究会, 2021 年 9 月, 東京 (ハイブリッド開催)

谷 徹

医 (外科医)、工 (工学者、企業人) 連携による医療機器製品事業化経験から

第 83 回日本臨床外科学会総会, 2021 年 11 月, 東京 (ハイブリッド開催)

山田篤史, 谷 徹

全方向探索を実現する簡易屈曲構造とシングルユース腎盂尿管鏡への応用

第 30 回日本コンピュータ外科学会大会, 2021 年 11 月, つくば

稲富 理, 山田篤史, 安藤 朗

人工血管素材を用いた先端可動型胆管造影用カテーテルの新規開発

第 29 回日本消化器関連学会週間, 2021 年 11 月, 神戸

Ha NN, Yamada A, Naka S, Mukai K, Tani T.

Zero-ischemic and suture-less partial nephrectomy using microwave scissors in canine model.

第 38 回滋賀医科大学シンポジウム, 2021 年 12 月, 大津

滋賀医科大学臨床看護学講座

【論文発表】

< 英文学術論文 >

Akabori H, Yamamoto H, Shimizu T, Endo Y, Tani T, Tani M.

Involvement of TRPV1-containing peripheral sensory efferents in hemodynamic responses in a rat hemorrhagic shock model.

Surgery, 169(4): 879-884. 2021

< 和文学術論文 >

阿部貴弥, 松尾秀徳, 鍵谷真希, 阪本雄一郎, 志賀英敏, 鈴木 泰, 土田聡子, 中永士師明, 服部憲幸, 森口武史, 吉岡豊一, 芦田 明, 上田恭典, 岡田和也, 奥山美樹, 面川 進, 藤盛好啓, 前田 猛, 草生真規雄, 日高利彦, 槇野茂樹, 山路 健, 阿部信二, 津島健司, 大竹剛靖, 佐藤元美, 斯波真理子, 野原 淳, 馬場彰泰, 日高寿美, 槇野久士, 安部隆三, 井上和明, 江口 豊, 遠藤善裕, 佐々木 茂, 滝川康裕, 長沼 誠, 古屋智規, 横山陽子, 伊崎祥子, 石塚慶太, 王子 聡, 越智博文, 杉本恒平, 鈴木理人, 田島孝士, 田中 覚, 成川真也, 野村恭一, 原 涉, 古谷真由美, 宮本勝一, 吉田典史, 林 幼偉, 朝田啓明, 石塚喜世伸, 伊藤孝史, 今村秀明, 岡戸丈和, 金子修三, 金子直人, 北川清樹, 坂井宣彦, 下畑 誉, 菅原典子, 塚本達雄, 長谷川みどり, 服部元史, 花房規男, 古市賢吾, 三浦健一郎, 山田博之, 和田隆志, 池田志孝, 金蔵拓郎, 清島真理子, 山田裕道, 岩本ひとみ, 松金隆夫, 峰島三千男

日本アフェレシス学会 診療ガイドライン 2021

日本アフェレシス学会雑誌, 40(2): 172-184, 2021

内藤紀代子, 二宮早苗, 森川茂廣, 遠藤善裕, 岡山久代

磁気共鳴 (MR) 画像により作成した指導用動画を用いた産後女性に対する骨盤底筋体操の効果検証
看護理工学会誌, 8: 194-202, 2021

【学会発表】

< 国際学会 >

Shimizu T, Miyake T, Tani M, Kitamura N, Fujino K, Tabata T, Endo Y.

Current status of polymyxin B-immobilized fiber column for treatment of severe sepsis and septic shock.
16th Meeting of the International Endotoxin and Innate Immunity society, Kobe, 2021, Virtual

Endo Y.

Challenge to organ failure in COVID-19 patients; Impact of blood purification therapy.
International Society For Apheresis, 2021, Webinar

< 全国学会・地方会・その他 >

遠藤善裕

アフェレシス診療ガイドラインの現状と今後 (座長)

第 42 回日本アフェレシス学会学術大会, 2021 年 10 月, 東京 (ハイブリッド開催)

遠藤善裕

COVID-19 とアフェレシス (座長)

第 42 回日本アフェレシス学会学術大会, 2021 年 10 月, 東京 (ハイブリッド開催)

滋賀医科大学医学部附属病院医療安全管理部

【論文発表】

〈和文学術論文〉

清水智治, 三宅 亨, 貝田佐知子, 飯田洋也, 田中琢也, 萬代良一, 生野芳博, 野崎和彦, 田中俊宏, 谷 眞至
高難度新規医療技術導入に対する取り組み 高難度新規医療技術導入の運用の現状と問題点
日本外科学会雑誌, 122(5): 549-551, 2021 年

【学会発表】

〈全国学会・地方会・その他〉

清水智治, 野崎和彦, 三宅 亨, 谷 眞至

ハイリスク患者に対する手術-チーム・病院としての取り組みとリスク管理- 当院での高難度新規医療技術への取
り組みの現状

第 43 回日本手術医学会総会, 2022 年 1 月, 大阪

清水智治, 野崎和彦, 三宅 亨, 貝田佐知子, 山口 剛, 河合由紀, 飯田洋也, 谷 眞至

高難度新規医療技術導入の運用の現状と問題点

第 121 回日本外科学会定期学術集会, 2022 年 4 月, 千葉

關連病院業績

赤穂市民病院 外科

【論文発表】

< 英文学術論文 >

Tamaki I, Takahara H.

Metachronous sporadic desmoid tumors arisen in the stomach and the cecum.

Cureus, 13(5): e14847, 2021

【学会発表】

< 全国学会・地方会・その他 >

新田隆士, 伊藤良太, 玉木一路, 赤神正敏, 米永吉邦, 高原秀典

鉗の鈍的外傷による下腸間膜動脈引く抜き損傷の画像診断

第 58 回日本腹部救急医学会総会, 2022 年 3 月, 東京

新田隆士, 伊藤良太, 玉木一路, 赤神正敏, 米永吉邦, 高原秀典

腹腔鏡下肝切除の術中トラブルをできれば未然に、対応と対処法と

第 58 回日本腹部救急医学会総会, 2022 年 3 月, 東京

新田隆士, 伊藤良太, 玉木一路, 赤神正敏, 米永吉邦, 高原秀典

急性虫垂炎の手術時間と AO、断端処理

第 58 回日本腹部救急医学会総会, 2022 年 3 月, 東京

伊藤良太, 玉木一路, 赤神正敏, 米永吉邦, 新田隆士, 高原秀典

S 状結腸穿孔で発症した大腸 MALT リンパ腫の 1 切除例

第 58 回日本腹部救急医学会総会, 2022 年 3 月, 東京

村上雅博, 伊藤良太, 玉木一路, 赤神正敏, 米永吉邦, 新田隆士, 高原秀典

虫垂位置異常により術前診断に苦慮した汎発性腹膜炎をきたした急性虫垂炎の 1 例

第 58 回日本腹部救急医学会総会, 2022 年 3 月, 東京

ヴォーリズ記念病院 呼吸器外科

【学会発表】

< 全国学会・地方会・その他 >

船崎満里子, 北野晴久, 嶽本優香里, 林 美里, 山本絵里子, 宮師直紀, 坂本陽介, 服部加奈

当院における Kennedy Terminal Ulcer に関する検討

第 23 回日本褥瘡学会学術集会, 2021 年 9 月, Web 開催

北野晴久, 山本絵里子, 嶽本優香里, 林 美里, 船崎満里子, 宮師直紀, 坂本陽介, 服部加奈

褥瘡患者における血清 IgE 値の検討

第 23 回日本褥瘡学会学術集会, 2021 年 9 月, Web 開催

医療法人徳洲会 宇治徳洲会病院 外科

【論文発表】

〈和文学術論文〉

若園依未, 下松谷 匠, 竹内 豪, 大森敦仁, 三村和哉, 仲原英人, 我如古理規, 水野 礼, 橋本恭一, 日並淳介, 久保田良浩, 仲井 理

4型胃癌様形態を呈した乳癌胃転移の1例

京都医学界雑誌, 68: 113-116, 2021

水野 礼, 竹内 豪, 三村和哉, 仲原英人, 我如古理規, 橋本恭一, 日並淳介, 長山 聡, 下松谷 匠, 久保田良浩

「〈緊急特別企画〉パンデミック状況下における外科診療と教育」COVID-19における地域中核病院の外科診療の実際

日本外科学会雑誌, 122: 568-571, 2021

長野心太, 久保田良浩, 三村和哉, 松本豪志, 高岸智子, 下松谷 匠

上部消化管閉塞をきたした特殊型の腸回転異常症に対し、腹腔鏡下に手術しえた小児例

日本内視鏡外科学会雑誌, 26: 358-365, 2021

【学会発表】

〈全国学会・地方会・その他〉

大森敦仁, 下松谷 匠, 野村勇貴, 武内悠馬, 竹内 豪, 上田容子, 中村真司, 仲原英人, 我如古理規, 水野 礼, 橋本恭一, 日並淳介, 野見武男, 長山 聡, 久保田良浩

巨大横行結腸癌、左腎浸潤、傍大動脈リンパ節転移に対し化学療法を行いコンバージョン手術施行しえた1例
第205回近畿外科学会, 2022年3月, 大津

武内悠馬, 久保田良浩, 長野心太, 野村勇貴, 上田容子, 大森敦仁, 中村真司, 仲原英人, 我如古理規, 水野 礼, 橋本恭一, 野見武男, 日並淳介, 長山 聡, 下松谷 匠

小腸間膜裂孔ヘルニアによる絞扼性腸閉塞の1例

第205回近畿外科学会, 2022年3月, 大津

若園依未, 下松谷 匠, 水野 礼, 竹内 豪, 三村和哉, 仲原英人, 我如古理規, 橋本恭一, 仲井 理, 日並淳介, 久保田良浩

4型胃癌様形態を呈した乳癌胃転移の1例

第121回日本外科学会定期学術集会, 2021年4月, Web開催(千葉)

鈴木 謙, 水野 礼, 竹内 豪, 三村和哉, 仲原英人, 我如古理規, 橋本恭一, 仲井 理, 日並淳介, 三瀬圭一, 伊東真哉, 下松谷 匠, 久保田良浩

主リンパ節転移を認めたSM軽度浸潤盲腸癌の一例

第121回日本外科学会定期学術集会, 2021年4月, Web開催(千葉)

三村和哉, 水野 礼, 竹内 豪, 仲原英人, 我如古理規, 橋本恭一, 日並淳介, 下松谷 匠, 久保田良浩

当院で経験した外傷性脾損傷12例の検討

第121回日本外科学会定期学術集会, 2021年4月, Web開催(千葉)

下松谷 匠, 竹内 豪, 三村和哉, 仲原英人, 我如古理規, 水野 礼, 橋本恭一, 日並淳介, 久保田良浩, 仲井 理

当院におけるStageⅢ胃癌手術症例の検討

第121回日本外科学会定期学術集会, 2021年4月, Web開催(千葉)

橋本恭一, 竹内 豪, 三村和哉, 仲原英人, 我如古理規, 水野 礼, 日並淳介, 下松谷 匠, 久保田良浩

医師の働き方改革に伴う医師確保のための人件費増加に対し外科医が行える取り組み

第121回日本外科学会定期学術集会, 2021年4月, Web開催(千葉)

水野 礼, 竹内 豪, 三村和哉, 仲原英人, 我如古理規, 橋本恭一, 日並淳介, 下松谷 匠, 久保田良浩, 仲井 理
 COVID-19 パンデミックにおける地域中核病院の外科診療の実際
 第 121 回日本外科学会定期学術集会, 2021 年 4 月, Web 開催 (千葉)

長野心太, 久保田良浩, 松木豪志, 高岸智子, 日並淳介
 ER での開胸開腹術で救命しえた外傷性心停止の小児例
 第 34 回日本小児救急医学会学術集会, 2021 年 6 月, 奈良 (ハイブリッド開催)

下松谷 匠, 三瀬圭一, 久保田良浩
 4 型胃癌様形態を呈した乳癌胃転移の 1 例
 第 29 回日本乳癌学会学術総会, 2021 年 7 月, 横浜 (ハイブリッド開催)

三村和哉, 水野 礼, 竹内 豪, 大森敦仁, 仲原英人, 我如古理規, 橋本恭一, 日並淳介, 下松谷 匠, 久保田良浩
 胆嚢胆管瘻を伴う Mirizzi 症候群に対し、胆嚢開窓術および胆嚢内フォーリーカテーテル留置が奏功した 1 例
 第 76 回日本消化器外科学会総会, 2021 年 7 月, 京都 (ハイブリッド開催)

橋本恭一, 竹内 豪, 大森敦仁, 三村和哉, 仲原英人, 我如古理規, 水野 礼, 日並淳介, 下松谷 匠, 久保田良浩
 地域中核病院における胃粘膜下腫瘍に対する LECS 導入の経験 15 症例の検討
 第 76 回日本消化器外科学会総会, 2021 年 7 月, 京都 (ハイブリッド開催)

竹内 豪, 下松谷 匠, 大森敦仁, 三村和哉, 仲原英人, 我如古理規, 水野 礼, 橋本恭一, 日並淳介, 久保田良浩
 肺癌胃転移の一切除例
 第 76 回日本消化器外科学会総会, 2021 年 7 月, 京都 (ハイブリッド開催)

我如古理規, 竹内 豪, 大森敦仁, 三村和哉, 仲原英人, 水野 礼, 橋本恭一, 日並淳介, 下松谷 匠, 久保田良浩
 若手消化器外科医の確保と育成 初期研修医と消化器外科医を対象とした EBM 教育の実践
 第 76 回日本消化器外科学会総会, 2021 年 7 月, 京都 (ハイブリッド開催)

下松谷 匠, 竹内 豪, 大森敦仁, 三村和哉, 仲原英人, 我如古理規, 水野 礼, 橋本恭一, 日並淳介, 久保田良浩
 当院における 85 歳以上超高齢者胃癌手術症例の検討
 第 76 回日本消化器外科学会総会, 2021 年 7 月, 京都 (ハイブリッド開催)

水野 礼, 竹内 豪, 大森敦仁, 三村和哉, 仲原英人, 我如古理規, 橋本恭一, 日並淳介, 下松谷 匠, 久保田良浩
 急性虫垂炎手術のタイミング緊急手術 vs 待期手術 当院における急性虫垂炎に対する interval appendectomy の現状と有用性
 第 76 回日本消化器外科学会総会, 2021 年 7 月, 京都 (ハイブリッド開催)

我如古理規, 大森敦仁, 上田容子, 水野 礼, 橋本恭一, 日並淳介, 長山 聡, 下松谷 匠, 久保田良浩
 自ら考えてそれぞれのスタイルで定型化していく TAPP へ、そしてチーム全体の学びへ
 第 34 回日本内視鏡外科学会総会, 2021 年 12 月, 神戸 (ハイブリッド開催)

上田容子, 我如古理規, 水野 礼, 橋本恭一, 日並淳介, 長山 聡, 下松谷 匠, 久保田良浩
 Double stapling technique における circular stapler 挿入時のトラブルシューティング
 第 34 回日本内視鏡外科学会総会, 2021 年 12 月, 神戸 (ハイブリッド開催)

水野 礼, 上田容子, 我如古理規, 大森敦仁, 橋本恭一, 日並淳介, 長山 聡, 下松谷 匠, 久保田良浩
 当院における閉塞性大腸癌に対する大腸ステント留置後の腹腔鏡手術成績の検討
 第 34 回日本内視鏡外科学会総会, 2021 年 12 月, 神戸 (ハイブリッド開催)

長山 聡, 上田容子, 大森敦仁, 我如古理規, 水野 礼, 橋本恭一, 日並淳介, 畑 倫明, 下松谷 匠, 久保田良浩
 腹腔鏡下結腸切除術における体腔内デルタ吻合による結腸再建
 第 34 回日本内視鏡外科学会総会, 2021 年 12 月, 神戸 (ハイブリッド開催)

橋本恭一, 上田容子, 大森敦仁, 我如古理規, 水野 礼, 日並淳介, 長山 聡, 下松谷 匠, 久保田良浩
腸回転異常症を伴う胃癌に対し腹腔鏡下幽門側胃切除術を行った1症例
第34回日本内視鏡外科学会総会, 2021年12月, 神戸 (ハイブリッド開催)

医療法人誠光会 淡海医療センター 呼吸器外科

【著書】

林 一喜, 花岡 淳
縦隔疾患 縦隔腫瘍 縦隔内神経鞘腫、神経線維腫
日本臨床, 別冊呼吸器症候群, V: 243-246, 2021

【論文発表】

〈英文学術論文〉
Hayashi K, Hanaoka J, Oshio Y, Okamoto K, Kaku R, Shiratori T.
Anatomical lung resection for left lung cancer after thoracic aortic replacement.
Gen Thorac Cardiovasc Surg, 69(9): 1356-1359, 2021

【学会発表】

〈全国学会・地方会・その他〉
林 一喜, 赤澤 彰, 白鳥琢也, 岡本圭伍, 賀来良輔, 川口 庸, 大塩恭彦, 花岡 淳
胆嚢炎治療を契機に発症したと考えられる無菌性胸壁膿瘍の一例
第38回日本呼吸器外科学会学術集会, 2021年5月, Web開催 (長崎)

林 一喜, 喜田裕介, 花岡 淳
嘔吐により改善する心窩部痛を認めた気管支動脈瘤の1例
第110回日本呼吸器内視鏡学会近畿支部会, 2021年12月, Web開催

医療法人誠光会 淡海医療センター 一般・消化器外科

【論文発表】

〈和文学術論文〉
今神 透, 塩見一徳, 安 炳九, 高尾信行, 水本明良, 米村 豊
4年以上の無再発生存が得られた多嚢胞性腹膜中皮腫の3例
日本臨床外科学会雑誌, 83(1): 152-157, 2022

【学会発表】

〈全国学会・地方会・その他〉
Imagami T, Shiomi M, Oe Y, Byongu An, Takao N, Morikouchi Y, Togawa T, Mizumoto A.
Well-differentiated papillary mesothelioma suspected of malignant transformation: A case report.
第59回日本癌治療学会, 2021年10月, 横浜 (ハイブリッド開催)

今神 透, 塩見一徳, 大江康光, 安 炳九, 高尾信行, 森河内 豊, 戸川 剛, 水本明良, 米村 豊
当院で経験された多嚢胞性腹膜中皮腫の3例
第83回日本臨床外科学会, 2021年11月, 東京 (ハイブリッド開催)

今神 透, 塩見一徳, 大江康光, 安 炳九, 高尾信行, 戸川 剛
 審査腹腔鏡により病理診断を得た多嚢胞性腹膜中皮腫の2例
 第102回日本内視鏡外科学会, 2021年12月, 神戸

岸和田徳洲会病院 心臓血管外科

【学会発表】

〈全国学会・地方会・その他〉

畔柳智司

生涯を見越した大動脈弁治療戦略

第52回日本心臓血管外科学会学術総会, 2022年3月, 横浜 (ハイブリッド開催)

畔柳智司

Entry 切除 + Hemiarch 置換を基本とした A 型急性大動脈解離の治療成績

第62回日本脈管学会総会, 2021年10月, 札幌 (ハイブリッド開催)

国立病院機構 京都医療センター 呼吸器外科

【論文発表】

〈英文学術論文〉

Hashimoto H, Sawai S, Oshio M, Yoden M, Takeda K.

The risk of footswitch misstep during robot-assisted thoracoscopic surgery : A case report.

Journal of Surgical Case Reports, 2021;12, 1-2, 2021

〈和文学術論文〉

橋本雅之, 余田 誠, 武田恵子, 大塩麻友美, 澤井 聡

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 肺炎に合併した気胸

胸部外科, 74(12): 992-995, 2021

【学会発表】

〈全国学会・地方会・その他〉

橋本雅之, 益本貴人, 余田 誠, 武田恵子, 大塩麻友美, 澤井 聡

ロボット支援下肺葉切除術における肺動脈出血例の検証

第38回日本呼吸器外科学会学術集会, 2021年5月, Web 開催 (長崎)

余田 誠, 益本貴人, 武田恵子, 大塩麻友美, 橋本雅之, 澤井 聡

サルコイドーシスに合併した胸腺原発類表皮嚢胞の一例

第38回日本呼吸器外科学会学術集会, 2021年5月, Web 開催 (長崎)

益本貴人, 余田 誠, 武田恵子, 大塩麻友美, 橋本雅之, 澤井 聡

腔内結紮が有用であった肺切除を伴わない左主気管支管状切除の1例

第38回日本呼吸器外科学会学術集会, 2021年5月, Web 開催 (長崎)

橋本雅之, 大塩麻友美, 澤井 聡

輸血拒否症例に対するロボット支援下手術の適応について

第34回日本内視鏡外科学会総会, 2021年12月, 神戸 (ハイブリッド開催)

医療法人社団仁生会 甲南病院 外科

【論文発表】

〈英文学術論文〉

Saiki A, Yamaguchi T, Sasaki A, Naitoh T, Matsubara H, Yokote K, Okazumi S, Ugi S, Yamamoto H, Ohta M, Ishigaki Y, Kasama K, Seki Y, Tsujino M, Shirai K, Miyazaki Y, Masaki T, Nagayama D, Tatsuno I.

Background characteristics and diabetes remission after laparoscopic sleeve gastrectomy in Japanese patients with type 2 diabetes stratified by BMI: Subgroup analysis of J-SMART

Diabetol Int, 2,12(3): 303-312, 2021

Ohta M, Seki Y, Ohyama T, Bai R, Kim SH, Oshiro T, Jiang T, Sasaki A, Naitoh T, Yamaguchi T, Inamine S, Miyazaki Y, Ahn SM, Heo Y, Liang H, Choi SH, Yang W, Yao Q, Inoue K, Yamamoto H, Lee HJ, Park YS,

Ha TK, Ryu SW, Wang C, Park S, Kasama K.

Prediction of long-term diabetes remission after metabolic surgery in obese East Asian patients: A comparison between ABCD and IMS scores.

Obes Surg, 31(4): 1485-1495, 2021

〈和文学術論文〉

山本 寛, 廣瀬京子, 前田輝子, 松永洋祐, 岡崎哲也, 古倉みのり

コロナ禍の面会制限に対するオンライン面会の導入によるストレス緩和の検証の試み

全日本病院協会雑誌, 32(1): 1-3, 2021

【学会発表】

〈全国学会・地方会・その他〉

山本 寛, 神谷純広, 上田浩史, 鶴飼洋平, 巽 紀之, 入江龍介

3施設での高度肥満症の外科治療に対するチームビルディングの経験

第42回日本肥満学会, 2022年3月, 横浜 (ハイブリッド開催)

山本 寛, 村澤秀樹, 下妻晃二郎, 有馬久富

多施設共同研究: 高度肥満症に対する肥満外科治療の費用対効果に関する研究の進捗報告

第39回日本肥満症治療学会, 2022年3月, 横浜 (ハイブリッド開催)

山本 寛, 神谷純広

肥満外科手術の普及に向けて

第34回内視鏡外科学会, 2021年12月, 神戸 (ハイブリッド開催)

山本 寛, 神谷純広, 井上健太郎, 岩田辰吾, 北濱誠一, 篠原 尚, 千野佳秀, 戸川 剛, 宮崎安弘, 山口 剛, 谷 眞至
「近畿肥満外科治療研究会」の取り組みと今後の課題

第34回内視鏡外科学会, 2021年12月, 神戸 (ハイブリッド開催)

山本 寛, 神谷純広, 馬場真奈美, 上田浩史, 廣瀬京子, 古倉みのり

アンチエイジング医学としてのバリアトリック, メタボリックサージェリー

第21回抗加齢医学学会, 2021年6月, 京都 (ハイブリッド開催)

太田正之 (大分大学 消化器, 小児外科), 関 洋介, 大城崇司, 佐々木 章, 内藤 剛, 山口 剛, 稲嶺 進, 宮崎安弘,
井上健太郎, 山本 寛, 遠藤裕一, 猪股雅史, 笠間和典

肥満外科手術の最新のエビデンス 東アジア人に対する減量, 代謝改善手術後の糖尿病寛解予測スコアの比較

第34回内視鏡外科学会, 2021年12月, 神戸 (ハイブリッド開催)

地方独立行政法人 公立甲賀病院 呼吸器外科

【論文発表】

〈英文学術論文〉

Kataoka Y, Fujita T, Hanaoka J.

Coincidence of thyroid transcription factor-1 positive thymoma and pulmonary adenocarcinoma.

Ann Thorac Surg, 2021. S0003-4975(21)01688-X, 2021

Fujita T, Kawaguchi Y, Kataoka Y, Hanaoka J.

Cardiac hemangioma producing pericardial effusion detected on thoracoscopic pericardial fenestration.

Ann Thorac Surg, 2021 Jul 28;S0003-4975(21)01292-3, 2021

【学会発表】

〈全国学会・地方会・その他〉

片岡瑛子, 藤田琢也

TTF-1 陽性胸腺腫と肺腺癌の重複腫瘍の1切除例

第38回日本呼吸器外科学会学術集会, 2021年5月, Web開催(長崎)

藤田琢也, 片岡瑛子

肺静脈の肺膿瘍穿破の一例

第38回日本呼吸器外科学会学術集会, 2021年5月, Web開催(長崎)

片岡瑛子, 藤田琢也, 徳岡駿一, 入山朋子, 加藤悠人, 福永健太郎

子宮頸癌の転移と鑑別を要した肺門部扁平上皮癌の1例

第44回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2021年6月, 名古屋(ハイブリッド開催)

片岡瑛子, 上田桂子, 川口庸, 五十嵐知之, 大塩恭彦, 藤田琢也, 寺本晃治, 花岡淳

肺がん間質線維芽細胞におけるCD271の役割

第80回日本癌学会学術総会, 2021年9月, 横浜(ハイブリッド開催)

片岡瑛子, 藤田琢也

外科的治療を施行した高齢者難治性気胸の検討

第74回日本胸部外科学会定期学術集会, 2021年10月, 東京

片岡瑛子, 加藤悠人, 福永健太郎, 藤田琢也

血痰・血胸を認めた肺紡錘細胞癌の1例

第62回日本肺癌学会学術集会, 2021年11月, 横浜(ハイブリッド開催)

藤田琢也, 片岡瑛子

ALK陽性肺大細胞神経内分泌癌の一例

第62回日本肺癌学会学術集会, 2021年11月, 横浜(ハイブリッド開催)

医療法人社団昂会湖東記念病院 心臓血管外科

【論文発表】

〈英文学術論文〉

Kawahira T, Miyashita F, Suzuki T.

Rare case of ruptured muscular ventricular septal aneurysm due to silent myocardial ischemia in adult.
J Surg Case Rep, 2022(5): 1-3, 2022

【学会発表】

〈全国学会・地方会・その他〉

宮下史寛, 川平敏博, 高島範之, 鈴木友彰

保存期慢性腎臓病患者の腎動脈下腹部大動脈瘤に対する人工血管置換術とステントグラフト内挿術の術後急性腎障害の比較検討

第52回日本心臓血管外科学会学術総会, 2022年3月, 横浜 (ハイブリッド開催)

宮下史寛, 川平敏博, 鈴木友彰

成人期に診断された右冠動脈肺動脈起始症に対して右冠動脈の再移植と主肺動脈閉鎖を行った一例

第35回日本冠疾患学会学術集会, 2021年12月, Web開催 (大阪)

独立行政法人地域医療機能推進機構 滋賀病院 外科

【論文発表】

〈和文学術論文〉

油木純一, 木田睦士, 児玉創太, 大恵匡俊, 八木俊和, 来見良誠

術中 ICG 蛍光法により腸管を温存した肝鎌状間膜裂孔ヘルニア嵌頓の1例

日本臨床外科学会雑誌, 83(3): 580-584, 2022

油木純一, 木田睦士, 児玉創太, 大恵匡俊, 八木俊和, 来見良誠

長期栄養管理目的の PEG と同時に修復術を行った食道裂孔ヘルニアの2例

日本臨床外科学会雑誌, 82(9): 1673-1678, 2021

中島滋美, 八木俊和, 早藤清行, 安藤美雪, 茶谷玲奈, 椿本由紀, 大原真理子, 藤井 誠, 長谷川 大, 藤山佳秀

新型コロナウイルス感染症の初年度死亡率からみた消化器がん検診の必要性

医学のあゆみ, 277(12): 1084-1085, 2021

【学会発表】

〈全国学会・地方会・その他〉

油木純一, 木田睦士, 児玉創太, 大恵匡俊, 八木俊和, 来見良誠

当院における絞扼性腸閉塞に対する術中 ICG 蛍光法の検討

第58回日本腹部救急医学会, 2022年3月, 東京

谷 陽良, 油木純一, 木田睦士, 児玉創太, 大恵匡俊, 梅田朋子, 八木俊和, 来見良誠

管外発育型 GIST と人工肛門が反復性腸閉塞を引き起こした症例

第205回近畿外科学会, 2022年3月, Web開催

油木純一, 木田睦士, 児玉創太, 大恵匡俊, 八木俊和, 来見良誠

経皮内視鏡的胃瘻造設を目的として腹腔鏡下に食道裂孔ヘルニアを修復した2例の検討

第19回日本ヘルニア学会, 2021年5月, 東京 (ハイブリッド開催)

油木純一, 木田睦士, 児玉創太, 大恵匡俊, 八木俊和, 来見良誠
 嵌頓人工肛門脱出に対して自動縫合器で修復した2例の検討
 第83回日本臨床外科学会, 2021年11月, 東京 (ハイブリッド開催)

油木純一, 木田睦士, 児玉創太, 大恵匡俊, 八木俊和, 来見良誠
 IR (赤外光) 観察により腸管切除を回避可能であった肝鎌状間膜裂肛ヘルニア嵌頓の1例
 第118回滋賀県外科医会, 2021年10月, 大津 (ハイブリッド開催)

八木俊和
 在宅半固形栄養指導管理料と栄養管セット加算の運用状況について (アンケートから)
 第26回 滋賀 PEG ケアネットワーク, 2021年11月, Web 開催

独立行政法人地域医療機能推進機構 滋賀病院 乳腺外科

【論文発表】

〈和文学術論文〉

児玉創太, 八木俊和, 安 炳九, 梅田朋子, 内藤弘之, 安藤勝宏, 来見良誠
 当院における腹腔鏡下食道裂孔ヘルニア根治術の経験
 日本臨床外科学会雑誌, 82(4): 826, 2021

八木俊和, 長澤芳信, 児玉創太, 梅田朋子, 内藤弘之, 安東勝宏, 来見良誠
 大腸 EMR 後に発症した消化管穿孔を伴わない気腹症の1例
 日本臨床外科学会雑誌, 82(4): 831-832, 2021

梅田朋子, 内藤弘之, 八木俊和, 児玉創太, 長澤芳信, 辰巳征浩, 竹林紀子, 中島滋美, 馬野真次, 吉田章子,
 竹村しづき, 杉原洋行, 真鍋俊明, 九嶋亮治, 来見良誠
 当院における遠隔病理診断ネットワークを利用した乳癌手術
 日本臨床外科学会雑誌, 82(5): 1036, 2021

木田睦士, 辰巳征浩, 児玉創太, 大恵匡俊, 梅田朋子, 八木俊和, 来見良誠
 食道裂孔ヘルニアに対し腹腔鏡下に根治術を施行した5例
 日本臨床外科学会雑誌, 82(5): 1041, 2021

辰巳征浩, 児玉創太, 八木俊和, 長澤芳信, 木田睦士, 梅田朋子, 内藤弘之, 来見良誠
 当院における90歳以上の手術症例の検討
 日本臨床外科学会雑誌, 82(5): 1036, 2021

【学会発表】

〈全国学会・地方会・その他〉

梅田朋子
 最近の話題 ～プレストアウエアネスとコロナワクチン接種後のリンパ節腫大について～
 滋賀県乳癌検診従事者講習会, 2022年9月, Web 開催 (大津)

梅田朋子, 河合由紀, 富田 香, 北村美奈, 辰巳征浩, 油木純一, 八木俊和, 澤田佳奈, 油木映里, 谷 眞至
 HER2 陽性骨リンパ節再発乳癌、長期治療中に発生した間質性肺炎の1例
 第29回日本乳癌学会学術総会, 2021年7月, 横浜 (ハイブリッド開催)

辰巳征浩, 梅田朋子, 油木純一, 八木俊和, 来見良誠, 谷 眞至
 疼痛を主訴として受診した乳房神経鞘腫の1例
 第29回日本乳癌学会学術総会, 2021年7月, 横浜 (ハイブリッド開催)

北村美奈, 河合由紀, 勝本さえ子, 辰巳征浩, 富田 香, 森 毅, 梅田朋子, 谷 眞至
当院におけるコンパニオン診断と HBOC 診断のための BRCA1/2 遺伝子検査の現状について
第 29 回日本乳癌学会学術総会, 2021 年 7 月, 横浜 (ハイブリッド開催)

社会医療法人天神会 新古賀病院 消化器外科

【学会発表】

〈全国学会・地方会・その他〉

池添清彦, 松吉隆仁, 東島亘宏, 吉成美喜, 新上浩司, 馬場活嘉, 山方伸茂, 宇治祥隆, 高尾貴史
当院におけるロボット支援下直腸癌手術導入期の短期成績
第 19 回日本消化器外科学会大会, 2021 年 11 月, 神戸 (ハイブリッド開催)

篠原英仁, 松吉隆仁, 東島亘宏, 吉成美喜, 新上浩司, 馬場活嘉, 山方伸茂, 宇治祥隆, 池添清彦, 高尾貴史
門脈塞栓術と肝動脈塞栓術の併用で想定以上の代償性肝肥大が得られた 1 例
第 83 回日本臨床外科学会総会, 2021 年 11 月, 東京 (ハイブリッド開催)

篠原英仁, 松吉隆仁, 馬場活嘉
虫垂原発 GIST の 1 例
第 58 回九州外科学会, 2022 年 2 月, 久留米 (ハイブリッド開催)

社会医療法人高清会 高井病院 乳腺外科

【著書】

徳川奉樹, 蜂須賀 崇, 上野未智, 山崎静香, 田中瑞起, 小松 諭, 徳川 香, 上茂名保美, 仲川真弓
早期リンパ浮腫診断・治療での術前術後および浮腫発症時の超音波検査の有用性
日本リンパ浮腫治療学会雑誌, 5(1): 62-66, 2022

【学会発表】

〈全国学会・地方会・その他〉

Tomoki T, Kayo I, Katsuaki Y, Yoshie N, Takayuki M.

A case of lymph node metastasis after breast cancer with long-term anti-HER2 and CPT11 combination therapy in Late Phase.

第 59 回癌治療学会学術総会, 2021 年 10 月, 横浜 (ハイブリッド開催)

徳川奉樹, 石本 悠, 金子純子, 池谷奈緒子, 山崎静香, 松田高幸

A case of 91-year-old super-elderly male breast cancer in which fulvestrant has been successful in relapse of axillary lymph node metastasis after breast cancer postoperative axillary lymph node recurrence.

第 29 回日本乳癌学会学術総会, 2021 年 7 月, 横浜 (ハイブリッド開催)

医療法人東和会 第一東和会病院 内視鏡外科センター

【学会発表】

〈全国学会・地方会・その他〉

千野佳秀, 水谷 真, 佐藤 功, 藤村昌樹他

腹腔鏡下総胆管切石術における胆管切開と縫合

第 10 回腹腔鏡下胆道手術手技研究会, 2022 年 1 月, Web 開催

医療法人医仁会 武田総合病院 呼吸器外科

【論文発表】

〈和文学術論文〉

鈴木雄治, 北村将司

胸腔ドレナージ後に発症し外科治療を施行した胸囲結核の 2 例

日本臨床外科学会雑誌, 82(6): 1089-1097, 2021

【学会発表】

〈全国学会・地方会・その他〉

北村将司, 赤澤 彰, 鈴木雄治

自己心膜チューブグラフトを用いて上大静脈再建を施行した未熟奇形腫の 1 例

第 38 回日本呼吸器外科学会学術集会, 2021 年 5 月, Web 開催 (長崎)

北村将司, 赤澤 彰, 鈴木雄治

心タンポナーデ症状により切除診断に至った心膜中皮腫の 1 例

第 38 回日本呼吸器外科学会学術集会, 2021 年 5 月, Web 開催 (長崎)

北村将司, 赤澤 彰, 鈴木雄治

気管腕頭動脈瘻に対して腕頭動脈コイル塞栓術を施行した 1 例

第 44 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2021 年 6 月, 名古屋 (ハイブリッド開催)

北村将司, 赤澤 彰, 鈴木雄治

肺部分切除術後の難治性気腫に対して EWS が有効であった 1 例

第 44 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2021 年 6 月, 名古屋 (ハイブリッド開催)

北村将司, 苗村佑樹, 鈴木雄治

右肺癌全摘後 15 年を経て左小細胞肺癌と進行大腸癌を認めるも長期生存が得られている 1 例

第 62 回日本肺癌学会学術集会, 2021 年 11 月, 横浜 (ハイブリッド開催)

北村将司, 苗村佑樹, 鈴木雄治

三葉合流部肺癌に対して胸腔鏡下右肺 S2+S6 区域切除+中葉部分切除施行した 1 例

第 62 回日本肺癌学会学術集会, 2021 年 11 月, 横浜 (ハイブリッド開催)

北村将司, 苗村佑樹, 鈴木雄治

肺癌術後間質性肺炎急性増悪に対するステロイド治療中に縦隔気腫を認めた 1 例

第 62 回日本肺癌学会学術集会, 2021 年 11 月, 横浜 (ハイブリッド開催)

苗村佑樹, 北村将司, 鈴木雄治

悪性中皮腫疑いに対する胸腔鏡下胸膜生検で Erdheim-Chester disease の診断が得られた 1 例

第 62 回日本肺癌学会学術集会, 2021 年 11 月, Web, 横浜 (ハイブリッド開催)

日本医科大学付属病院 消化器外科

【著書】

園田寛道, 山田岳史

Q11 腹腔鏡・胸腔鏡手術って何？どんなメリットがあるの？ Q12 ロボット手術って何？どんなメリットがあるの？
がん患者さんと家族のはてなにこたえる Q & A100, 2022

園田寛道, 山田岳史

その他の腫瘍性疾患, Q98.100.103.104.105.113.115

これだけは読んでおきたい！消化器外科医のための重要論文 223 篇, 2021

【論文発表】

〈英文学術論文〉

Sasaki N, Shinji S, Shichi Y, Ishiwata T, Arai T, Yamada T, Takahashi G, Ohta R, Sonoda H, et al.

TGF- β 1 increases cellular invasion of colorectal neuroendocrine carcinoma cell line through partial epithelial-mesenchymal transition.

Biochem Biophys Rep, 30: 101239, 2022

Ueda K, Yamada T, Ohta R, Matsuda A, Sonoda H, et al.

BRAF V600E mutations in right-side colon cancer: Heterogeneity detected by liquid biopsy.

Eur J Surg Oncol, S0748-7983(22)00042-7, 2022

Nanno K, Shinji S, Yamada T, Matsuda A, Ohta R, Sonoda H, et al.

A case of a fixed giant peritoneal loose body outside the peritoneum beside the rectovesical excavation.

J Nippon Med Sch, 2022

Shinji S, Shichi Y, Yamada T, Takahashi G, Ohta R, Sonoda H, et al.

Establishment and characterization of a novel anorectal melanoma cell line derived from primary human rectal tumor.

J Nippon Med Sch, 2022

Shinji S, Yamada T, Matsuda A, Sonoda H, et al.

Recent advances in the treatment of colorectal cancer: A review.

J Nippon Med Sch, 2022

Matsuda A, Yamada T, Takahashi T, Hirata K, Nagasaka T, Ishimaru K, Sakamoto K, Koda K, Ishikawa T, Ishida H, Matsuda K, Kuramochi H, Yoshida Y, Sonoda H, Yoshida H.

A trial protocol of precision medicine for patients with RAS wild metastatic colorectal cancer using liquid biopsy (RAS-liquid study): A prospective, multicenter observational study.

J Anus Rectum Colon, 28.6(1): 52-57, 2022

Sonoda H, Yamada T, Matsuda A, et al.

Elevated serum carcinoembryonic antigen level after curative surgery is a prognostic biomarker of stage II-III colorectal cancer.

Eur J Surg Oncol, 47(11): 2880-2887, 2021

Sonoda H, Yamada T, Hirata K, et al.

A trial protocol to investigate the incidence of postoperative bowel obstruction after laparoscopic colorectal cancer surgery using an absorbable adhesion barrier material (INTERCEED[®]) (balsam CEED study): A prospective, multicenter, observational study.

J Anus Rectum Colon, 28.5(4): 414-418, 2021

Takeda K, Matsuda A, Yamada T, Shinji S, Ohta R, Sonoda H, et al.
Useful preoperative simulation for laparoscopic surgery of rectal cancer with kyphosis.
J Nippon Med Sch, 2021

Takeda K, Matsuda A, Yamada T, Shinji S, Ohta R, Sonoda H, et al.
Useful preoperative simulation for laparoscopic surgery of rectal cancer with kyphosis.
J Nippon Med Sch, 2021

Ankoh K, Shinji S, Yamada T, Matsuda A, Ohta R, Sonoda H, et al.
A rapidly growing small intestinal metastasis from lung cancer.
J Nippon Med Sch. doi: 10.1272/jnms.JNMS.2022_89-501, 2021

Ohta R, Yamada T, Sonoda H, et al.
Detection of KRAS mutations in circulating tumour DNA from plasma and urine of patients with colorectal cancer.
Eur J Surg Oncol, 47(12): 3151-3156, 2021

Kuramochi H, Yamada T, Yoshida Y, Matsuda A, Kamiyama H, Kosugi C, Ishibashi K, Fukazawa A, Ihara K, Sonoda H, et al.
The pre-treatment lymphocyte-to-monocyte ratio predicts efficacy in metastatic colorectal cancer treated with TAS-102 and Bevacizumab.
Anticancer Res, 41(6): 3131-3137, 2021

Matsuda A, Yamada T, Takahashi G, Toyoda T, Matsumoto S, Shinji S, Ohta R, Sonoda H, et al.
Does the diameter of colonic stent influence the outcomes in bridge-to-surgery patients with malignant large bowel obstruction?
Surg Today, 51(6): 986-993, 2021

〈和文学術論文〉

山田岳史, 太田 竜, 松田明久, 園田寛道, 進士誠一, 吉田 寛
リキッドバイオプシーの現況と展望
日本外科学会雑誌, 122(5): 494-498, 2021

【学会発表】

〈全国学会・地方会・その他〉

園田寛道, 山田岳史, 松田明久, 他
術後 CEA 値による Stage II-III 大腸癌の再発リスク判定
第 121 回日本外科学会定期学術集会, 2021 年 4 月, 千葉 (ハイブリッド開催)

園田寛道, 山田岳史, 松田明久, 他
高リスク Stage II 及び低リスク Stage III 大腸癌の予後因子の検討
第 76 回日本消化器外科学会総会, 2021 年 7 月, 京都 (ハイブリッド開催)

園田寛道, 山田岳史, 松田明久, 他
高齢者進行直腸癌に対する術前化学療法の取り組み
第 76 回日本大腸肛門病学会, 2021 年 11 月, 広島 (ハイブリッド開催)

園田寛道, 山田岳史, 松田明久, 他
腫瘍組織における RAS status は直腸癌における術前化学療法の予後予測因子となる
第 19 回日本消化器外科学会大会, 2021 年 11 月, 神戸 (ハイブリッド開催)

園田寛道, 山田岳史, 松田明久, 他
直腸癌に対する術前化学療法の有用性と効果, 再発予測における liquid biopsy の可能性
第 46 回日本外科系連合学会学術集会, 2021 年 6 月, 東京 (ハイブリッド開催)

園田寛道, 山田岳史, 松田明久, 他
70歳以上の高齢者進行直腸癌に対する術前化学療法
第95回大腸癌研究会, 2021年7月, 旭川 (ハイブリッド開催)

園田寛道, 山田岳史, 松田明久, 他
直腸癌術前化学療法後の腹腔鏡下手術における縫合不全の予後に対する影響
第34回日本外科感染症学会総会学術集会, 2021年12月, 北九州 (ハイブリッド開催)

のじまバスキュラーアクセスクリニック

【論文発表】

〈英文学術論文〉

Nojima T, Motomiya Y.
Pathophysiology of high flow access and surgical flow reduction procedures.
Kidney and dialysis, 1(1): 34-46, 2022

〈和文学術論文〉

野島武久
動画で見るアクセス治療
日本透析医会雑誌, 36(3): 598-599, 2021

【学会発表】

〈国際学会〉

(特別講演)

野島武久
用動画看造瘻手術及其并发症治疗
中日终末期肾病一体化管理, 2021年5月, 遼寧省大連市

野島武久
血管通路维护现状及最新研究分享
大连星海慢性肾脏病一体化诊疗国际高峰论坛, 2021年8月, 遼寧省大連市 (Video Session)

〈全国学会・地方会・その他〉

野島武久
Vascular Access Video Live 教えて!野島先生!
VAIVT Academy 特別企画, 2022年1月, Webinar

野島武久, 本宮康樹
血栓性閉塞アクセスに対する当院でのVAIVTの現況
第27回透析バスキュラーアクセスインターベンション治療医学会学術集会・総会, 2022年3月, 東京

野島武久
動画で見るアクセス治療
第44回青森人工透析研究会, 2021年6月, 弘前

野島武久
シャント閉塞症例の検討
第13回究道会, 2021年6月, 大阪

野島武久

透析医療におけるアクセスの周術期管理

第10回西部地区腎不全ネットワークを考える会, 2021年6月, 横浜

野島武久

動画で見るシャント作製手技の基本と落とし穴

南房総アクセス web セミナー, 2021年6月, 鴨川

野島武久

できるオトナのアクセスデバイス徹底討論

第15回日本透析クリアランスギャップ研究会学術集会, 2021年8月, 横浜

野島武久, 本宮康樹

そのシャント手術承ります

第25回日本透析アクセス医学会学術集会・総会, 2021年11月, 幕張

野島武久

アクセスへのアクセス

第14回究道会, 2021年11月, 大阪

医療法人晋真会ベリタス病院 消化器・一般外科

【論文発表】

〈和文学術論文〉

瀬戸山 博, 高畑 香, 橋元由季子 ほか

治療から看取りまでの療養を包括的に支援するベリタス病院外科の地域医療連携

滋賀医科大学雑誌, 35(1): 41-45, 2022

【学会発表】

〈全国学会・地方会・その他〉

瀬戸山 博, 瀬崎明子, 田和菜穂子 ほか

患者療養生活を地域医療連携で支えるベリタス病院の取り組み

第26回日本緩和医療学会学術大会, 2021年6月, 横浜 (ハイブリッド開催)

瀬崎明子, 瀬戸山 博 ほか

当院における非がん疾患への緩和ケア介入の困難さを考える

第26回日本緩和医療学会学術大会, 2021年6月, 横浜 (ハイブリッド開催)

瀬戸山 博

COVID-19 クラスターに対する取束と診療再開へ向けた病院組織対応の事例報

第23回日本医療マネジメント学会学術集会, 2021年6月, Web 開催 (大阪)

社会医療法人 生長会 ベルランド総合病院 外科

【学会発表】

〈全国学会・地方会・その他〉

福尾飛翔, 土橋洋史, 川崎誠康

当院における進行胃癌に対する術前化学療法の実状

第94回日本胃癌学会, 2022年3月, 横浜 (ハイブリッド開催)

福尾飛翔, 土橋洋史, 川崎誠康

術前に診断しえた成人腸回転異常症に発症した急性虫垂炎の1例

第205回近畿外科学会, 2022年3月, Web開催 (京都)

川崎誠康

進化する消化器癌治療、ロボット支援下手術

大阪府保険医協会 外科・整形外科部会 外科・整形外科 開業医のつどい, 2021年2月, 大阪

川崎誠康

ロボット支援下直腸癌手術導入後2年経過した当科の現状と課題

消化器がん免疫療法講演会 in 南大阪, 2021年6月, 大阪

川崎誠康, 土橋洋史, 福尾飛翔

大腸癌 閉鎖時腹腔洗浄細胞診陽性を示す症例に相関する因子の検討

第76回日本消化器外科学会総会, 2021年7月, 京都 (ハイブリッド開催)

松永隆志, 庚 賢, 奥村 哲, 豊田 翔, 濱野玄弥, 宮内 智之, 安田 洋, 山本 堪介, 土橋 洋史, 小川 雅生, 川崎誠康, 亀山雅男

原発巣切除を施行した左側大腸癌イレウス80例の検討

第19回日本消化器関連学会週間日程企画プログラム, 2021年11月, 神戸

川崎誠康, 土橋洋史, 福尾飛翔

直腸癌術前放射線化学療法の実状と再発対策についての検討

第76回日本大腸肛門病学会学術集会, 2021年11月, 広島 (ハイブリッド開催)

川崎誠康, 土橋洋史, 福尾飛翔

直腸癌ロボット支援下手術導入後における当科の現状と今後の課題

第83回日本臨床外科学会総会, 2021年11月, 新宿 (ハイブリッド開催)

土橋洋史, 福尾飛翔, 川崎誠康

仙骨前嚢胞性腫瘍の4例

第83回日本臨床外科学会総会, 2021年11月, 新宿 (ハイブリッド開催)

川崎誠康, 土橋洋史, 福尾飛翔

術前減圧処置を行った閉塞性大腸癌に対する腹腔鏡下手術の実状

第34回日本内視鏡外科学会総会, 2021年12月, 神戸 (ハイブリッド開催)

土橋洋史, 福尾飛翔, 川崎誠康

急性胆嚢炎に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術の手術時間延長に関する検討

第34回日本内視鏡外科学会総会, 2021年12月, 神戸 (ハイブリッド開催)

社会医療法人 生長会 ベルランド総合病院 乳腺センター

【論文発表】

〈和文学術論文〉

芳川裕美子, 阿部 元, 大原亜子, 鎗山憲人, 米田玄一郎

乳腺偽血管腫様過形成の1例

滋賀医科大学雑誌, 35(1): 20-23, 2022

阿部 元, 大原亜子, 竹井裕美子, 鎗山憲人, 寺本敦子, 米田玄一郎

乳腺顆粒細胞腫の1例

臨牀と研究, 98(8): 987-990, 2021

寺本敦子, 竹井裕美子, 田中義人, 米田玄一郎, 阿部 元

肺動脈楔入血細胞診により肺動脈腫瘍塞栓症と診断し得た乳癌術後初再発の1例

乳癌の臨床, 36(3): 223-229, 2021

【学会発表】

〈全国学会・地方会・その他〉

阿部 元, 竹井裕美子, 大原亜子, 寺本敦子, 米田光里, 堀内俊孝, 長畑敏弘

広背筋費弁による乳房再建術後疼痛に対する持続傍脊椎ブロック野鎮痛効果

第29回日本乳癌学会総会, 2021年7月, 横浜 (ハイブリッド開催)

大原亜子, 竹井裕美子, 寺本敦子, 米田玄一郎, 阿部 元

G-CSF産生腫瘍の1例

第29回日本乳癌学会総会, 2021年7月, 横浜 (ハイブリッド開催)

竹井裕美子, 大原亜子, 米田玄一郎, 阿部 元

乳腺偽血管腫様過形成の1例

第29回日本乳癌学会総会, 2021年7月, 横浜 (ハイブリッド開催)

鎗山憲人, 大原亜子, 芳川裕美子, 米田玄一郎, 阿部 元

乳癌肺転移との鑑別に苦慮した2例

第19回日本乳癌学界近畿地方会, 2021年12月, 大阪

三菱京都病院 呼吸器外科

【論文発表】

〈英文学術論文〉

Hiramoto T, Taniyama T, Kikuchi A, Hori T, Yoshioka A, Inoue A.

Effects of molecular targeting agents and immune-checkpoint inhibitors in patients with advanced cancer who are near the end of life.

Palliat Support Care, 17: 1-6, 2021

Ishiki H, Hasuo H, Matsuda Y, Matsuoka H, Hiramoto S, Higuchi M, Yoshida K, Tokoro A, Hatano Y, Hori T, Kinkawa J, Nojima M.

Prevalence of myofascial pain syndrome and efficacy of trigger point injection in patients with incurable cancer: A multicenter, prospective observational study, (MyCar study).

Pain Med, 2021

独立行政法人国立病院機構 南京都病院 呼吸器外科

【著書】

大塩麻友美, 角 謙介 他
救急外来、ここだけの話, 111-117, 2021

【論文発表】

〈英文学術論文〉

Hashimoto M, Sawai S, Oshio M, Yoden M and Takeda K.
The risk of footswitch misstep during robot-assisted thoracoscopic surgery: A case report.
Journal of Surgical Case Reports, 12: 1-2, 2021

〈和文学術論文〉

橋本雅之, 余田 誠, 武田恵子, 大塩麻友美, 澤井 聡
新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 肺炎に合併した気胸
胸部外科, 74(12): 992-995, 2021

【学会発表】

〈全国学会・地方会・その他〉

大塩恭彦, 赤澤 彰, 林 一喜, 白鳥琢也, 賀来良輔, 岡本圭吾, 川口 庸, 大塩麻友美, 花岡 淳
肺癌術後経過観察中に癌胎児性抗原 (CEA) が季節変動した1症例
第38回日本呼吸器外科学会学術集会, 2021年5月, Web開催 (長崎)

橋本雅之, 益本貴人, 余田 誠, 武田恵子, 大塩麻友美, 澤井 聡
ロボット支援下肺葉切除術における肺動脈出血例の検討
第38回日本呼吸器外科学会学術集会, 2021年5月, Web開催 (長崎)

余田 誠, 益本貴人, 武田恵子, 大塩麻友美, 橋本雅之, 澤井 聡
サルコイドーシスに合併した胸腺原発類表皮嚢胞の一例
第38回日本呼吸器外科学会学術集会, 2021年5月, Web開催 (長崎)

益本貴人, 余田 誠, 武田恵子, 大塩麻友美, 橋本雅之, 澤井 聡
腔内結紮が有用であった肺切除を伴わない左主気管支管状切除の1例
第38回日本呼吸器外科学会学術集会, 2021年5月, Web開催 (長崎)

大塩恭彦, 赤澤 彰, 林 一喜, 白鳥琢也, 賀来良輔, 岡本圭吾, 川口 庸, 大塩麻友美, 仲川宏昭, 山口将司,
中野恭幸, 花岡 淳
CT like imaging を用いた術中の肺病変のより簡便な把握法の模索
第44回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2021年6月, 名古屋 (ハイブリッド開催)

大塩麻友美, 田畑寿子, 太田真紀子
ドロペリドールの硬膜外投与のより錐体外路症状を呈した月経随伴性気胸の1例
第75回国立病院総合医学会, 2021年10月, 京都 (ハイブリッド開催)

大塩麻友美, 田畑寿子, 佐藤敦夫
気管支結核後の左主気管支狭窄症に対する気管支鏡下バルーン拡張術の1例
第56回京都病院学会, 2021年10月, 京都 (ハイブリッド開催)

大塩麻友美, 大塩恭彦, 余田 誠, 武田恵子, 橋本雅之, 澤井 聡
肺癌術後経過観察中に癌胎児性抗原 (CEA) が季節変動した1症例
第62回日本肺癌学会学術集会, 2021年11月, 横浜 (ハイブリッド開催)

大塩恭彦, 渡辺敦子, 益本貴人, 白鳥琢也, 林一喜, 上田桂子, 岡本圭吾, 賀来良輔, 川口庸, 大塩麻友美, 花岡淳

単孔式肺癌手術における 8K カメラの使用経験

第 62 回日本肺癌学会学術集会, 2021 年 11 月, 横浜 (ハイブリッド開催)

医療法人社団緑成会 横浜総合病院 ハートセンター (心臓血管外科)

【論文発表】

〈英文学術論文〉

Higashita R, Nakayama Y, Shiraishi Y, Iwai R, Inoue Y, Yamada A, Terazawa T, Tajikawa T, Miyazaki M, Ohara M, Umeno T, Okamoto K, Oie T, Yambe T, Miyamoto S.

Acute phase pilot evaluation of small-diameter long in-body tissue architecture (iBTA)-induced vascular graft "Biotube" in a goat model.

EJVES Vascular Forum, 54: 27-35, 2022

Nakayama Y, Higashita R, Shiraishi Y, Umeno T, Tajikawa T, Yamada Y, Mori K, Miyazaki M, Ohara M, Iwai R, Terazawa T, Oie T, Miyamoto S.

iBTA-induced Biotube[®] blood vessels: 2020 Update.

Kidney and Dialysis, 1: 3-13, 2021

Samura M, Takeda K, Yamamoto R, Ito H, Nagumo F, Uchida M, Kurata T, Koshioka S, Enoki Y, Taguchi K, Higashita R, Kunika N, Tanikawa K, Matsumoto K.

Population pharmacokinetic analysis and dosing optimization based on unbound daptomycin concentration and cystatin C in nonobese elderly patients with hypoalbuminemia and chronic kidney disease.

Pham Res, 38: 1041-1055, 2021

Samura M, Hirose N, Kurata T, Takada K, Nagumo F, Koshioka S, Ishii J, Uchida M, Inoue J, Enoki Y, Taguchi K, Higashita R, Kunika N, Tanikawa K, Matsumoto K.

Identification of risk factors for daptomycin-associated creatine phosphokinase elevation and development of a risk prediction model for incidence probability.

Open Forum Infectious Disease, 8(12): ofab568, 2021

【学会発表】

〈全国学会・地方会・その他〉

東田隆治

うっ滞性潰瘍の治療

第 49 回日本血管外科学会総会, 2021 年 5 月, Web 開催 (名古屋)

宮崎真奈美, 東田隆治, 大井正也

Global Vascular Guideline を踏まえた当院における重症虚血肢の治療戦略

第 49 回日本血管外科学会総会, 2021 年 5 月, Web 開催 (名古屋)

伊藤信一郎, 白石泰之, 山田昭博, 東田隆治, 宮崎真奈美, 小原まみ子, 杉田典大, 吉澤誠, 中山泰秀, 山家智之

非接触高速度画像による末梢循環の可視化と脈波伝播速度推定の試み

第 59 回日本人工臓器学会大会, 2021 年 11 月, 東京

東田隆治

抗菌性創傷治療被覆材を用いた足病変治療の実際

第 2 回フットケア・足病医学会総会, 2021 年 12 月, 横浜

医療法人社団 洛和会音羽病院 呼吸器外科

【学会発表】

〈全国学会・地方会・その他〉

堀本かんな，一瀬増太郎，上田桂子

胸腔鏡下手術で確定診断が得られた肺類上皮血管内皮腫の2例

第38回日本呼吸器外科学会学術集会，2021年5月，Web開催（長崎）

一瀬増太郎，堀本かんな，上田桂子，岡本圭伍

術後再発に対し Pembrolizumab が奏効し長期生存が得られている肺多形癌の一例

第38回日本呼吸器外科学会学術集会，2021年5月，Web開催（長崎）

石田真樹，鈴木潤，坂口才，田宮暢代，土谷美知子，長坂行雄，上田桂子，一瀬増太郎

刺青とサルコイドーシス発症の関連が示唆された一例

第41回日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会，2021年10月，大阪（ハイブリッド開催）

一般社団法人滋賀医科大学外科同門会

■ 役 員

■ 定 款

■ 賛助会員一覧

■ 広告掲載ご協力

一般社団法人滋賀医科大学外科同門会役員・委員

2022年1月～

〔理事 長〕 ・谷 徹

〔副 理 事 長〕 ・平 野 正 満

〔理 事〕 ・小 玉 正 智 ・浅 井 徹
・谷 眞 至 ・鈴木 友 彰 (2022 年度会長)
・井 上 修 平 (教育・学術) ・江 口 豊 (教育・学術)
・遠 藤 善 裕 (広報) ・白 石 昭一郎 (広報)
・花 岡 淳 (会計) ・木 築 野百合 (会計)

〔監 事〕 ・寺 田 信 國 ・加 藤 弘 文

〔代 議 員〕 ・梅 田 朋 子 ・岡 藤 太 郎 ・尾 崎 良 智
・木 下 武 ・畔 柳 智 司 ・澤 井 聡
・塩 見 尚 礼 ・清 水 智 治 ・内 藤 弘 之
・仲 成 幸 ・生 内 一 夫 ・松 林 景 二
・水 黒 知 行 ・村 田 聡 ・目 片 英 治
・横 田 徹

〔事 務 局 長〕 ・仲 成 幸

〔委 員 会 委 員〕

(会計・総務) ・神 谷 賢 一 ・清 水 智 治
(選挙管理委員会) ・川 口 庸 ・目 片 英 治 ・岡 本 圭 伍
(企画(教育・学術)) ・村 田 聡 ・三 宅 亨
(広報) ・山 口 剛 ・高 島 範 之
(講座事務局) ・三 宅 亨 ・富 田 香 ・大 塩 恭 彦
・高 島 範 之

名 誉 会 員 ・小 玉 正 智 ・浅 井 徹 ・(故)岡 田 慶 夫

一般社団法人滋賀医科大学外科同門会定款

第1章 総則

(名称)

第1条 当法人は、一般社団法人滋賀医科大学外科同門会と称する。

(主たる事務所の所在地)

第2条 当法人は、主たる事務所を滋賀県大津市に置く。

2. 当法人は、理事会の決議により前項のほか、従たる事務所を必要な場所に置くことができる。

(目的)

第3条 当法人は、外科に関する学術の研鑽、普及及び滋賀医科大学外科学講座の発展と向上及び地域における外科医療の充実を目的とする。

(事業)

第4条 当法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 学術振興及び研究援助
- (2) 滋賀医科大学外科学講座の拡充と設備の強化及びその助成
- (3) 外科を志す人材勧誘活動とその支援
- (4) 関連病院及び地域医療機関との連携強化
- (5) 会員相互の親睦をはかるための行事
- (6) その他当法人の目的達成に必要と認められる事業

(公告方法)

第5条 当法人の公告方法は、主たる事務所の公衆の見やすい場所に掲示する方法により行う。

(機関)

第6条 当法人の機関として、社員総会及び理事以外に理事会及び監事を置く。

第2章 会員及び社員

(会員の資格及び社員)

第7条 当法人の会員は、次の5種とし、当法人の目的に賛同するものは、当法人の会員になることができる。

- (1) 正会員 滋賀医科大学外科学講座の過去または現在の在籍者、及び希望者
- (2) 特別会員 滋賀医科大学外科学講座の非常勤講師、あるいはこれに準じるもの
- (3) 賛助会員 法人の事業を賛助する団体及び個人
- (4) 名誉会員 原則として理事長を務めた者の中から、理事会の議を経て推薦されたもの
- (5) 休会会員 正会員のうち、休会を希望するもの

2. 当法人に第3章の規定に基づき正会員の中から選出された代議員を置き、代議員をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下「法人法」という。）上の社員とする。

(正会員の権利)

第8条 正会員は、第3章に定める代議員選挙の選挙権及び被選挙権を等しく有するほか、法人法に規定された次に掲げる権利を代議員（社員）と同様に当法人に対して行使することができる。

- (1) 法人法第14条第2項に定める権利（定款の閲覧等）
- (2) 法人法第32条第2項に定める権利（社員名簿の閲覧等）
- (3) 法人法第50条第6項に定める権利（社員の代理権証明書面等の閲覧等）
- (4) 法人法第52条第5項に定める権利（電磁的方法による議決権行使記録の閲覧等）
- (5) 法人法第57条第4項に定める権利（社員総会の議事録の閲覧等）
- (6) 法人法第129条第3項に定める権利（計算書類等の閲覧等）
- (7) 法人法第229条第2項に定める権利（清算法人の貸借対照表の閲覧等）
- (8) 法人法第246条第3項、第250条第3項及び第256条第3項に定める権利（合併契約等の閲覧等）

(入会)

第9条 当法人の会員となるには、当法人所定の入会申込書により入会の申し込みをし、理事会の承認を得なければならない。

(入会金及び会費)

第10条 正会員は、当法人の目的を達成するため、それに必要な経費を支払う義務を負う。

2. 正会員は、社員総会において別に定める入会金及び会費を納入しなければならない。なお、会員に関するその他の事項は、別に定める細則によるものとする。

(会員名簿)

第11条 当法人は、会員の氏名又は名称及び住所を記載した会員名簿（この名簿は、正会員につき法人法上の「社員名簿」を兼ねるものとする。）を作成し、当法人の主たる事務所に据え置くものとする。

(会員の資格喪失)

第12条 会員は、次の各号の一に該当する場合には、その資格を喪失する。

- (1) 退会したとき
- (2) 成年被後見人又は被補佐人になったとき
- (3) 死亡し、若しくは失踪宣告を受け、又は解散したとき
- (4) 正当な理由無く3年以上会費を滞納し、催告を受けてもそれに応じず、納入しないとき
- (5) 除名されたとき

(退会)

第13条 会員は、理事長が別に定める退会届を理事長に提出して、任意に退会することができる。

(除名)

第14条 当法人の会員が、当法人の名誉を棄損し、若しくは当法人の目的に反する行為をしたとき、又は社員としての義務に違反したときは、法人法第49条第2項に定める社員総会の特別決議により除名することができる。この場合、その会員に対し、議決の前に弁明の機会を与えなければならない。

(提出金品の不返還)

第15条 既納の入会金、会費及びその他の提出金品は、返還しない。

第3章 代議員

(代議員)

第16条 当法人に代議員を置き、概ね正会員数の7%の割合で選出された代議員をもって、法人法上の社員とする（端数の取扱いについては理事会で定める。）。2. 代議員は、第12条に掲げる事由により退会した場合は、法人法上の社員としての地位を喪失し、退社するものとする。

3. 代議員が理事となった場合には、代議員を辞任するものとする。

(代議員の選出)

第17条 代議員は、正会員による代議員選挙により選出する。代議員の選挙を行うために必要な細則は理事会において定める。

2. 正会員は、他の正会員と等しく代議員選挙に立候補し又は代議員を選挙する権利を有する。理事及び理事会は、代議員を選出することはできない。

(任期)

第18条 代議員の任期は、選出後3年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会（定時代議員総会）の終結の時までとする。

ただし、任期満了後においても後任者が選出されるまではその職務を行わなければならない。

また、代議員が社員総会決議取消しの訴え、解散の訴え、責任追及の訴え及び役員解任の訴え（一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下「法人法」という。）第266条第1項、第268条、第278条、第284条）を提起している場合（法人法第278条第1項に規定する訴えの提起の請求をしている場合を含む。）には、当該訴訟が終結するまでの間、当該代議員は社員たる地位を失わない。当該代議員は、役員を選任及び解任（法人法第63条及び第70条）並びに定款変更（法人法第146条）についての議決権を有しないこととする。

2. 任期満了前に退任した代議員の補欠として選出された者の任期は、前任者の任期の残存期間と同一とする。
3. 増員により選出された代議員の任期は、他の代議員の任期の残存期間と同一とする。

（補欠代議員の予選）

第19条 代議員が欠けた場合又は代議員の員数を欠くこととなるときに備えてあらかじめ補欠の代議員を選出することができる。この場合の代議員の任期は、前任者の任期の残存期間と同一とする。

2. 補欠の代議員を予選する場合には、次に掲げる事項も併せて決定しなければならない。

- (1) 当該候補者が補欠の代議員である旨
 - (2) 当該候補者を1人又は2人以上の特定の代議員の補欠の代議員として選出するときは、その旨及び当該特定の代議員の氏名
 - (3) 同一の代議員（2人以上の代議員の補欠として選出した場合にあつては、当該2人以上の代議員）につき2人以上の補欠の代議員を選出するときは、当該補欠の代議員相互間の優先順位
3. 第1項の補欠代議員の予選に係る議決が効力を有する期間は、当該議決後3年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会（定時代議員総会）の終結の時までとする。

第4章 社員総会

（招集等）

第20条 社員総会は、第3章に定める代議員をもって組織する。

2. 前項の社員総会をもって法人法上の社員総会とする。
3. 当法人の社員総会は、定時社員総会と臨時社員総会があるものとし、定時社員総会は毎事業年度終了後2ヶ月以内に、臨時社員総会は必要がある場合に臨時開催する。
4. 社員総会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事長が招集する。
5. 総社員の5分の1の議決権を有する社員は、理事長に対し、社員総会の目的である事項及び招集の理由を示して社員総会の招集を請求することができる。
6. 社員総会の議長は、理事長がこの任に当たる。ただし、理事長に事故若しくは支障があるときは副理事長がこれに代わる。
7. 社員総会の招集は、法令に別段の定めがある場合を除き、開催日の1週間前までに、その会議の日時、場所、及び目的である事項を記載した書面又は電磁的方法によって通知しなければならない。

（権 限）

第21条 社員総会は、当法人の最高議決機関として、次の事項について議決する。

- (1) 事業報告
- (2) 役員を選任又は解任
- (3) 定款の変更
- (4) 役員報酬等の額及び規定
- (5) 法人法第113条に規定する役員責任の一部免除
- (6) 会員の除名
- (7) 解散及び残余財産の処分
- (8) 理事会において社員総会に付議した事項
- (9) その他重要な事項

（議決権）

第22条 社員総会における議決権は、社員1人につき1個とする。

（定足数及び決議の方法）

第23条 社員総会は、総社員の過半数の出席がなければ開催することができない。

2. 社員総会の決議は、法令又はこの定款に定めがある場合を除き、総社員の議決権の過半数を有する社員が出席し、出席した当該社員の議決権の過半数をもって行う。
3. 前項に規定にかかわらず、次の決議は、総社員の半数以上であつて、総社員の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行う。
 - (1) 会員の除名
 - (2) 監事の解任
 - (3) 役員等の責任の一部免除
 - (4) 定款の変更
 - (5) 解散
 - (6) その他法令で定められた事項

（書面表決等）

第24条 やむを得ない理由のために社員総会に出席できない社員は、あらかじめ通知された事項について書面をもって又は電磁的方法により表決し、若しくは他の会員を代理人として委任することができる。

2. 前項の場合における前条の規定については、その社員は出席したものとみなす。
3. 理事又は社員が社員総会の決議の目的である事項について提案した場合において、その提案について社員の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その提案を可決する旨の社員総会の決議があつたものとみなす。

（社員総会議事録）

第25条 社員総会の議事については、法令の定めるところにより議事録を作成し、社員総会の日から10年間主たる事務所に据え置く。

2. 議長は、前項に議事録に記名押印する。

第5章 役員等

（役員設置等）

第26条 当法人に次の役員を置く。理事3名以上15名以内 監事2名以内

2. 理事のうち1名を理事長、1名を副理事長、2名以内を会長とする。
3. 前項の理事長を法人法上の代表理事とする。

（事務局及び職員）

第27条 当法人に、事務を処理するため事務局を設け、事務局長及び必要な職員を置く。

2. 事務局長は、理事会の議決を経て理事長が委嘱し、職員は理事長が任免する。
3. 事務局の組織及び運営に関する必要な事項は、理事会の議決を経て理事長が別に定める。

（選任等）

第28条 理事及び監事は、社員総会の決議によって選任する。

2. 理事長、副理事長及び会長は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

（理事の職務権限）

第29条 理事長は、当法人を代表し、その業務を執行する。

2. 副理事長は理事長を補佐し、会長は、当法人の業務を分担執行する。
3. 事務局長は当法人の事務を執行する。
4. 理事長、会長及び事務局長は、毎事業年度毎に4ヶ月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務権限)

第30条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

2. 監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、当法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(任期)

第31条 理事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結の時までとし、再任を妨げない。

2. 監事の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会終結の時までとし、再任を妨げない。

3. 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。

4. 役員は、辞任又は任期の満了後において、定員を欠くに至った場合には、新たに選任された者が就任するまでは、その職務を行う権利義務を有する。

(解任)

第32条 役員は、社員総会の決議によって解任することができる。ただし、監事を解任する場合は、総社員の半数以上であって、総社員の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行わなければならない。

(報酬)

第33条 役員は、無報酬とする。

2. 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。

3. 前2項に関し必要な事項は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

(取引の制限)

第34条 理事が次に掲げる取引をしようとする場合は、理事会において、その取引について重要な事実を開示し、理事会の承認を得なければならない。

(1) 自己又は第三者のためにする当法人の事業の部類に属する取引

(2) 自己又は第三者のためにする当法人との取引

(3) 当法人がその理事の債務を保証することその他理事以外の者との間における当法人とその理事との利益が相反する取引

(責任の一部免除又は限定)

第35条 理事または監事は一般法人法第111条第1項の賠償責任について、法令に定める要件に該当する場合には、理事会の決議によって、賠償責任額から法令に定める最低責任限度額を控除して得た額を限度として免除することができる。

第6章 理事会

(構成)

第36条 当法人に理事会を置く。

2. 理事会は、すべての理事をもって構成する。

3. 監事は理事会に出席し、意見を述べる事ができる。

(権限)

第37条 理事会は、次の職務を行う。

(1) 当法人の業務執行の決定

(2) 理事の職務の執行の監督

(3) 理事長、副理事長及び会長の選定及び解職

(招集)

第38条 理事会は、理事長が招集する。

2. 理事長が欠けた時又は理事長に事故あるときは、各理事が理事会を招集する。

(議長)

第39条 理事会の議長は、理事長がこれに当たる。ただし、理事長が欠けたとき又は理事長に事故あるときは、理事長があらかじめ理事会の決議を経て定められた順位により他の理事がこれに代わるものとする。

(決議)

第40条 理事会の決議は、決議についての利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

(理事会の決議の省略)

第41条 理事が理事会の決議の目的である事項について提案をした場合において、当該提案につき議決に加わることができる理事の全員が書面により同意の意思表示をしたとき(監事が当該提案に異議を述べた場合を除く。)は、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなす。

(理事会議事録)

第42条 理事会の議事については、法令で定めるところにより議事録を作成する。

2. 出席した理事長及び監事は、前項の議事録に署名又は記名押印し、10年間当法人の主たる事務所に据え置くものとする。

(理事会規則)

第43条 理事会に関する事項は、法令又はこの定款に定めるもののほか、理事会において定める理事会規則による。

第7章 決算

(事業年度)

第44条 当法人の事業年度は、毎年12月1日から11月30日までの年1期とする。

(事業計画及び取予算)

第45条 当法人の事業計画及び取予算については、毎事業年度開始日の前日までに理事長が作成し、理事会の決議を経て社員総会の承認(理事会の承認)を受けなければならない。

2. 前項の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、理事長は、社員総会の決議に基づき、予算成立の日まで前年度の予算に準じ収入を得又は支出することができる。

3. 前項の収入支出は、新たに成立した予算の収入支出とみなす。

(事業報告及び決算)

第46条 当法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受け、理事会の承認を経て定時社員総会に提出し、第1号、第2号についてはその内容を報告し第3号から第5号の書類については承認を受けなければならない。

(1) 事業報告書

(2) 事業報告書の附属明細書

(3) 貸借対照表

(4) 損益計算書(正味財産増減計算書)

(5) 貸借対照表及び損益計算書(正味財産増減計算書)の附属明細書

2. 第1項の書類のほか、監査報告の書類を主たる事務所に5年間据え置くとともに、定款及び会員名簿を主たる事務所に据え置くものとする。

(剰余金の処分制限)

第47条 当法人は、会員その他の者に対し、剰余金の分配をすることができない。

(残余財産の帰属)

第48条 清算をする場合において、当法人の残余財産は、類似の事業を目的とする公益社団法人又は公益財団法人に帰属させるものとする。

2. 前項に規定する他の公益社団法人又は公益財団法人は、第17条に規定する社員総会の決議により定めるものとする。

一般社団法人 滋賀医科大学外科同門会 賛助会員一覧

2022年11月1日現在

赤穂市民病院
医療法人医仁会 武田総合病院
医療法人恭昭会 彦根中央病院
医療法人弘英会 琵琶湖大橋病院
医療法人弘正会 西京都病院
医療法人社団浅ノ川 心臓血管センター 金沢循環器病院
医療法人社団昂会 日野記念病院
医療法人社団昂会 湖東記念病院
医療法人社団美松会 生田病院
医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院
医療法人仁生会 甲南病院
医療法人総心会 長岡京病院
医療法人東和会 第一東和会病院
医療法人徳洲会 宇治徳洲会病院
医療法人徳洲会 近江草津徳洲会病院
医療法人徳洲会 岸和田徳洲会病院
医療法人芙蓉会 南草津病院
医療法人 マキノ病院
医療法人友仁会 友仁山崎病院
医療法人よつば会 くろづ外科医院
近江八幡市立総合医療センター
公益財団法人 近江兄弟社ヴォーリス記念病院
公益財団法人 豊郷病院
公立甲賀病院
国民健康保険 小松市民病院
社会医療法人誠光会 淡海医療センター
社会医療法人信愛会 暁生会脳神経外科病院
社会医療法人生長会 ベルランド総合病院
社会医療法人天神会 新古賀病院
社会福祉法人恩賜財団 済生会守山市民病院
独立行政法人国立病院機構 京都医療センター
独立行政法人国立病院機構 東近江総合医療センター
独立行政法人地域医療推進機構 滋賀病院
長浜市立湖北病院
長浜赤十字病院
三菱京都病院

一般社団法人滋賀医科大学外科同門会の活動に、ご支援ご協力を賜り誠にありがとうございました。

会員相互の親睦活動に加え、外科に関する学術の研鑽、若手外科医の育成、および地域の外科医療の発展になお一層尽力する活動を行っていく所存でございます。

一般社団法人 滋賀医科大学外科同門会

一般社団法人 滋賀医科大学外科同門会 広告掲載ご協賛

旭化成ファーマ株式会社

中外製薬株式会社

株式会社ジェイ・エム・エス

テルモ株式会社

ヴィアトリス製薬株式会社

日本化薬株式会社

エア・ウォーター・リンク株式会社

日本ライフライン株式会社

ノバルティスファーマ株式会社

石黒メディカルシステム株式会社

東レ・メディカル株式会社

日本メドトロニック株式会社

大鵬薬品工業株式会社

株式会社ツムラ

泉工医科工業株式会社

コヴィディエンジャパン株式会社

(申し込み順)

一般社団法人滋賀医科大学外科同門会誌発行にあたり、多くの皆様からご協賛いただきました。
ここに深く御礼申し上げます。

一般社団法人 滋賀医科大学外科同門会